

HISTORY

大分県立図書館百年史



大分県立図書館

大分県立図書館百年史



『大分県立図書館百年史』刊行に寄せて

大分県知事 広瀬 勝貞

大分県立図書館は本年2月で開館102年余、新館開館10周年を迎えます。

顧みますと、大分県立図書館は、明治35年5月大分県共立教育会附属大分図書館として開館し、福沢記念図書館、大分県立大分図書館、大分県立図書館へと変遷を重ね、平成14年には創立100周年を迎えたところです。

全国の都道府県立図書館のなかでも4番目という創立の早さは、郷土大分が輩出した先哲、福沢諭吉が著書『西洋事情』において、わが国に初めて近代図書館の概念を紹介していることも深く関係していると思います。

また、図書館・公文書館・博物館は文化の三本柱と称されておりますが、平成7年に開館いたしました「豊の国情報ライブラリー」（大分県立図書館・大分県公文書館・大分県立先哲史料館の複合施設）はまさにその三つの機能の拠点となっております。郷土大分には、そのような進取の気質が古来脈々と流れていると自負しております。

この度、開館100周年を記念して、『大分県立図書館百年史』を上梓し、県民の皆様をはじめ関係各位の高覧に供することができますことは喜びにたえません。

大分県が生んだ世界的な建築家、磯崎新氏設計になる大分県立図書館は、蔵書数約91万冊を擁し、個人貸出冊数も昨年900万冊を突破するなど、全国でも利用者満足度が極めて高い図書館という評価をいただいております。しかし今日、少子高齢化・情報技術革命等、社会は激しく変化しており、時代の風を読んだ、時代の要請に応えた図書館サービスの展開が喫緊の課題ともなっております。

大分県立図書館は、本県の基本施策に基づいて、「だれでも、いつでも、どこからでも」利用できる図書館として機能を果たすことを基本方針としております。また、市町村立図書館、大学図書館等との緊密な連携・相互協力により、県民生活と地域文化の向上に役立ち県民に真に必要なとされる図書館を目標としております。

『大分県立図書館百年史』の刊行は、大分県立図書館の次なる100年に向けた号砲です。大分県立図書館が、「安心・活力・発展」を理念とした県民生活と県政のための情報拠点として、また、新世紀を開く県民の英知と幸福の枯れることなき源泉となるよう、さらなる発展を目指してまいります。

これまでの県民はじめ利用者の皆様、関係各位から賜りましたご支援・ご協力に感謝いたしますとともに、なお一層のご支援をお願い申し上げ、『大分県立図書館百年史』刊行のごあいさつといたします。

平成17年2月



『大分県立図書館百年史』の刊行にあたって

大分県教育委員会教育長 深田 秀生

大分県立図書館は、平成14年に開館100周年を迎え、この2月に新館開館10周年を迎えました。一世紀余にわたるこれまでの歴史を鳥瞰し、時代のニーズに即した新たな図書館像とサービスを構築するためにも、開館100周年記念事業として『大分県立図書館百年史』を刊行し、ここに県民の皆様をはじめ関係各位のご高覧に供し、忌憚の無いご意見・要望等頂戴することができますならば望外の喜びに存じます。また刊行にあたりご助力を賜りました編纂委員の方々、ご協力を頂きましたすべての皆様に、この紙面を借りまして深く感謝いたします。

近年、科学技術の革新的進歩によって、高度情報化社会の到来が本格化しております。また、通信・交通手段の急速な発達及び国際社会の構造変化によって、ボーダレスな国際化「グローバリゼーション」もまた日常的な事象となっております。そして、少子高齢化・核家族化・都市化などの加速的な進展による、旧来家庭や地域社会が担っていた教育力の低下に対する対策が、喫緊の課題ともなっております。このような、時代とともに変化していく社会環境に対応して、社会構造の基盤である教育においても、情報リテラシー教育や多文化教育など、時代に適合した改革も推進されております。しかし、教育改革の遂行にあたっては、時代をこえてなお不変の価値を有するものへの十分な配慮もまた、当然必要となります。

このような状況、とりわけ玉石混交の情報が氾濫しているなかで、すべての県民が物心ともに豊かな人格・生活を形成していくためには、より広範な情報・知識を習得し主体的に自己を決定していくことが必要であります。このような「新世紀を拓くたくましいひとづくりの推進」を基本テーマとする第5次大分県総合教育計画の主要課題の一つが「豊かな生涯学習社会の形成と社会教育の推進」です。

県民一人一人が「いつでも、どこでも、だれでも」主体的に学習が続けられ、その評価が適切に評価される豊かな生涯学習社会を形成するためにも、公共図書館とりわけ県立図書館が果たすべき役割はますます重要となっております。国及び各自治体レベルでも生涯学習振興における図書館の重要性が指摘され、図書館の新しい在り方が検討されております。県立図書館といたしましても、平成16年度には公開書庫の整備や「子ども夢ライブラリー」の設置を行うなど、図書館サービスの充実を図っておりますが、『大分県立図書館百年史』の刊行を一つの機に、県立図書館が大分県の情報拠点としてふさわしいサービスの提供とそのフィードバックの場となるよう一層の努力を重ねる所存です。県民の皆様をはじめ関係各位の一層のご指導・ご鞭撻のほどをお願い申し上げまして、『大分県立図書館百年史』刊行のご挨拶といたします。

平成17年2月



『大分県立図書館百年史』刊行に際して — 使命へのひとつの里程標 —

大分県立図書館長 神 繁 司

大分県立図書館新館開館10周年という節目の年に、漸う『大分県立図書館百年史』を刊行することができました。県立図書館百年という悠久の歴史に併せ、あわただしくも、これからの方向性を示唆するここ二年の歩みを記すことができたのは幸いでした。ここに、休日を返上し編集に携わった委員諸氏、微細にわたりご指摘・ご助力頂きました編纂委員の方々及びご尽力・ご協力を賜りましたすべての関係者・機関に心より感謝申し上げます。

わが国の近代化に際し、図書館・公文書館・博物館は一国の文化の尺度を示すものとして紹介されました。この一世紀半の歴史のなかで、各館は社会状況に大きく翻弄されながら、時には弱者として時には強者として、各様の発達・変遷を遂げてきました。大分県においては、中津市立小幡記念図書館、臼杵市立図書館付属の荘田平五郎記念こども図書館に見られるように、福沢諭吉の図書館への思想・情熱が今もなお息づいていると思われまます。また、平成7年の大分県公文書館開館までの一時期、県公文書の収集保管業務は県立図書館で行っていました。県立レベルの公文書館はいまだに多くはありませんが、この公文書館設置の必要性を初めて提唱したのが、中津出身の廣池千九郎です。廣池は大分県共立教育会を中心に地域の教育改善にも大きな貢献を残しております。豊の国情報ライブラリー（大分県立図書館・大分県公文書館・大分県立先哲史料館の複合施設）設立の理念は、大分の数多の先哲によって、はるか遠い日に既に用意されていたのです。豊の国情報ライブラリー設立10周年にあたって感慨もひとしおであると同時に、ライブラリー一体としての情報発信と地域創造という使命をも痛感するものです。

近年、社会環境の大きな変化のなかで、個人や組織の「自己責任」ということが強調されております。このような成熟した社会を実現するためには、すべての人々が公平に知識や情報にアクセスできる環境と、それを活用する能力が必要となります。情報への公平なアクセスの保障と情報活用能力の涵養こそが、これからの図書館サービスを担保していくうえで大きな鍵となります。過去・現在・未来にわたるあらゆる知識を多様な媒体によって収集・蓄積し、専門職員により多様な形態で公平に提供していく。これが、豊かな地域社会の創造に資する情報拠点・コミュニティとしての公共図書館、とりわけ県内の図書館活動推進の旗頭としての県立図書館に課せられた課題でしょう。またこのことは、地方分権や行財政改革という状況のなかで、図書館経営における公共性という概念の再検討をも迫ることになるでしょう。

図書館サービスという営為に終着点はありません。大分県立図書館が今どのようなサービスをしなければならないのか、そしてこれからどのようなサービスをしようとしているのか。刊行なった『大分県立図書館百年史』をひとつの里程標として、県民・利用者の皆様方とともに、これからの長い道のりを歩んで行ければ幸いです。

平成17年2月

目 次

あいさつ

『大分県立図書館百年史』刊行に寄せて	大分県知事	広瀬 勝貞	3
『大分県立図書館百年史』の刊行にあたって	大分県教育委員会教育長	深田 秀生	4
『大分県立図書館百年史』刊行に際して	大分県立図書館長	神 繁司	5

第1章 通史編

第1節 大分県共立教育会附属大分図書館の時代（1902～1931） 11

大分県共立教育会の創設	13	床屋文庫の開始	17
福沢諭吉と図書館	13	九州図書館長会議開催	19
大分県共立教育会附属大分図書館開館	13	大分県共立教育会附属福沢記念図書館の移転	19
大分県共立教育会附属大分図書館規則	15	大分県共立教育会附属図書館の活動状況	19
大分県共立教育会附属福沢記念図書館開館	15	県立移管への運動	21
巡回文庫の開始	17	明治末から大正期の県内図書館	21

第2節 県への移管と終戦まで（1931～1945） 23

福沢記念図書館から大分県立大分図書館へ	25	開館時間延長	29
大分県立大分図書館移管祝賀会	25	昭和7～9年閲覧状況概要	29
巡回文庫	25	閲覧室大拡張	29
社会教育振興座談会	25	復活文庫	31
図書館週間行事 貴重図書展覧会	25	図書館週間行事	31
松栄神社文書	27	分類変更作業着手	31
図書館週間行事 郷土先哲遺芳展	27	大友宗麟 三百五十年祭	31
図書館見学（昭和7～8年）	27	大分県図書館協会創立	31
巡回書庫鉄道運賃割引に関する件	27	児童閲覧室再開 童話と映画の会	31
他県の図書館予算を見る 昭和7年度	27	図書館週間行事	33
普文専検受験準備講座	27	昭和13年度閲覧統計	33
製本修理講習—実演実習を主として—	29	空襲	33
郷土精神文化史講座	29	図書疎開	33

第3節 戦後の復興と館舎竣工まで（1945～1949） 35

業務を再開	37	図書館報復刊	41
巡回文庫再開	37	終戦直後の読書週間行事（昭和22年～23年）	41
読書指導者講習会	37	読書傾向調査	41
終戦直後の図書館活動（昭和22年6月現在）	37	復興寄附金募集	43
米軍政部の視察	39	フィルムライブラリーの設置	43
米軍政部の図書貸与	39	第1期新館開館	43
昭和21年度当時の閲覧・利用状況	39	第2期新館開館	43
館外貸出（個人）昭和22年6月～9月	39	アメリカ文化図書館	45

第4節 荷揚町（現在の府内町）旧館時代（1949～1966） 47

三浦梅園の銅像寄贈	49	蔵書数・閲覧者数	59
直入地区読書指導研究協議会開催	49	図書館案内発行	61
県内公共図書館概況	49	全国の水準からみた大分図書館	61
『大分県中央図書館報』の新装刊	51	九州地区図書館職員ゼミナールの開催	61
府内藩記録の調査	51	移動図書館「やまばと号」全町村を巡回へ	63
自動車文庫の運行	51	秋葉文庫購入	63
創立50周年記念式典	53	三浦氏より図書館寄付の申し出を受ける	65
50周年当時の概況	53	新館建設のための設計を磯崎氏に依頼する	65
利用統計（昭和27年）	53	蔵書数・利用状況（昭和34～36年度）	65
閲覧室の賑わい	55	県庁移転にともなう行政資料の収集	67
移動図書館実施状況（昭和29年度）	55	移動県庁に移動図書館「やまばと号」参加	67
大分県読書団体連絡協議会	55	移動図書館研究協議会の開催	67
青少年巡回文庫	57	『郷土資料目録』刊行	69
移動図書館「やまばと号」	57	全国逐次刊行物総合目録九州地区編集委員会開催	69
移動図書館「やまばと号」の歌決まる	57	特許関係公報の分類整理	69
館則の一部改正	59	新館建設へ向けて	71
開拓地への移動図書館開始	59	読書週間行事	71
目立つグループの借り出し	59		

第5節 荷揚町新館時代（1966～1994） 73

荷揚町新館開館	74	国際障害者年記念事業	94
設計者磯崎新	77	日曜開館開始	95
昭和天皇皇后両陛下ご視察	77	蔵書目録刊行（昭和55年度～平成元年度）	97
日本建築学会賞・建築年鑑賞受賞	77	『児童室だより』の復刊	97
古文書解説講習	79	図書館建設ラッシュ～昭和53年から平成5年まで～	99
視聴覚ライブラリー	81	文庫の変遷1～昭和40年代～	101
貸出・予約について	83	貸出方法の変遷～児童室～	103
移動図書館「やまばと号」	85	文庫の変遷2～昭和50年代以降～	105
新館開館10周年を迎えて	87	野上彌生子賞読書感想文全国コンクール	107
閲覧室模様替えオープン	89	新館建設へ	109
新書庫増設	89	ようこそダクワさん	111
浩宮様学習のためご視察	91	図書館等職員研修会	111
館内利用	91	特集「古文書解説講習」	112
豊後キリシタン関係史料と研究会発足	93	特集「目録について」	113
大分合同新聞を受贈	93	特集「野上彌生子賞読書感想文全国コンクール」	114

第6節	新県立図書館建設（1994～1995）	115
	建築中の新県立図書館	117
	旧県立図書館建物が「アートプラザ」へ	117
	移転作業はじまる	117
	新県立図書館 見学会	117
	新県立図書館移転日誌	118
	特集「新館移行時の郷土資料について」	120
	特集「新館に向けての資料購入」	121
	「豊の国情報ライブラリー」	122
	新県立図書館での新サービス	128
	広い一般資料室（館内係）	128
	図書館の“最新情報”の窓（逐次刊行物係）	128
	平成7年2月28日 開館初日のにぎわい	129
	夢がふくらむ（児童係）	130
	調べもののお手伝い（調査相談係）	130
	独立の部屋ができました（郷土資料係）	131
	オンラインネットワークの構築	131
	全域サービスの窓口（市町村協力係）	131
第7節	新県立図書館誕生から現在まで（1995～2005）	133
	市町村協力事業の拡がり	135
	全国図書館大会開催	137
	利用の伸び	139
	野外学習講座	139
	利用者アンケートを実施	141
	『瀬戸内海に関する図書総合目録』の刊行	141
	公開講座	143
	『介護保険関係資料目録』刊行	143
	日本図書館協会建築賞受賞	143
	2000年図書館フェスタ	145
	個人貸出資料の経由返却	145
	そよかぜげんき広場	147
	所蔵情報の一般公開とホームページの利用	149
	創立100周年記念式典・関連行事	149
	大分大学附属図書館との相互協力	149
	読書感想文コンクール「大分県先覚者に学ぶ」	151
	子ども夢ライブラリー事業	151
	公開書庫の整備	151
	電算システムの更新	151
第2章	回想編	153
第3章	資料編	
1	県内市町村立図書館一覧	164
2	歴代館長一覧	166
3	県立図書館条例・規則	167
4	蔵書数の推移	173
5	施設の変遷	174
6	県立図書館協議会委員一覧	179
7	県立図書館主要刊行物一覧	180
8	読書感想文コンクール入賞者一覧（最優秀受賞者名）	181
9	公立図書館等職員研修会	183
10	組織及び職員	184
11	参考資料一覧	188
	編集後記	190

第 1 章

通史編

第 1 章

第 1 節

大分県共立教育会附属 大分図書館の時代

明治35年～昭和6年(1902～1931)



大分県共立教育会附属福沢記念図書館

大分県共立教育会は明治18年、大分県師範学校の同窓会が発展してできた親睦研究団体であった。明治32年頃に図書館設置の気運が起り、明治35年5月24日に附属大分図書館を開館した。同会は福沢諭吉の遺徳を記念して明治37年に新館を建設し、同年10月に福沢記念図書館と改称した。その後、大正9年に県会議事堂敷地内に移転し、昭和6年に県へ移管されるまで大分県共立教育会の附属図書館として活動した。

明治40年代に入ると県内に私立竹田文庫（現竹田市立図書館）、私立中津図書館（現中津市立小幡記念図書館）など多くの文庫、図書館が設立された。

共立教育会時代の図書館は、夜間開館や地域会員のために巡回文庫を実施したが、蔵書数・予算の少なさや利用主体が共立教育会の会員であったため、利用は限られていた。

共立教育会は大正11年から附属図書館の更なる発展を願い、県立移管の請願を県に対し毎年行い、昭和6年県に移管された。

大分県公立教育会附属大分図書館の時代

注 日付は精査したが不明のものについては月までの表記とした。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1871年(明4)	7月14日		廃藩置県の詔。
1872年(明5)	8月 1日		文部省書籍館開館(後の上野帝国図書館)。
	8月 3日		学制発布。
1885年(明18)	1月	大分県公立教育会創設。	
1886年(明19)	4月19日		豊州新報第1号発行。
1889年(明22)	2月11日		大日本帝国憲法発布。
1890年(明23)	10月30日		教育勅語発布。
1891年(明24)	11月		私立大分書籍館開館(数年で維持できなくなる)。
1892年(明25)	3月26日		日本文庫協会設立(現日本図書館協会)。
1894年(明27)	8月 1日		日清戦争始まる(～明治28年4月17日)。
1899年(明32)	1月12日	大分県公立教育会、評議員会で付属図書館設置のため調査委員を嘱託。	
	11月11日		図書館令公布。
1900年(明33)	8月31日	『大分教育雑誌』8月号に苞樓主人の「図書館設立に就き」の論文掲載。	
1901年(明34)	2月 3日		福沢諭吉逝去。
	6月 9日	第21回大分県公立教育会総集会で「県費補助請願の件」を決定(図書館費含む)。第19回から継続。	
1902年(明35)	3月13日	大分県公立教育会評議員会で図書館規則、図書館経費の件評決。 大分県公立教育会附属大分図書館として創設。	
	5月24日	大分県公立教育会附属大分図書館開館(現大分中央警察署付近)。	
	5月25日	大分県公立教育会総集会で本年度から図書館に県費補助金300円が交付されることを報告。	
	6月27日	大分県公立教育会評議員会で事務細則制定。第3条に図書館についての規定あり。	
1903年(明36)	6月15日	大分県公立教育会評議員会で故福沢先生記念碑及び記念文庫建設に関する件決定。	
	6月29日		滝廉太郎逝去。

大分県公立教育会の創設

大分県公立教育会は元師範学校同窓会（同窓会の発足は明治16年）の発展したもので、県教育の普及発展を図るため、明治18年1月に発足した。会誌『大分県公立教育雑誌』の発行が始められ、翌2月18日・19日、大分県師範学校に集まって創立大会を開催した。当時の会員数は192名であった。

明治20年当時の師範学校は現在の県庁南西部に建つ教育発祥記念碑の東部にあった。大分県公立教育会の事務所も師範学校内に設置されていた。

福沢諭吉と図書館

明治維新後、文明開化が始まり、西洋の思想や制度が導入された。そのような社会情勢の中、郷土の生んだ先覚者・福沢諭吉はその著書『西洋事情』（慶応2年・1866）の中で図書館について次のように述べている。

“西洋諸国ノ都府ニハ文庫アリ「ビブリオテーキ」ト云フ”と。

福沢は欧米での見聞をもとに近代社会に図書館が必要なことを説き、明治期の図書館の発展に影響を与えたといわれている。

明治35年3月に創設された「大分県公立教育会附属大分図書館」も2年後の明治37年5月に福沢諭吉の遺徳を偲んで、名称を「福沢記念図書館」と変更し、昭和6年県に移管されるまで、県内図書館界の指導的役割を果たし、社会教育に大きく貢献した。



（『福沢諭吉書簡集』）

大分県公立教育会附属大分図書館開館

大分県において社会教育機関としての図書館が初めてできたのは明治24年11月設立の私立大分書籍館であった。館主所蔵の書籍及び寄贈の和漢書414冊で開館し、翌年には寄贈本や寄付金によって3,282冊の蔵書に達したが、資力が乏しいために利用者が少なく、数年で維持できなくなり閉館した。

明治30年代にはいり、文部省東京図書館が名称を「帝国図書館」と変更し、本格的な活動を開始した。明治32年には初の図書館に関する法令である「図書館令」が公布されたことにより、全国的に図書館設立の気運が高まり、地方の図書館の設置数も年々増加していった。

大分県公立教育会においても明治32年1月の評議委員会で附属図書館を設置するための調査委員を嘱託し、設立に向けて動き始めた。明治35年3月の評議委員会で図書館規則・事務細則を定め、県内最初の本格的な図書館の設立が決まり、5月24日附属大分図書館が開館した。



（『大分県教育会史』）

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1904年(明37)	2月10日		日露戦争始まる(～明治38年9月5日)。
	5月	福沢記念図書館と改称。	
	6月26日	福沢記念図書館落成式。	
	9月27日	図書館商議委員会を開催し購入図書調査開始。	
	10月27日	福沢記念図書館開館。	
1905年(明38)	4月 9日	図書分類目録整理委員会開催。	
	7月31日	巡回文庫を実施するために、地方会員から購入希望図書を募る。	
	11月30日	福沢記念図書館図書目録作成。	
1906年(明39)	3月20日		第1回全国図書館(員)大会(東京)。
	5月	巡回文庫開始。第1回分として速見・北海部両郡に発送、以後県立移管まで続く。	
	7月 1日	夜間開館開始。 昼間以外に毎日午後6時より午後9時まで開館。	
	7月	図書の携出(貸出)開始。	
	11月13日	大分県教育会評議員会で福沢記念図書館規則改正。	
	12月 1日	坂本永定図書館長兼事務員就任。	
1907年(明40)	10月17日		『図書館雑誌』創刊。
1908年(明41)	3月下旬	教育品展覧会開催(玖珠郡教育会)。 その際、小図書館を実施。数十部の図書を貸出。	29日 「日本文庫協会」を「日本図書館協会」と改称。
	5月15日	大分県教育会評議員会で福沢記念図書館規則改正。	
	10月12～17日	曝書。	
1909年(明42)	2月	巡回文庫として各郡に発送している書籍は合計858冊。 9個の箱に入れ11郡に巡回。	

大分県公立教育会附属大分図書館規則

明治35年3月、開館に先立って決められた初の図書館規則の一部は次のようなものであったが、閲覧料無料という、当時としては、画期的なものであった。

大分県公立教育会附属大分図書館規則

- 第1条 本館は図書新聞雑誌の類を蒐集し、公衆の閲覧に供するを以て目的とす
- 第2条 本館は大分図書館と称し、大分県大分郡大分町字荷揚町29番地公立教育会事務所内に設置す
- 第3条 本館に左の職員を置く
館長 1名 図書掛 若干名
- 第4条 館長は大分県公立教育会長之に当たり、図書掛は館長之を命ず
- 第5条 本館は毎週水土日曜の3日、左の時限を以て開閉す
自春分至秋分 午前8時開館 午後5時閉館
自秋分至春分 午前9時開館 午後4時閉館
- 第6条 本館は図書閲覧料を徴収せず
但貴重之図書に就いては、公立教育会員を除く外一部一回に付、金銭を徴収す
- 第7条 本館の趣旨を賛成し、図書又は金品を寄贈せんとする者あるときは之を受くるものとする
- 第8条 本館に図書を寄託せんとする者あるときは、之を受け館長保管の責に任す
- 第9条 前2条の寄贈者又は寄託者に対しては別に定むる規定に従い優待することあるへし
- 第10条 閲覧人心得を定むること左の如し
1. 本館図書を閲覧せんとする者は図書掛に閲覧券を受け、所望の書目、冊数、部数、番号、棚号及住所氏名等を相当欄内に記入し、之を図書掛に差出し借覧すへし
 1. 閲覧人同時に借覧し得べき図書は、3種10冊以内とす
 1. 閲覧室に在りては静粛を旨とし、音読又は喫煙すへからず
 1. 閲覧人図書を汚損するときは、現品若は相当代価を以て弁償せしむ
但汚損の状態により之を斟酌することあるへし
 1. 閲覧人室外に出つときは、借受の図書を図書掛に返還し、其の検閲を受くへし
 1. 閲覧人は総て図書掛の指揮に従うへし

大分県公立教育会附属福沢記念図書館開館

大分県公立教育会は明治36年6月の評議員会で、福沢諭吉の遺徳功績を記念して記念碑並びに記念文庫建設事業を決定した。

「故福沢先生ハ本邦近時ノ一偉人ニシテ其ノ勲功ヨク筆舌ノ尽スベキニアラズ…(中略)…是ニ於テカ本会此ガ主唱者トナリ弘ク大方ノ賛助ヲ仰ギ、碑ヲ中津町ニ建テテ偉人ノ偉蹟ヲ不朽ニ伝ヘ、又文庫ヲ県下中央ノ地大分町ニ設ケテ偉人ノ余沢ニ浴セシムアラントス、世ノ同情ノ士幸ニ本会ノ微意ヲ諒トシ早ク其ノ成功ヲ告ゲシメンコトヲ敢テ翹望ス」

記念碑並びに記念文庫建設の趣意書は『大分県教育雑誌』221号(同年7月)の巻頭に特別広告として掲載するとともに関係者に配布し、募金活動を開始した。

寄付金総額は六千円余に達し、文庫は教育会事務所北側に建設された。その後旧館からの移転、諸設備の整備を経て、明治37年10月27日、大分県公立教育会附属大分図書館は大分県公立教育会附属福沢記念図書館として開館した。

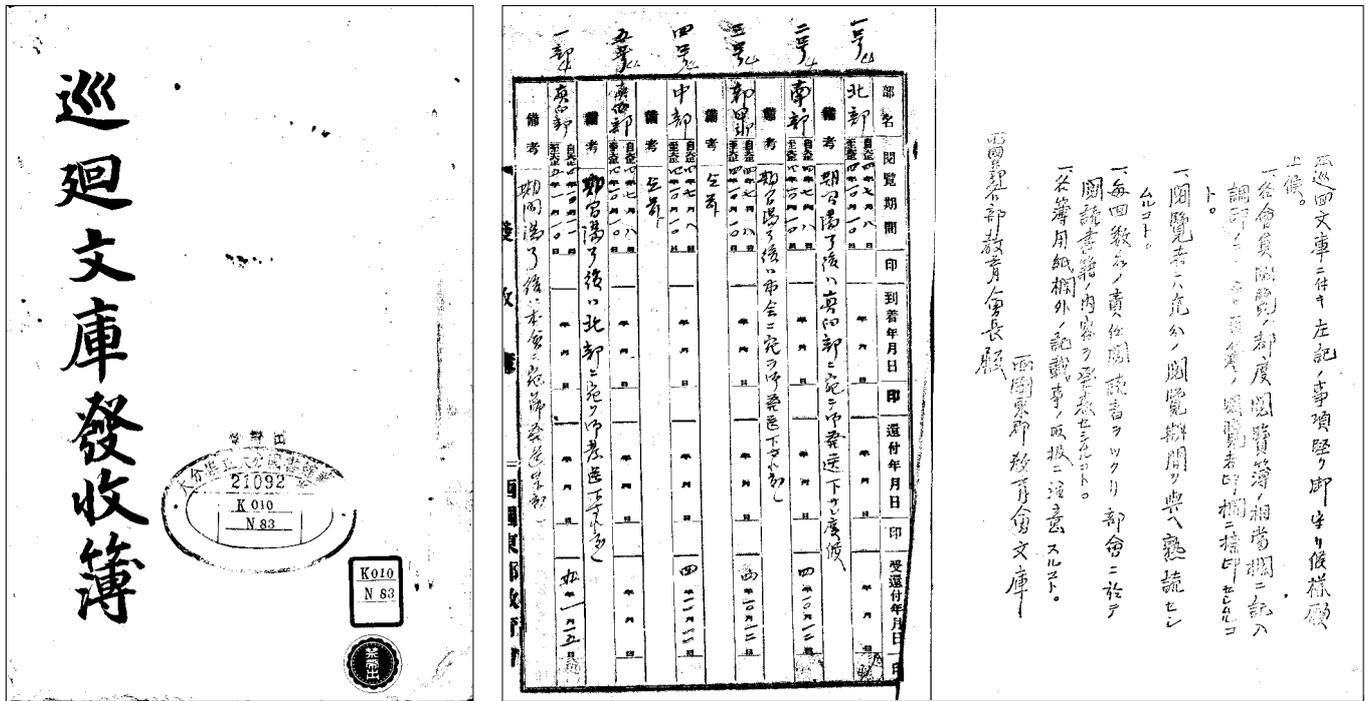
		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1909年(明42)	5月9日		私立竹田文庫開設(現竹田市立図書館)。
	10月14 ～19日	曝書。	
	11月14日		私立中津図書館開館(現中津市立小幡記念図書館)。
1910年(明43)	5月14日	大分県教育会創立二十五年記念式開催。	
	6月14日		私立帆足記念文庫開設(現日出町立萬里図書館)。
	10月18 ～23日	曝書。	
1911年(明44)	9月	開館日数30日、開館時間午前8時～午後9時、館内貸出1,936冊、館外貸出31冊。	
1912年(明45) (大正元)	1月10日		私立中津図書館が財団法人小幡記念図書館と改称。
	7月30日		明治天皇崩御、元号を「大正」と改元。
	7月		佐伯町に簡易図書館開館(後の南海図書館。昭和初期閉館)。
	11月		向上会が梅園文庫開設(現杵築市立図書館)。
1914年(大3)	2月20日		『日本図書館協会選定新刊図書目録』創刊。
	4月13日	皇太后陛下御大喪につき特別休館。	
	6月5日	福沢記念図書館創立10周年記念式挙行。	
	7月28日		第一次世界大戦始まる(～大正7年11月11日)。
	10月7～12日	曝書。和書、漢書の虫干しを行う。	
1915年(大4)	3月	床屋文庫開始。	
	5月15日	第36回大分県教育会総会で図書館活動報告(開館日数342日、閲覧総人数23,149人、蔵書冊数18,095冊)。	
	11月28日	坂本館長、長崎県立図書館開館式及び日本図書館協会九州支部発会式に出席。	
1916年(大5)	4月1日		淡窓図書館開館。
1917年(大6)	11月21日	日本図書館協会総裁徳川頼倫侯爵、福沢記念図書館の書籍種々を検閲。「図書館経営」に関する講演(大正記念館)。	

巡回文庫の開始

当初、附属図書館を利用できるのは来館者のみであったが、公立教育会地方会員の利便を考へて、明治38年に至り、巡回文庫実施を決定し、地方会員から希望図書を募った。

明治39年5月、最初の巡回文庫が速見・北海部両郡教育会に発送された。返還されたものを他郡に回すようにし、百冊程度の図書を箱詰めにし、各郡を巡回していた。ここに県内全域サービスが開始された。この事業は後の移動図書館事業や現在の団体貸出文庫等につながっていった。

この資料は、大正4年の西国東郡教育会の巡回文庫発収簿、唯一県立図書館に残っているもの。当時の状況を知るうえで、貴重な資料である。



床屋文庫の開始

大正3年12月の通俗教育委員総会において、「床屋文庫を起すこと」について協議し、「書籍箱を製して各床屋に配付し期限を定めて拾数冊の書籍及び雑誌を貸付し毎期之を貸し替へ成るべく広く書籍を読ましむること。」と協定された。

大正4年に入って床屋文庫は開始され、大分県教育雑誌第364号(大正4年6月号)には、「床屋文庫十個を設け各理髪店に配置せり書籍と雑誌各凡百冊を出せり五月中の閲覧延人員千四百九十六人なり」と報告されている。大分県教育雑誌にも床屋文庫についての記述は少なく、文庫を開設した理髪店は市内内であるが詳細は不明である。

当時の理髪店は情報交換の場でもあり、読書普及を図る上で有効なサービスポイントであったと考えられる。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1918年(大7)	5月28日		財団法人臼杵図書館開館(現臼杵市臼杵立図書館)。
	6月		第1回府県立図書館長会議開催。
	9月	福沢記念図書館図書購入調査委員21名囑託。図書購入再調査委員2名囑託。	
	11月28日	出征軍人慰安のため40冊の寄贈図書を佐賀図書館宛送付。	
1919年(大8)	6月19日	第40回大分県教育会総会で図書館活動報告(開館日数335日、閲覧人28,057人、蔵書冊数19,267冊、大正7年度購入図書冊数250冊、巡回文庫冊数560冊)。	
	9月 2日	片切豹太郎館長就任。	
	11月14～16日	九州図書館長会議開催。	
	12月15日	大分県教育会評議員会で県より内示の移転候補地県会議事堂敷地東南隅地へ移転を協議決定。	
1920年(大9)	4月 2日	大分県教育会評議員会で図書館細則修正の件決定。	
	6月22日	福沢記念図書館県会議事堂敷地内に移転。改修工事開始。	
1921年(大10)	1月 9日	県会議事堂敷地内(現総合庁舎付近)に改築、開館。	
	7月21日		公立図書館職員令公布。
1922年(大11)	2月15日	大分県教育会代議員会開催。福沢記念図書館県立移管の発議あり。	
	4月21～25日	第17回全国図書館大会(東京)。片切館長出席。	
	6月24日	大分県教育会総会で福沢記念図書館県立引立請願の件決議(以後毎年請願)。	10日 別府町立図書館開館(現別府市立図書館)。
1923年(大12)	8月	『大分県教育』8月号文部省の「50円又は100円位で出来る青年団・処女会の文庫」掲載。	
	9月 1日		関東大震災。
	11月 1～7日		図書館週間(後の読書週間)開始。
	12月24日	大分県教育会代議員会開催。大正12年度会務報告(福沢記念図書館書籍数19,972冊、設備にストーブ備付、別に異常なし)。	
1924年(大13)	4月25～28日	第18回全国図書館大会(長崎市)。片切館長出席。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1925年(大14)	2月23日	大分県教育会代議員会開催。大正13年度会務報告(福沢記念図書館、図書2万冊超過、閲覧者漸次増加す。県立引立請願の件は採用なし)。	
	4月 1日		町立桂畔文庫開設(現豊後高田市立図書館)。
	5月 5日		普通選挙法公布。
1926年(大15) (昭元)	2月27日	大分県教育会代議員会で図書購入費の減額や県立移管の問題が論議。	
	3月31日	福沢記念図書館文部省より表彰。	
	6月12日	大分県教育会総会開催。大正14年度会務報告(福沢記念図書館、「書籍数何程か増加せり。閲覧者は昨年同様一日平均6、70名位。」)。	
	12月25日		大正天皇崩御。元号を「昭和」と改元。
1927年(昭2)	6月18日	大分県教育会総会開催。大正15年度会務報告(福沢記念図書館、所蔵書籍冊数約20,481冊、閲覧者一日平均65名内外)。	
	10月22日	第21回全国図書館大会(鹿児島市)。片切館長出席。	
	10月26日	荷揚町小学校で社会教育講演会開催(岡山県立図書館長武藤正治、長崎県立図書館長永山時英)。	
1928年(昭3)	2月17日	大分県教育会代議員会開催。昭和2年度会務報告(福沢記念図書館、書籍20,606冊、閲覧者一日平均65名)。	20日 第1回普通選挙実施。
1929年(昭4)	2月16日	大分県教育会代議員会開催。昭和3年度会務報告(福沢記念図書館、書籍21,023冊、閲覧者一日平均60余名)。	
	6月	約2万冊の図書大整理(~9月)、同時に書庫の改修と大掃除。	
	8月25日		森 清 『日本十進分類法』刊行。
	9月 9日	カード式閲覧法開始。	
1930年(昭5)	2月	『大分県教育』2月号に福沢図書館の近況掲載。	
	5月 4日		高田町立図書館開館。
	11月18日	大分県通常県会で福沢記念図書館の県立移管が認められる。	
1931年(昭6)	2月12日	大分県教育会代議員会開催。昭和5年度会務報告(図書館県立移管は県当局が6年度より移管することを承認。本月5日付けを以って図書館寄付採納願を知事宛に提出)。	
	3月16日	文部省より本年3月16日付けを以って4月1日より県立に引直し「大分県立大分図書館」と称することを認可。	

第 1 章

第 2 節

県への移管と終戦まで

昭和 6 年～昭和20年(1931～1945)



(館報 『大分図書館』)

昭和 6 年 4 月 4 日付け県令第15号「大分県立大分図書館規則」で、県教育会付属であった図書館が県に移管された。県教育会の永年の懸案であったので県公会堂において県立移管祝賀会が盛大に催された。

小人数ながら専任の職員も配置され、一般図書の収集、利用提供と平行して郷土誌の収集、整理、研究にも力が注がれた。現在の郷土資料室の活動の根幹がこの時期に築かれた。昭和 7 年より発行の館報「大分図書館」にその活動の集約が載っている。(ちなみにこの館報は当時関係者に郵送されていたようで、当館所蔵の同紙には郵便局の切手貼付、スタンプの跡が認められる。)

昭和11年、教育会が会館を新築移転した跡地に移転、それまでの閲覧室を児童閲覧室にするなど児童部門の活動も開始された。

時代はさがり、日本全土が戦争へと突き進む様子がこの大分の一図書館にも顕わとなる。昭和12年の読書週間の行事には、それまでの「貴重書展覧会」「先哲遺芳展」「記念古文書展」といったものと打って変わり「時局認識展覧会」が催された。

昭和20年に入り大分も空襲にみまわれるようになると、図書の疎開に館員は奔走する。4月から7月の中旬までのわずか3ヶ月半の間に、館長以下3名の手で、貴重書を含む1万2千冊の図書が地方に疎開させられ焼失をまぬがれた。

県への移管と終戦まで

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1931年(昭6)	4月 1日	県に移管、大分県立大分図書館と改称。 大分県立大分図書館規則制定、施行。 石橋豊徳館長事務取扱就任。	大分市、市制施行20周年記念式典開催。
	6月20～ 21日	大分県教育会第52回総会(大分県会議事堂)で図書館の現況報告。	
	6月20日	図書館の移管祝賀会。	
	6・7月	巡回文庫開始。	
	8月 7日	大分県立大分図書館規則改正。	
	9月18日		満州事変始まる。
	11月 4日	社会教育振興座談会(大分県教育会会議室)。	
	11月 6～ 8日	図書館週間行事。貴重図書展覧会並びに古本奉仕販売会、巡回文庫目録作成、また巡回文庫の宣伝を行う。	
1932年(昭7)	1月17日		上海事変始まる。
	1月18日	小野拡館長事務取扱就任。	
	2月13日	大分県教育会第29回代議員会。 会務報告において、図書館の県立移管報告あり。	
	2月15日	林重房館長事務取扱就任。	
	3月 1日		満州国建国宣言。
	4月17日	第1回古典をよむ会開催。	
	4月29日	図書委員会開催。	
	4月29日	郷土誌座談会。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1932年(昭7)	5月15日		5.15事件。
	5月20日	館報『大分図書館』第1号発行。	
	6月15日	松栄神社保管の古文書(府内藩古文書)35箱搬入。	
	6月16日	府内藩古文書調査に着手。	
	6月27日	高松宮殿下より『日本人の博愛』11部寄贈。	
	7月 9日	文部省より依頼の社会教育資料調査に着手。	
	7月21日	江戸時代における社会教育史資料研究座談会開催。	
	7月23日		日田の咸宜園跡が国特別史跡に指定される。
	9月22日	向井新館長事務取扱就任。	
	9月24～26日	福岡図書館囑託伊豆泰洲による製本修理講習会開催。	
	10月27日	図書館週間ポスター各方面に配付。	
	11月 1～3日	図書館週間行事として郷土先哲遺芳展開催。	
	11月 8日	普文(普通文検)専検受験準備講座開講(会員30余名)。	
	11月22日	事務室修繕。図書出納口の新設工事完成。	
11月23日	郷土先哲遺芳展出品目録完成各方面に送付。		
12月12日	向井館長図書館協会九州支部評議員に当選の正式通知を受ける。		
1933年(昭8)	1月 7日		県詩人協会発足。
	2月 7～8日	松栄神社古文書整理。	
	2月10日	大分家庭新聞社主催教育座談会開催。	
	2月18日	カード容器照明用の電灯増設。	

松栄神社文書

大分市荷馬車町の松栄神社では、今般同社古子時代の協議の結果により、同社所蔵の府内藩主大給家関係の古文書、同じく大分市大工町中尾三郎氏所蔵の古文書類を合せて全部を縣立大分図書館に寄贈することになり、十五日午前九時から松栄神社倉庫から図書館

松栄神社の
古文書寄贈

大分縣立図書館へ
荷馬車で二臺

書庫に搬入したが荷馬車二臺を要したほどの多量で、図書館の長崎司書、原書記等が整理に忙殺された同館では、明年度から特に此の古文書の整理費を計上し、約三年間の歳入で製本をなし、一般に公開する計画であるが、相當に珍重すべきものがあると思はれてゐる

(大分新聞：昭和7年6月16日)

府内藩主大給家関係の文書は松栄神社の倉庫に保管されていたものを、徒に紙魚の巢となるを憂い、調査と保管を依頼された。文書は全部で35箱あり、馬車2台で運ばれてきた。その後、調査に取り掛かったが、非常に大量であり、またボロボロになっているものも多かったため、整理はなかなか容易でなかった。

(『大分図書館』第2号、第10号より)

図書館週間行事 郷土先哲遺芳展



大分図書館の遺芳展 (日野あけ)

大分図書館の
圖書週間 葢あり

大人氣の先哲遺芳展

昭和7年11月1日～3日
郷土先哲35名の遺著遺筆
180部380余点を展示
(『大分図書館』第7号より)

(大分新聞：昭和7年11月2日)

図書館見学 (昭和7～8年)

昭和7年10月24日	大分市中島小学校高等科第2学年	80名
昭和7年11月5日	大分市荷馬町小学校尋常科第3学年	60名
昭和8年5月2日	愛媛県八幡浜小学校高等科	60名
昭和8年5月19日	玖珠郡准園小学校6年生	50余名

巡回書庫鉄道運賃割引に関する件

社第4401号 昭和8年10月13日

大分県学務部長

各市町村長殿 各中等学校長殿
県立図書館長殿

9月14日鉄道省告示第416号及び第417号を以て旅客及荷物運送規則並連帯運輸規則改正有之来る10月15日より施行の趣に付き左記御了知の上御処理相成度及通牒候也

追て小学校、図書館、男女青年団等に対しては当該市町村長に於いて周知方お取計相成度申添候

記

- 1、図書館と市町村役場、学校、青年団(処女会を含む)との間に往復する巡回文庫に対しては相当小荷物運賃より五割を低減せらるること
- 2、巡回書庫の荷送人は市町村長又は官公立図書館長発行の証明を発送駅に提出すること証明書の様式は左記(省略)に依り調製すること
- 3、巡回書庫の配達を受ける場合には一回に付き金十銭を支払うこと
- 4、証明書を不正に発行し又は使用したときは爾後之が発行を停止せられまた使用出来ざるは勿論成規に依り不足運賃及増運賃を徴取せらるること
- 5、本件の実施は昭和8年10月15日よりのこと

(『大分県社会教育』昭和13年3月より)

他県の図書館予算を見る 昭和7年度

「山梨県立図書館は、昭和6年度は大分図書館と同様に県教育会から県立に移管され、立場がよく似ている」とコメントが入っている。

(『大分図書館』第5号より)

館名	総額	図書購入費
大分図書館(県立)	3,085円	1,300円
宮崎図書館(県立)	7,938円	3,340円
佐賀図書館(県立)	11,938円	3,000円
福岡図書館(県立)	26,492円	6,500円
長崎図書館(県立)	18,802円	5,500円
鳥取図書館(県立)	12,622円	3,500円
山梨図書館(県立)	9,133円	4,300円
函館図書館(市立)	14,166円	4,000円

普文専検受験準備講座

昭和7年11月8日～3月末まで参加人数 30余名
(講師及び科目)

経法	一、憲法	法学士	高田政三
	二、行政法	法学士	榎田武男
	三、民法	法学士	小野 宏
	四、刑法	法学士	柳 利武
	五、経済学	法学士	小堀保之
修身講話	一、修身講話	社会教育主事	小野 擴
	二、英語	(不明)	山本(教諭)
	三、国語	文学士	大友芳雄
	四、漢文	文学士	長峯崇仁
	五、数学	大中教諭	森 敏郎

※国語・漢文は司書が担任

日曜日は午前10時～午後3時 火・木・土曜日午後6時～8時まで

講座会員は全科目中数科目選択聴講することができた。毎月五十銭の会費が必要だった。(『大分図書館』6、7号より)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1933年(昭8)	3月27日		国際連盟脱退。
	4月 2日		第1回図書館記念日実施。
	4月27日	靖国神社臨時大祭につき臨時閉館。	
	5月 5日	書庫内部改造工事施行。	
	7月 1日		図書館令および公立図書館職員令改正公布。
	8月 9～10日	福岡図書館嘱託伊豆泰洲による製本修理講習会開催。	
	10月15日	巡回書庫鉄道運賃割引となる。	
	11月 3日	高山英明「大友宗麟と和蘭貿易に就いて」、今村隆次「田能村竹田の生涯における一転機」と題した講演会開催。	
	11月 5日		大分県教育会館建設。
1934年(昭9)	4月 2日	図書館記念日に於ける大分県図書館関係者懇談会。	
	5月 2日		出版法改正。
	6月12日	電話開通。	
	8月28日	図書館令施行細則施行。	
	9月24日		室戸台風。
	11月 1～7日	図書館週間行事として郷土精神文化史講座(3・4日)・良書百選目録の印刷配布・ポスター及葉配布。	
1935年(昭10)	8月	開館時間延長。	
1936年(昭11)	2月26日		2.26事件。
	4月 1日		大分市にトキハデパート開業。
	4月 2日	第4回図書館記念日事業。学校生徒児童の図書館利用に関する懇談会。	
	4月	館舎拡張。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1936年(昭11)	5月 6～9日	蔵書動態調査。	
	5月23日	大友宗麟350年祭史料展に関係史料出品。	
	5月24日	分類変更作業に着手。	
	6月10日	釘宮徳太郎蔵書復活文庫本全部搬入。	
	6月11日	復活文庫本の仮整理に着手。	
	7月29日	加藤清館長事務取扱就任。	
	8月		富沢有為男(大分市出身)『地中海』で第4回芥川賞受賞。
	10月28日	図書館週間用ポスター並葉配布。	
	11月 1～7日	図書館週間行事。明治維新勤王家遺芳展、図書館協会推薦図書展観、県下図書館事業振興懇談会(4日)。	
	11月18日	曝書(～1週間)。	
12月 3日	県会第2読会において後藤義隆議員より「県立大分図書館内容充実の必要性、火災の恐れ」内容の質疑あり。		
1937年(昭12)	4月 1日	県職員に対する図書貸出方法改善。	
	4月 2日	大分県図書館協会創立。	
	4月 5日	トキハデパートに於ける大友宗麟展に関係図書及び遺物出品。	
	5月 1日	児童閲覧室再開。童話と映画の会。	26日 双葉山 横綱になる。
	6月23日	女子閲覧室と女学生自習室を新設。	25日 県美術協会設立。
	7月23日	沢田勝次館長事務取扱就任。	日中戦争始まる。
	8月15日	新聞室の開館時間を延長。	

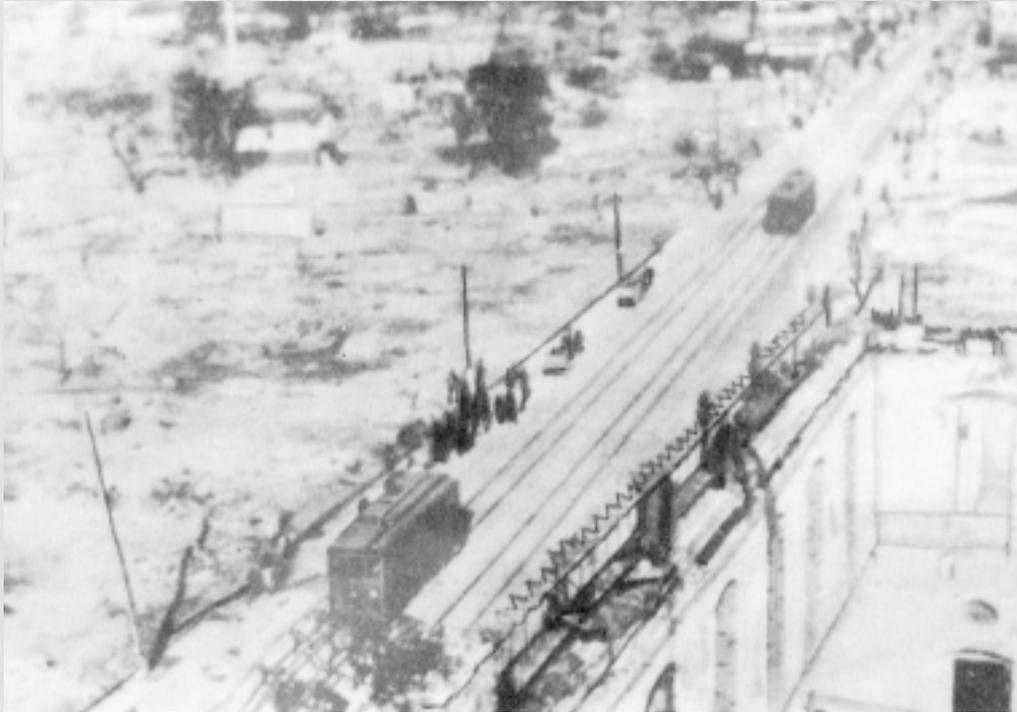
		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1937年(昭12)	11月11日		野上彌生子『迷路』中央公論に発表。
	11月 1～7日	図書館週間行事。時局認識展覧会、舞踊と童話と映画の会(6日)、図書館利用奨励ポスター・葉・図書館案内配布。	
	11月17～23日	曝書のため一般閲覧室閉室。	
	11月	県下図書館事業振興懇談会。	
1938年(昭13)	4月 1日		国家総動員法公布。
	5月21日	小倉兼館長事務取扱就任。	30日 大分市初の空襲警報。
	9月	松阪富之助館長事務取扱就任。	
	12月15日		大分海軍航空隊開隊。
1939年(昭14)	5月11日		ノモハン事変始まる。
	8月20日	館報『大分図書館』81号で廃刊。	
	9月 1日		第2次世界大戦始まる。
1940年(昭15)	5月	小川直熙初代専任館長就任。	
	9月27日		日独伊三国同盟。
	11月		日本点字図書館創立。
1941年(昭16)	3月18日		第1回全国図書館総合協議会開催。
	12月 8日		太平洋戦争始まる。
1942年(昭17)	4月 3日		豊州新報と大分新聞が合併して大分合同新聞となる。
1943年(昭18)	3月		『日本目録規則』刊行。
1944年(昭19)	8月15日		『図書館雑誌』294号で休刊。
	8月23日	中央図書館に指定される。	
1945年(昭20)	3月22日	山室寿館長就任。	18日 大分市初の空襲。
	4月	図書の第一次疎開。	
	5月	図書の第二次疎開。	
	6月～7月	図書の第三次疎開。	
	7月16日	空襲。館舎及び蔵書(1万5千冊)を焼失。辛うじて重要書類のみ持ち出す。	B29による焼い攻撃夜半より始まる。大分市火の海となる。
	8月 6日・9日		広島・長崎に原爆投下。
	8月15日		終戦。

第1章

第3節

戦後の復興と館舎竣工まで

昭和20年～昭和24年(1945～1949)



「空襲で焼け野原となった終戦直後の大分市」(『おおいた戦後50年』)

昭和20年7月16日、夜半の空襲で蔵書も建物も焼失した県立図書館の、再開は早かった。8月24日には、空襲をまぬがれた金池国民学校1室を借りて開館した。増える利用者を収容しきれなくなり翌年9月には別棟の3教室を借りて移った。

館内利用のみでなく県下より移動図書館・巡回文庫への貸出要求も続々という状況であった。

県内各地に文庫活動が起こり、戦争で押さえられていた文化活動が戦後一気に動き始めた。

昭和21年度末より図書館復興活動が具体的になった。文部省へ復興計画書を提出し、国・県の予算とともに県民よりの寄付金を基に建築することに決定した。22年12月には細田県知事を会長に「図書館復興促進委員会」が結成され寄付金の募集を始めた。23年4月1期工事完成、仮住まいより移転、その後2期工事と続き24年3月やっとその完成をみた。

全国的な動きとして公共図書館法制定の動きも始まった。

戦後の復興と館舎竣工まで

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1945年(昭20)	8月20日	金池国民学校衛生館に移転。	
	8月24日	業務を再開。	
	8月25日	大分陸軍少年飛行兵学校から机椅子等33点(25日)、机棚等61点(27日)の払下げ。	
	9月 2日	館外貸出業務を開始。	重光葵外相、梅津美治郎参謀総長(共に大分県出身)ミズーリ号艦上で降伏文書に調印。
	9月 9日	日曜開館、月曜休館開始。	
	9月17日		枕崎台風。
	10月26日	東植田国民学校から疎開図書を回収。	
	10月		米軍軍政部進駐、初代教育課長ビーヤ大尉。
1946年(昭21)	2月 8日	読書指導者講習会(9日まで、大野郡上井田村青年学校、県後援)。	
	3月23日	官庁執務時間の戦前復帰に伴い、毎週土曜日は館員半数半日勤務。	
	4月 1日		財団法人私立竹田文庫が竹田町に移管され竹田町立竹田図書館と改称。
	4月 1日		公立図書館職員令一部改正。
	5月 5日	巡回文庫を再開、竹田青年学校2個・中部青年学校1個発送。	1日 戦後初のメーデー春日公園で行われる。
	5月30日	トラック1台雇い入れ、野津原中部国民学校に疎開中の図書全部を回収。	
	6月 6日		大分市で戦災跡地区画整理事業の起工式。戦災復興始まる。
	6月11日	出版物没収関係書類をとりまとめ、不該当図書と共に県教学課に送付、該当図書は直接内務省宛発送。	1日 『図書館雑誌』復刊。
	6月25～27日	山室館長、文部省都道府県中央図書館長会議へ出席。	



業務を再開

終戦直後の昭和20年8月24日、金池国民学校（現大分市立金池小学校）の衛生館の1室を借りて開館した。大分少年飛行学校から机・椅子・書棚を譲り受け、戦災を逃れるため疎開させた図書を漸次取り寄せた。また、新聞販売所と特約して各種新聞を揃えた。閲覧室には多数の利用者が押し寄せ狭隘になったため、昭和21年9月9日、南側校舎1階東寄り3教室に移転した。

巡回文庫再開

金池国民学校で開館する一方、県下50ヶ所に巡回文庫を開設し、図書の配本・読書会を催すなど、地方文化の向上に力を入れた。

昭和21年5月5日、巡回文庫を再開し、竹田青年学校2個・中部青年学校1個発送した。

旺盛な知識吸収 大分図書館に見る読書態度

大分県立図書館は、戦後復興の途程にあり、読書を通じて知識を吸収し、文化を向上させることに力を入れている。本館では、巡回文庫の開設や読書会の開催など、積極的に読書活動を推進している。読者は、図書を借りに訪れ、知識を吸収し、自己啓発を図っている。このように、大分県立図書館は、読者にとっての知識の宝庫として、積極的に読書活動を推進している。

（大分合同新聞：昭和21年9月1日）

読書癖が殺到 図書館復興へ拍車

大分県立図書館は、戦後復興の途程にあり、読書を通じて知識を吸収し、文化を向上させることに力を入れている。本館では、巡回文庫の開設や読書会の開催など、積極的に読書活動を推進している。読者は、図書を借りに訪れ、知識を吸収し、自己啓発を図っている。このように、大分県立図書館は、読者にとっての知識の宝庫として、積極的に読書活動を推進している。

（大分合同新聞：昭和20年10月6日）

読書指導者講習会

昭和21年2月8・9日、大野郡上井田村青年学校で読書指導者講習会を開催した。県下読書会指定校50校と各図書館・文庫10館の代表者が参加。学校教育と図書館教育についての講義と懇談会。講師 東京日比谷図書館司書 東田平治。講義「読書会に就いて」「読書会教育、私の読書会経営に就いて」。

終戦直後の図書館活動（昭和22年6月現在）

- ①移動図書館 農山漁村の青年団・学校・団体・文庫等に100冊程度1ヵ月間貸出
- ②巡回文庫 青年団員・学校の読書会・文庫等に約30冊を2ヵ月位で常時巡回
- ③館外貸出 個人に1人1冊20日間貸出、郵便で発送可
- ④図書購入斡旋 日本図書館組合への申し込み受け付け
- ⑤図書による調査 簡単な調査事項は来館の必要なく申し込み可能

本県最初の試み 読書指導者講習会終る

大分県立図書館は、戦後復興の途程にあり、読書を通じて知識を吸収し、文化を向上させることに力を入れている。本館では、巡回文庫の開設や読書会の開催など、積極的に読書活動を推進している。読者は、図書を借りに訪れ、知識を吸収し、自己啓発を図っている。このように、大分県立図書館は、読者にとっての知識の宝庫として、積極的に読書活動を推進している。

（大分合同新聞：昭和21年2月11日）

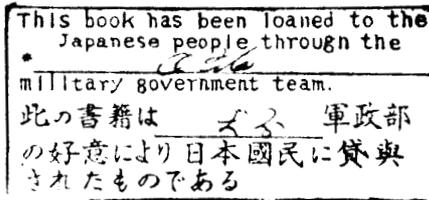
		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1946年(昭21)	7月 5日	残存図書 of 図書原簿作成開始。	
	7月30日	戦後最初の県下図書館協議会開催(日出町立萬里図書館)。	
	9月 3日	大野郡西大野村青年学校に地方移動小図書館を設置。	
	9月 9日	臨時休館、金池国民学校衛生館から同校の3教室に移転、12日から再開。	
	10月 3日	旧敷地に仮建築をする申請書を提出。	
	10月24日	竹田町立竹田図書館から疎開図書を回収(31箱)。	
	11月 3日		日本国憲法公布。
	11月 4～18日	曝書(4～9日)、碩田文庫曝書(8～9日)、府内藩記録曝書(13～18日)、鼠害・虫害(紙魚)・湿気・腐食が相当あり。	
	11月	新憲法公布記念事業として、読書による教養向上のため簡易文庫設立を呼びかける計画あり。	
	12月26日	米軍政部から「アメリカ雑誌」200冊余の貸出(26日)、各文化部及び読書会に配分(27日)。	
1947年(昭22)	1月 1日		財団法人小幡記念図書館が中津市に移管され中津市立小幡記念図書館と改称。
	1月23日	GHQアロウド・ロイ少佐とビーヤ大尉、戦災等状況調査のため来館。	
	3月 7日	戦災復旧工事設計書類を県教学課に提出。	31日 教育基本法・学校教育法公布。
	4月 2日	CIE教育局図書館係キーニー・フィリップと大分軍政本部教育係ビーヤ大尉視察来館、図書館員等30余名と懇談。	1日 6・3制実施。
	4月14日	旧武徳殿にアメリカ文化図書館開館。	17日 地方自治法公布。
	4月18日	占領軍図書館参観のため全館員、別府市出張、県下図書館関係者40余名。	

米軍政部の視察

昭和22年4月2日、九州各県の図書館を視察中の連合軍民間情報教育局（CIE）図書館係キーニー・フィリップが、大分軍政本部教育係ビーヤ大尉とともに来館した。立川県教育民生部長、山室県立図書館長、県下図書館長、文庫長と懇談し、図書館協会の強化や図書館の役割を強調した。

米軍政部の図書貸与

昭和21～24年に米軍政部や連合国総司令部（GHQ）から多くの洋図書・洋雑誌が貸与・寄贈された。これらの中には右のスタンプが押されていた。



昭和21年度当時の閲覧・利用状況

閲覧総数 計16,151人（男8,891人、女7,260人）、
閲覧冊数は24,703冊

閲覧者

	児童・生徒	一般
男	3,624	1,177
女	1,621	110
計	5,275	1,287

図書名別統計（1日平均人数）

昭和22年3月～7月

1	大百科事典	10.0
2	萬有科学大系	9.5
3	リーダーズ・ダイジェスト	8.5
4	夏目漱石全集	7.3
5	現在文学全集	6.0
6	萬次郎漂流記	5.4
7	太閤記	5.1
8	三国誌	2.0
9	東京裁判	2.0
10	マルクス資本論	1.6
11	人間苦と人生の価値	1.6
12	朝日年鑑	1.5
13	学校民主化	1.5

館外貸出（個人） 昭和22年6月～9月

計1,948人（男1,457人、女491人）、1,948冊
この貸出に関する供託金 7,230円

横の連絡を望む

図書館視察のキーニー氏談

大分県立図書館を視察した米軍政本部教育係ビーヤ大尉と、立川県教育民生部長、山室県立図書館長、県下図書館長、文庫長と懇談した。キーニー氏は、戦後の日本は、教育の復興が最も重要な課題であると述べ、図書館の役割を強調した。また、図書館協会の強化や、図書館間の連絡の重要性を述べた。



（大分合同新聞：昭和22年4月4日）

閲覧図書 7,927冊 昭和22年4月～7月

総記	精神科学	歴史	社会	自然	工芸
1,050	249	308	438	464	96
産業	美術	語学	文学	郷土史	新聞・雑誌
158	32	8	3,143	550	1,431

新刊購入 昭和22年4月～7月 362冊、16,144円

総記	精神科学	歴史	社会	自然	工芸
6	19	16	80	46	13
産業	美術	語学	文学	児童文庫	雑誌
23	21	8	99	31	128

生徒が八割一分

大分図書館利用者調べ

大分県立図書館の利用者調査の結果、利用者全体の8割以上が児童・生徒であることが明らかになった。調査は昭和22年1月15日に実施された。調査対象は、大分県立図書館を利用した児童・生徒、一般市民、および職員である。調査結果によると、児童・生徒の利用者は、総利用者数の8割以上を占めた。これは、戦後の教育復興の進展を示していると考えられる。また、児童・生徒の利用者は、主に児童文学、科学、歴史などの分野の図書を利用していることがわかった。一方、一般市民の利用者は、主に新聞・雑誌、郷土史、文学などの分野の図書を利用していることがわかった。この調査結果に基づき、図書館は、児童・生徒の利用者のニーズに応じた蔵書の充実や、読書指導の強化に取り組む必要があると判断された。

（大分合同新聞：昭和22年1月15日）

綾上りの閲覧者

復興第一年の大分図書館

大分県立図書館は、戦後の復興第一年に、閲覧者数が増加し、利用者の裾野が広がった。昭和22年4月4日の調査によると、閲覧総数は16,151人、閲覧冊数は24,703冊に達した。これは、戦前の水準に近づいたことを示している。また、児童・生徒の利用者が全体の8割以上を占めたことがわかった。これは、戦後の教育復興の進展を示している。一方、一般市民の利用者も増加しており、特に新聞・雑誌、郷土史、文学などの分野の図書が人気を集めている。この調査結果に基づき、図書館は、児童・生徒の利用者のニーズに応じた蔵書の充実や、読書指導の強化に取り組む必要があると判断された。

（大分合同新聞：昭和22年4月4日）

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1947年(昭22)	4月19日	山室館長が戦災復興計画について文部省と打ち合わせのため上京。	
	5月 1日		戦後初の県議会召集。
	5月 3日		日本国憲法施行。
	5月25日		『図書館界』創刊。
	6月15日	新着図書目録と移動図書館・巡回文庫規定を各方面に配布。	
	7月12日	アメリカ文化図書館、大分イングリッシュ・スピーキング・クラブ結成会。	
	7月16日	吏道肅正のため館長訓話、勤務時間及び休館日の一部変更発表。	
	8月20日	『大分県立大分図書館館報』復刊第1号、24日各方面配布。	
	8月	夏休みで利用者6割増加、貸し出し100冊、移動文庫2ヶ所、巡回文庫11ヶ所。	
	11月17～23日	第1回読書週間行事。読書傾向調査。	戦後第1回読書週間実施。
	11月21～25日	図書館員講習会(文部省主催、別府市)。	
	11月25日	バーネット来館、当館概況・復興問題につき質問あり。	
	11月	読書週間に学生・青年900名に読書傾向調査、613名の回答。	
	12月 3日	アメリカ文化図書館でアメリカ教育関係教科書を1ヶ月間展示。	
12月 8日	復興促進協議会で木造2階建、延数140坪で早急に着工することを決定。		
12月	年末、国の戦災図書館復興補助金90万円のうち20万円を大分に補助。		

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1947年(昭22)	12月19日	大分県立大分図書館復興促進委員会発足。 寄付金募集始まる。	
	12月		財団法人臼杵図書館が臼杵町に移管され臼杵町立臼杵図書館と改称。
1948年(昭23)	1月	新館建築第1期工事に着手。	
	2月 8日		大分県教育会が解散。
	2月 9日		国立国会図書館法制定。
	4月28日	大分県立中央図書館常任委員会(寄付の経過報告)。 金池校から新館へ引越荷物搬入終了。	1日 淡窓図書館が日田市に移管され日田市立淡窓図書館と改称。
	4月	第1期工事、旧図書館跡に本館並びに宿直室等76.75坪落成(現大手公園)。	
	5月10日	新館舎で開館。	
	6月 3日	図書館協会例会開催、図書修理の講習あり。	5日 国立国会図書館開館
	6月14日		戦後第1回(通算第34回)図書館大会開催。
	7月 6日	府内藩記録整理(6月30日垣本言雄に古文書整理方を委嘱、9月12日終了)。	
	7月 9日	カード目録(分類目録)の編成開始。	
	7月15日	教育委員会法の施行により、大分県教育委員会に所管替え。	
	7月21日	山室館長、軍政部マックニーリーの視察を案内、あらたに読書会(7月21日)、下毛郡西谷文庫(8月4日)。	
	8月14日	米軍政部貸与の16ミリ映写機13台到着、うち6台本館に保管。	
	11月 3~9日	読書週間行事。 読書に関する作文並びにポスター募集。	
	11月20日		第1回県民体育大会開催。
11月	フィルムライブラリー設置。		

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1948年(昭23)	12月14日	大分県図書館協会総会開催、大分軍政部二一リ一報道課長講話。	12月 文部省『学校図書館の手引き』刊行。
	12月28日		大分県議会図書室設置。
1949年(昭24)	1月15日		全国一斉に「図書館デー」を実施。
	3月	第2期工事完了。	
	3月17日	県立大分図書館開館式、3つの記念展を開催。	

復興第一年を迎えて

館長 山室 寿

戦災後約三年振りに県庁前の旧位置に76坪の新館が完成して去る4月28日引移った。思えば感慨無量である。

過ぎし昭和20年7月16日、館舎は全焼、その後館員は僅か2名となった。此の苦境の中から立ち上がる苦痛は並大抵ではなかった。偶々、市教育課の斡旋で金池校の衛生室を借り受けることになって、そこに移ったのが8月20日。ささやかながら図書館と言ふ本拠が出来た訳だ。

爾来三カ年洵に狹隘ではあったが、この部屋こそ我が図書館更正の基盤を与えて呉れた揺籃の室である。其の恩恵を与えて下さった同校及び市教育課の方々には深甚の謝意を表さなければならぬ。

“蟄居参年”それこそ実に暗中摸索の闇の道であり、亦荆棘の道でもあった。卓子一つだになき無一物の中から立ち上がったのである。

引移ると同時に館内設備の応急措置、疎開図書持帰り、混乱せる図書の分類整理、目録の調整、各種帳簿類の整備、閲覧者への施設とサービス、外部では移転場所の物色、再建への交渉、巡回文庫の貸出普及等真に寧日なき忙しさであった。

斯る孤立無援の苦しい歳月を送る中にも幸文化に理解を持たれ図書館に関心を寄せらるる方々の集に依って昨年新たに図書館復興促進委員会が生まれ出た。

併して其の活動も本年に入りて愈々本格的となり、一月には既に第一期工事に着手、四月には竣成と言ふ驚くべきスピードを以て完成したのである。

去る四月の県会で“個人住宅の様だ”と表された位の実に小規模なものではあるが兎に角図書館と云ふ本拠の出来たことは真に心強い限りである。

今後第二第三工事と名実共に県立図書館にふさわしいものに仕上げたい。

新館移転を一転機に、館員一同も張切った。新しい気分で日々の仕事に携はってゐる。そして過去の旧弊を脱した“サービスの図書館であり”“動く図書館であり”“民主的な図書館であり”“文化基盤の図書館である”ことを念頭に置いて、日々精進を続けてゐるのである。

『大分図書館報』第3号昭和23年8月より（本文は手書きの謄写版）

同号には館員の次のような短歌も載っている

三々五々笑顔で集う若人等 郷土に建てし文化の殿堂
真剣に文読む姿たのもしや 文化日本の尊き礎

アメリカ文化図書館

戦争直後、日本の民主化をめざす占領軍総司令部は、各地方ブロックの中心地にCIE図書館を開設していた。CIE図書館は文化宣伝機関だが、アメリカの公共図書館式の運営で、日本のモデル図書館の役割も担っていた。

昭和22年4月、荷揚町の旧武徳会事務所（武徳殿横）の一棟に、軍政部の厚意で大分県立アメリカ文化図書館が開館した。館の舎屋は3室、窓と廊下が広い立派な木造建だった。

初代館長には山本コトが就任した。海外生活が長く、YWCA大分支部長でもあった。昭和24年6月、アメリカ文化図書館は軍政部から離れて、福岡CIE図書館（福岡アメリカ文化センター）の大分分館となった。

館内の集会行事には、英会話クラブや週1回のレコードコンサートがあった。英会話クラブは県立図書館と合併後も長く続いた。

昭和23年6月の蔵書数は約1,800冊とささやかなものだった。新着図書の整理装備は、東京CIE図書館でなされ、必要枚数のカードとともに送られてきた。蔵書の内容は、小説類、実用書から専門書まで幅広かった。

蔵書のなかには約100冊の絵本があり、子どもたちに貸し出すと喜ばれたので、翻訳児童書も購入するようになった。当時、大分図書館に児童室があったが、貸出をせず新刊を補充しないため利用が少なかった。

昭和28年4月、アメリカ文化図書館は県立図書館に吸収され、外国資料室となり、昭和30年にはその一室に児童室が開設された。本館の児童書約700冊を加え、約1,400冊の蔵書で本格的な児童奉仕を始めることになった。



米軍の贈りもの
大分アメリカ文化図書館

アメリカ文化図書館は大分県立図書館の前身である。戦後、米軍総司令部は日本の民主化を目的として、各地にCIE図書館を開館した。大分県立アメリカ文化図書館は、その一として、荷揚町の旧武徳会事務所（武徳殿横）の一棟に、昭和22年4月に開館した。館の舎屋は3室、窓と廊下が広い立派な木造建だった。初代館長には山本コトが就任した。海外生活が長く、YWCA大分支部長でもあった。昭和24年6月、アメリカ文化図書館は軍政部から離れて、福岡CIE図書館（福岡アメリカ文化センター）の大分分館となった。

断然学生が多い
アメリカ文化図書館

アメリカ文化図書館は、開館以来、断然学生が多い。これは、館内に設置された読書会や、学生向けの読書会などが、学生に人気があるためである。また、館内に設置された英語学習コーナーも、学生に人気がある。館内には、英語学習用の教材や、英語学習用の辞書などが、豊富に揃っている。また、館内には、英語学習用の教材や、英語学習用の辞書などが、豊富に揃っている。



成功した英会話クラブ

アメリカ文化図書館には、英会話クラブが成功した。これは、館内に設置された英会話クラブが、学生に人気があるためである。また、館内に設置された英語学習コーナーも、学生に人気がある。館内には、英語学習用の教材や、英語学習用の辞書などが、豊富に揃っている。また、館内には、英語学習用の教材や、英語学習用の辞書などが、豊富に揃っている。

(大分合同新聞：昭和22年4月12日、4月26日、7月13日)

職員・建物・予算

昭和25年度	館長	司書	司書補	その他	合計	延坪	増加冊数	予算(円)	図書費(円)
大分県立大分図書館	1	2	5	2	10	176.0	4,900	2,646,800	1,400,000
アメリカ文化図書館	1	0	1	2	4	207.7	538	513,978	35,997

利用状況

昭和25年1~12月	館内	成人	学生	児童	館外	男	女	児童
大分県立大分図書館	33,289	5,939	25,648	1,703	5,450	4,507	943	
アメリカ文化図書館	15,249	4,823	5,771	4,655	6,351	1,435	2,855	2,061

館外貸出方法

大分県立図書館：保証人1名、携出券発行、図書代価預かり、1冊10日間
 アメリカ文化図書館：身分証明書・米穀配給通帳で身元確認、登録カード作成、書籍雑誌各々1冊1週間

図書整理方法

大分県立図書館：NDC分類目録 アメリカ文化図書館：DDC分類目録

定例活動

レコードコンサート週1回 映写会週1回 英語談話会（アメリカ人指導） 初級英語会（アメリカ人指導）
 レコード鑑賞会 子供会月1回

第 1 章

第 4 節

荷揚町(現在の府内町) 旧館時代

昭和24年～昭和41年(1949～1966)



復旧なった県立図書館(昭和24年)

大分県立大分図書館が大分市荷揚町(現在の府内町)に全館竣工した昭和24年、アメリカ文化図書館は米軍政部から離れ福岡CIE図書館の大分分館として新発足した。また、同年に発行された大分県中央図書館報第1号では活版印刷が再開されるなど、戦後の図書館復興は着実に進められた。

昭和25年には図書館法公布を受けて大分県条例が制定され、翌年第1回図書館協議会が開催された。昭和28年、創立50周年記念式典が行われ、福沢諭吉資料展や五十年史記念出版などの行事が催された。

利用者は着実に増え、自動車文庫も本格的活動を開始、昭和35年には全町村を巡回し、大分県読書推進運動協議会も結成された。

また、閲覧室の拡張、辞書体目録の編成、大分県郷土資料分類表の作成と整備が進められ、書庫の書架増設工事も行われた。

しかし、それにもかかわらず図書館法の最低基準を満たすことができず、外観、内容とも九州低位という位置は変わらなかった。

そうした状況下の昭和36年、本県出身者から図書館建設基金寄付の申し出があり、既に新館構想を持っていた県はこれを機に新館建設を決意した。本県出身の建築家に設計を委託、図書館協議会の協力もあり、大分市荷揚町に建設地を定めて昭和40年2月着工した。

荷揚町（現在の府内町）旧館時代

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1949年(昭24)	4月 4日		NATO結成。
	4月18日	安心院町出身の主婦之友社石川数雄社長から『ヘレンケラー・アルバム』『両親教育』等100冊寄贈。 5月10日、三浦梅園の銅像寄贈。	20日 日本図書館協会、図書推薦委員会・図書選定委員会設置。
	4月	八千円文庫運動(学校図書館・読書施設への良書推薦・周旋)を呼びかけ。	
	5月31日		大分大学附属図書館開館。
	6月 7日	天皇陛下巡幸に際し、貴重蘭書2冊を別府宿泊所(日名子旅館)でご覧になる。	10日 社会教育法公布。
	6月11日	アメリカ文化図書館が福岡CIE図書館大分分館として新発足、開館式。読書室に貸与文庫新設。	
	6月30日		財団法人帆足記念図書館が日出町に移管され日出町立萬里図書館と改称。
	7月 5日	夜間開館開始(火、木の午後8時30分まで)、夜間勤務者は当直が担当。	
	7月13日	戦後購入図書を半開架式として利用に供する。	
	8月11日	大分県立図書館貸出文庫利用者懇談会開催。	
	9月 2日	直入地区読書指導研究協議会を同郡白丹村小学校で開催。	
	9月 6日	山室館長、九州各県中央図書館長会議出席(熊本市、7日まで)。	
	9月27日	山室館長、公共図書館法制定促進協議会出席のため上京。	
	10月 1日		中華人民共和国成立。
	10月 3～10日	読書週間行事。映画の会、標語発表、図書定価販売、子供読物について座談会、子供の読書祭、読書指導研究会、読書ポスター配布、名士に質問。	
10月 4日	大分県立図書館読書施設連絡会開催。		
10月21日	県内図書館協議会開催(日田市咸宜園)。		

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1949年(昭24)	11月 1日	『大分県中央図書館報』第1号刊行。	
	11月 3日		湯川秀樹ノーベル物理学賞受賞。
	11月 9日	大塚、久多羅木、垣本の3氏、大分市の委嘱により府内藩記録の調査開始。	
	12月 1日	大分アメリカ文化図書館開館時間変更。	
1950年(昭25)	2月 3日		福沢諭吉50年祭。
	2月13日	アメリカ文化図書館・県教育庁社会教育課と共同で九州第2番目の自動車文庫実施(宇佐郡・下毛郡)。	
	2月27日		全国学校図書館協議会設立。
	3月31日	広中益次郎館長就任。	
	4月30日		図書館法公布。
	9月 1日		『学校図書館』創刊。
	10月 9日	大分県図書館協会結成、県内図書館長会議開催。	
	10月10日	図書館の設置廃止及び設置者変更の報告並びに届出に関する規則制定、大分県立図書館規則廃止。	
	10月27日	読書週間行事(11月3日まで)。郷土文化展示会、考古民俗資料展、郷土文化講演会、優良図書展示、子供の読物相談、小説人気投票、図書まつりの夕、自動車文庫、館報第3号発行、新聞・ラジオ放送。	
	11月21日	大分県立図書館並びに大分県立大分図書館協議会設置条例制定。	

『大分県中央図書館報』の新装刊

手書きの謄写版印刷から新しく活版印刷に変わった『大分県中央図書館報』第1号が昭和24年11月1日付けで刊行された。第3号（昭和25年10月20日刊）からは『大分県立大分図書館報』と誌名を変更し、10月～11月に読書週間記念として刊行されるようになった。

府内藩記録の調査

書庫に保管されていた府内藩大給家関係文書は、戦後から昭和23年8月にかけて主に垣本言雄により分類整理された。昭和24年11月9日からは、上田保大分市長の委嘱で、郷土史研究家久多羅木儀一郎・大塚富吉・垣本言雄の3氏による研究が行われた。

その後も、書庫に保管されたが、予算難から製本・防虫等の管理に手が回らず、史料の傷みは激しかった。

世に出る封建史

大給家の日記など 800冊に研究のメス



大分県立大分図書館報が、大分県立大分図書館蔵の藩記録800冊を調査し、その内容を研究して世に出すことに決めた。藩記録は、大分県立大分図書館蔵の藩記録800冊を調査し、その内容を研究して世に出すことに決めた。藩記録は、大分県立大分図書館蔵の藩記録800冊を調査し、その内容を研究して世に出すことに決めた。

（大分合同新聞：昭和24年10月30日）

貴重史料ボロボロ

県立図書館 予算難から



藩記録は、大分県立大分図書館蔵の藩記録800冊を調査し、その内容を研究して世に出すことに決めた。藩記録は、大分県立大分図書館蔵の藩記録800冊を調査し、その内容を研究して世に出すことに決めた。

（大分合同新聞：昭和31年4月22日）

自動車文庫の運行

昭和25年2月13日、アメリカ文化図書館・県教育庁社会教育課と共同で、自動車文庫の運行を開始した。社会教育課のトヨタ製5人乗の中古車こひばり号が、音楽を放送しながら農山村を巡回した。地方公民館や青年文庫向きの図書貸出、生活指導のポスター展、アメリカの生活の写真展、紙芝居実演、映画会、レコード鑑賞会等を行い、文化の高揚を図った。

昭和26年7月27日からは、移動図書館という名前でトラックでの運搬に切り替わった。実施回数を増やすために機動力をもつ専用の移動図書館車が強く望まれた。

「自動車文庫」

県下の村村へ

移動図書館が、試みとして左の農村を巡回した。試みとして左の農村を巡回した。試みとして左の農村を巡回した。

（大分合同新聞：昭和25年2月12日）



（大分合同新聞：昭和25年2月19日）

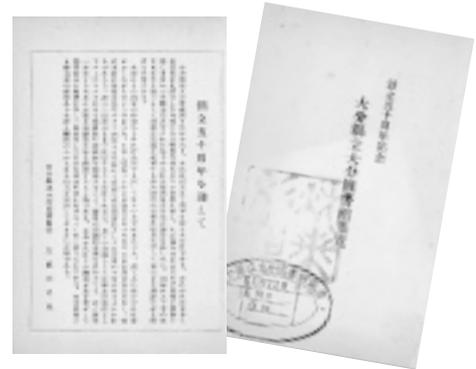
		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1950年(昭25)	12月11日	教育委員会12月定例会議で、図書館法による県立大分図書館協議会委員決定。	13日 地方公務員法公布。
	12月25日		『日本十進分類法』新訂6版刊行。
1951年(昭26)	1月29日	第1回図書館協議会開催。	
	2月19～24日	昭和25年度九州地区図書館研究集会開催。	
	5月 5日		児童憲章制定。
	5月25日	大分県立大分図書館協議会会議規則制定。	
	6月 1日	開館時間変更(10時～18時)。	
	7月 1日	友成大之丸館長就任。	大分県学校図書館協議会(県SLA)結成。
	7月27日	移動図書館を初めて実施(宇佐郡)。	
	7月30日		石川利光(日田市出身)『春の草』で第25回芥川賞受賞。
	9月 8日		日米講和条約・日米安全保障条約調印。
	12月 6日	県議会で、坪数、蔵書数、職員数とも図書館法の最低基準まで拡充すべきとの要求あり。	
1952年(昭27)	4月 1日		別府市立図書館開館。
	5月23日	全国図書館大会特殊部会開催(別府市)。	
	10月29日	読書週間行事(11月4日まで)。古書展示即売会(県古書籍商組合)、優良読書施設表彰等。	
	10月	1日平均150名から200名の利用者、学生特に高校生が多い。	
1953年(昭28)	2月 1日		NHK、テレビ本放送開始。
	2月23日	『大分県立大分図書館要覧 創立五十周年記念』刊行。	
	2月26日	創立50周年記念式典、福沢資料展。	

創立50周年記念式典

昭和28年2月26日、創立50周年の記念式を開催した。50周年記念図書館要覧と館報の発行、福沢諭吉の遺墨・写真・図書、稀覯書展示を行った。

50周年当時の概況

- ・敷地面積 175.75坪
- ・蔵書冊数 24,536冊
- ・職員 10名（欠員1名）
- ・開館時間 午前9時～午後4時半
- ・定期休館日 年末・年始、国民の祝日、毎週月曜日
館内整理日（毎月末）、曝書期（秋期2週間）
- ・館内利用 閲覧票の交付を受ける、同時に3冊まで
- ・館外利用 図書携出券を有する者、図書の時価に相当する保証金の納付
同時に1冊まで、大分市内10日以内・市外は15日以内
- ・貸出文庫 20名以上からなる読書会・団体等、同時に30冊まで、1ヵ月以内
なるべく1回以上図書を中心に語り合う会を催し、その記録を提出する
会員名簿（氏名・年齢、学歴・職業等）を添えて申込書を提出する
読書会の状況記録、閲覧者数調べの報告



（『大分県立大分図書館要覧 創立五十周年記念』）

利用統計（昭和27年1月～12月、開館日数291日）

貸出統計

	館内閲覧						館外閲覧	
	計	児童	学生	一般	一日平均	冊数	人	冊
男	22,760	1,363	14,759	6,683	79	39,520	4,448	4,448
女	8,122	640	6,081	1,400	28	11,587	1,221	1,221
計	30,881	2,003	20,840	8,038	108	51,107	5,669	5,669

職業別

職業	児童	学生	公務員	教育 宗教家	法 務 医 業	農林水産	鉄工業	商・交通業	会社員	無職	その他	計
冊数	2,007	22,127	1,336	361	78	199	167	452	965	3,189	-	30,881

分類別

総記	哲学 宗教	歴史 地誌	社会科学	自然科学	工業工学	産業	芸術	語学	文学	郷土誌	新聞雑誌	計
3,893	1,619	3,834	6,233	4,423	1,642	1,873	2,346	1,481	11,665	1,668	10,434	51,111

貸出文庫

	大分市	別府市	臼杵市	大分郡	大野郡	玖珠郡	速見郡	宇佐郡
団体数	99	17	16	135	26	19	43	55
貸出冊数	2,492	361	328	3,605	703	408	1,083	1,860
	直入郡	日田市	東国東郡	西国東郡	南海部郡	北海部郡	下毛郡	合計
団体数	19	1	14	1	5	6	7	463
貸出冊数	565	2	563	30	200	418	175	12,793

注 貸出統計の数字に誤りはあるが正確な数字を確認できないため、そのまま作成した。

（『大分県立大分図書館要覧 創立五十周年記念』より）

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1953年(昭28)	3月18～ 31日	曝書。	
	4月 1日	アメリカ文化図書館を併合し、外国資料室とする。	
	6月 4日		日本図書館学会創立。
	8月 8日		学校図書館法公布。
	10月27日	読書週間行事(11月2日まで)。優良読書団体表彰、貸出文庫・移動図書館利用者座談会、館報発行、こども移動図書館、市内中学校・高校との座談会、レコードコンサート、一般閲覧者座談会、図書人気投票発表、映写会、外国図書資料展示会、詩と絵の小展覧会。	
	11月12日	友成館長、西日本図書館学会創立総会出席(福岡市)。	
	11月20日	曝書(12月4日まで)。	
1954年(昭29)	3月20日	『読書たより』第1号発刊。	
	4月 1日		竹田町立竹田図書館が竹田市立図書館と改称。
	5月31日		高田町立図書館が豊後高田市立図書館と改称。
	6月30日		『図書館学』創刊。
	10月	読書週間行事。優良読書団体表彰、館報発行、論文の懸賞募集「図書館はどうあるべきか」、優良新刊図書立ち読み並びに即売会、文化映画の会、優良映画スチール展、ラジオ放送「読書週間と図書館」。	
1955年(昭30)	6月30日	児童室を暫定的に本館から外国資料室へ移転。	
	8月15日	大分県読書団体連絡協議会結成大会、約25団体・50数名出席。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1955年(昭30)	10月	読書週間行事。記念図書館報発行、県下優良読書団体表彰、大分県読書団体連絡協議会及読書座談会、文化映画の会、詩と絵の展示会、図書販売会、書物クイズ懸賞募集。	
	11月16～30日	曝書。	
1956年(昭31)	1月 1日	青少年巡回文庫実施(3月末日まで)。	
	3月30日		大分県視聴覚ライブラリー設置、大分県視聴覚ライブラリー教材教具貸出規則制定。
	4月 1日	坂本信彦館長就任。	
	6月12日		図書館法一部改正。
	7月 1日		大分県点字図書館開館。
	7月15日		映画フィルム共同利用のため大分県視聴覚教育協議会発足。
	7月18日	夏季開館時間変更、午前8時30分開館。	
	10月27日	読書週間行事(11月2日まで)。夜間開館(午後8時まで)、書庫開放、優良読書団体表彰、映写会、読書についての母子座談会(小・中学校)。	
	11月 9～22日	曝書。	
	11月30日	移動図書館「やまばと号」、大分図書館到着。	
12月 5日	移動図書館「やまばと号」巡回開始(安心院町・宇佐郡・中津市方面)。	18日 日本、国際連合に加盟。	
1957年(昭32)	2月10日	図書館利用者状況調査開始。	
	4月	移動図書館「やまばと号」本格的活動開始。	
	5月21～31日	閲覧室拡張のため臨時休館。	
	7月	辞書体目録作成開始。	
	8月下旬	夏休みの小、中、高校生の利用増。平常は7、80名の利用が連日200名以上。	

青少年巡回文庫

昭和31年1月から3月末まで、地方の青少年に読書機会を提供するため実施した。

県下の読書団体6団体と国東町の6地区に各50冊ずつ貸し出し、読書団体間では半月利用後、国東町の地区間では一ヶ月利用後、図書を順次交換した。

県立図書館では、毎月1回座談会、発表会を開催した。

文化の隆進に資するため、青少年に「巡回文庫」を巡回させる。巡回文庫は、大分県立図書館が中心となり、県下の各自治体と連携して実施される。巡回文庫の巡回ルートは、大分県立図書館から、国東町、宇佐市、三好市、大分市、大分県立図書館へと巡回する。巡回文庫の巡回ルートは、大分県立図書館から、国東町、宇佐市、三好市、大分市、大分県立図書館へと巡回する。

巡回文庫の巡回ルートは、大分県立図書館から、国東町、宇佐市、三好市、大分市、大分県立図書館へと巡回する。巡回文庫の巡回ルートは、大分県立図書館から、国東町、宇佐市、三好市、大分市、大分県立図書館へと巡回する。

村の青少年に巡回文庫

県立図書館 新年早々から実施

(大分合同新聞：昭和30年12月25日)

移動図書館「やまばと号」

昭和31年12月5日、移動図書館、初代「やまばと号」が県内巡回を開始した。「やまばと号」という名前は公募したものである。約200万円のトヨタ自動車製で収蔵可能約2,000冊だった。

移動図書館は昭和26年から実施していたが、当初は汽車やトラックで図書を選び、3ヶ月後回収するというものだったため、巡回地が限られていた。

初出動では各町村教育委員会に30冊ずつ貸出した。

【巡回コース】

12月5日：別府-安心院-院内-四日市

12月6日：宇佐-駅川-長洲-中津

12月7日：三光-耶馬溪-本耶馬溪-山国

12月10~15日：大野・南海部・直入・大分の4郡

12月17~21日：速見・東国東・西国東・北海部の4郡



走る図書館登場
5日から県下を巡回

走る図書館として、県教育委員会が運営した。三十分大分県立図書館に属した自動車文庫「やまばと号」が、約200万円のトヨタ自動車製で収蔵可能約2,000冊だった。初出動では各町村教育委員会に30冊ずつ貸出した。

(大分合同新聞：昭和31年11月29日)



(大分合同新聞：昭和31年12月6日)

移動図書館「やまばと号」の歌決まる

「やまばと」の歌

作詞 河西新太郎
作曲 田村 卓夫

一、光 あかるい 朝風うけて
希望あふれる 二豊の山河
めぐる「やまばと」自動車文庫
見たい読みたい 良い本ばかり
みんな 笑顔で とりかこむ

二、汗も 楽しい 仕事を終えて
ひらくページに 心もおどる
うれし「やまばと」自動車文庫
見たい聞きたい 良い本ばかり
明日の 暮らしに 花が咲く

三、耶馬の ふもとを 温泉の里を
きょうも訪ねて 山越え野越え
ゆくは「やまばと」自動車文庫
見たい借りたい 良い本ばかり
胸に 大きな 夢が わく

自動車文庫「やまばと」の歌決まる

大分県立図書館では、冬の読書期間の行事として自動車文庫「やまばと」の歌を募集したが、応募六十以上のうちから次の通り当選、佳作を決めた。

【当選】河西新太郎（高松市浜ノ丁）
【佳作】高橋一昭（大分市舞鶴町十六通）
松本正清（別府市土見区）
当選歌の一節次の通り。

(大分合同新聞：昭和32年11月17日)

光あかるい 朝風うけて
希望あふれる 二豊の山河
めぐる「やまばと」自動車文庫
見たい借りたい 良い本ばかり
みんな笑顔で とりかこむ

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1957年(昭32)	10月 8日	大分銀行合併30周年記念として寄付を受ける。	
	10月14日	久多羅木儀一郎の助言により古文書整理。	
	10月27日	読書週間行事(11月2日まで)。大分市内移動図書館(10月27日～11月1日)、母と子の読書座談会(10月27日)、映写会(11月2日)。	
	11月 6～7日	九州地区図書館長会議(別府市)。	
	11月15日	公募した移動図書館「やまばと号」の歌当選者、高松市在住の河西新太郎に決定。	
1958年(昭33)	6月 7日	英会話会が再開(毎土曜日)。	
	6月11日	エスペラント講習会が再開(毎水曜日)。	
	9月11日	館則の一部改正。	
	9月	大分県郷土資料分類表作成。	
	10月27日	読書週間行事(11月1日まで)。大分市・別府市で移動図書館(10月27～29日)、懸賞論文「私はこんな図書館がほしい」の入賞者決定(10月30日)、学生、サラリーマンなど利用者10名を招き座談会(11月1日)。	
1959年(昭34)	4月 2日	志賀正道館長就任。	
	4月23日		第1回こどもの読書週間(5月12日まで)。
	4月30日		図書館法施行令改正。
	5月19～25日	西日本新聞社主催九州地区読書感想画コンクールの優秀作品展示。	2日 日出町で児童読物の懇談会。演題「最近の児童の読書傾向について」。
	5月22日	開拓地への移動図書館開始。 テストケースとして、日出町土橋開拓地に巡回。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1959年(昭34)	6月10日	館報『まぐのりあ』復刊。	
	6月10日	図書館案内(リーフレット)発行。	
	6月	府内藩記録の目録作成に着手。	
	7月31日	県庁大掃除に際し、行政資料収集。館長以下殆ど全職員で対応。	
	8月10日	移動図書館「やまばと号」が、移動公民館に参加。下毛郡(10～13日)・日田郡(24～27日)、各5ヶ所。	
	8月	『郷土誌出版目録』刊行。	
	9月28日	曝書のため貸出を停止(10月10日まで)。貸出中の全図書を回収し、目録カードと図書との照合を主として行う。	
	10月28日	読書週間行事(11月4日まで)。読書座談会、佐藤義詮氏ら多数出席(10月28日)、レコードと映画による夕(10月29日)、母と子の読書座談会(10月31日)、書評入選者表彰式(11月4日)。	
	11月17日	日田郡、下毛郡の青少年を対象に巡回自動車文庫開始。	1日 『大分県図書館協会報』創刊。
	11月10日		読書推進運動協議会設立。
1960年(昭35)	1月15日	外国資料室を分室に改める。	19日 日米新安全保障条約調印。
	2月 3～5日	九州地区図書館職員ゼミナール開催(別府市)。参加者約60名。	20日 『図書館ハンドブック』改訂版刊行。
	4月～	移動図書館「やまばと号」全町村を巡回。	
	5月11日	大分県図書館協会総会開催(豊後高田市)。	2日 大分県読書推進運動協議会結成。
	5月24日	大分県立大分図書館館則一部改正。	

図書館案内発行

三つ折のリーフレットである。

裏面の記載事項

*館のあゆみ

*機構

*資料

蔵書数、貴重図書

図書の分類、図書目録

*利用状況（昭和33年度）

館内閲覧冊数、館内閲覧人員

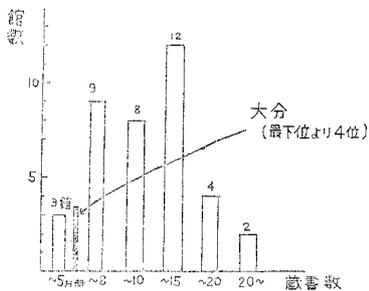
館外個人貸出、貸出文庫

自動車文庫



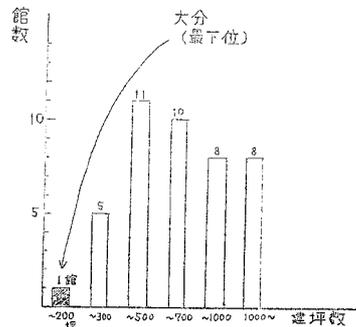
全国の水準からみた大分図書館

1. 蔵書数



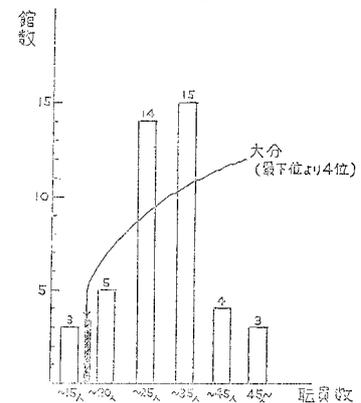
大分図書館の蔵書数は5万4000冊、全国都道府県の最下位から4番目となっている。

2. 建物の坪数



大分図書館の延坪数は175坪、戦後の仮建築で、全国最下位である。昭和27~34年まで全国で鉄筋による本建築をし、また建築中のものは20に達し、8,000万円~3億1000万円の費用を投じている。

3. 職員数



大分図書館の職員数は16人で、最下位より4位である。

(『大分県立大分図書館』要望事項』昭和34年9月)

以上の3つの点を総合して評価すると、最下位より2位となるが、最下位となった県の人口と比較して、実質的には大分県が最下位であるとまとめている。

九州地区図書館職員ゼミナールの開催

日時：昭和35年2月3~5日

場所：別府市豊泉荘

参加者：約60名

概要：(研究発表) レファレンスの在り方について
 図書館の奉仕活動は如何に展開すべきか
 図書館建築について
 大分県立図書目録作業規則について
 (講演) 図書館法の改正について
 アメリカの図書館を視察して

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1960年(昭35)	6月25日	分室で毎週土曜日の午後実施されていた英会話会の講師ジョーゲンセン夫妻の送別パーティー開催。	
	6月27日	青少年巡回文庫を大野、直入地区に始める。	
	7月 1日	課制がしかれる(総務課 奉仕第一課 奉仕第二課)。	
	7月27～ 30日	移動県庁に移動図書館「やまばと号」参加。日田郡、津江方面巡回。	
	8月10～ 14日	大分県図書館協議会委員、県立図書館副館長、佐賀・長崎・熊本県立図書館を視察。	
	9月 9日	移動図書館「やまばと号」巡回の際、安岐町朝来地区で読書座談会と映画会開催。	
	10月 9～ 10日	臼杵市で大分県図書館職員研修会(県教委主催)。	
	10月21日	特許公報類(昭和25年以降)移管受入。	
	10月27日	読書週間行事(11月2日まで)。堀秀彦講演会、映画「にあんちゃん」(10月27日)、ブックモビル(大分花津留新町公民館(10月28日)、大分製紙工場(10月30日)、杵築三光坊開拓地(10月31日)、大分職業訓練所(11月1日))、母と子の読書座談会(10月29日)、書庫の開放(11月1～2日)、読書感想文授賞式、レコードコンサートと音楽映画の会(11月2日)。	
	12月 1日		日田市立淡窓図書館新築開館。
12月10日		竹田市立図書館新築開館。	
1961年(昭36)	2月14日	秋葉文庫購入。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1961年(昭36)	3月 7日	NHK大分放送局員、図書館再建事情調査のため来館。館長と対談。	
	3月13日	書庫の書架増設工事開始。	
	4月 1日	串田順館長就任。	
	4月 1日		大分県立芸術短期大学附属図書館開館。
	4月11～12日	九州地区県立図書館長会議開催(別府市)。	15日 『日本十進分類法』新訂7版刊行。
	6月17日		図書館法一部改正。
	7月10日		別府大学司書講習開講。
	8月	特許庁の「実用新案公報」の整理・分類。	
	8月	夏休みの中・高校生、大学生の利用者が300人を超え、超満員(定員80人)。	
	9月25日	三浦義一氏(大分市出身)から母堂の篤志により図書館建設基金寄付の申し出を受ける。	
	10月25～31日	読書週間行事。図書館を語る座談会(10月25日)、レコードコンサート(10月28日)、母と子の座談会(10月29日)、読書感想文入選者発表(10月31日)。	
	11月 1日		国立国会図書館新築開館(永田町)。
11月 1日		別府市立図書館新築移転。	
1962年(昭37)	1月10日	建築家磯崎新氏(大分市出身)に新館建設のための設計を委託。	
	3月20日	『郷土資料目録』刊行。	
	5月 2日		読書推進運動協議会寄贈図書を県下児童福祉施設に送る。
	5月22日	自動車文庫反省協議会。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1962年(昭37)	7月25日	移動県庁に移動図書館「やまばと号」参加。	
	8月	特許庁の「特許公報」の整理・分類。	
	9月 6～7日	九州地区県立図書館事務連絡会開催(別府市)。	
	9月 6日	県庁移転にともなう行政資料の収集作業開始(11月17日まで)。	
	10月 8～20日	曝書。『日本十進分類法』新訂7版に合わせて、図書の分類、ラベルの変更等を終了。	
	10月27日	読書週間行事(11月2日まで)。「親と子の20分間読書」座談会(10月27日)、読書感想文の入選発表(10月29日)、移動図書館やまばと号で大分市内の職場訪問(11月1～2日)。	
	11月 9～15日	県勢展覧会。	
	12月 2日	棕鳩十を迎え、読書推進講演会開催。	
	12月 9日	ブッククラブ西日本座談会。	
	12月25日	保存用新聞の製本開始。	
1963年(昭38)	2月15～16日	県行政資料収集。	
	2月22～23日	県内の移動図書館研究協議会開催(別府市)。移動図書館発足以来初めて。	
	3月31日		『中小都市における公共図書館の運営』刊行。
	4月 1日	布施順生館長就任。	
	4月 3日	磯崎新を囲む新館建築打ち合わせ会。	
	4月15日		『全国公共図書館逐次刊行物総合目録』第1巻刊行。
	4月19日	OBSラジオ対談録音。職員2名、利用者2名。	
	5月 2日		読書推進運動協議会寄贈図書を県下児童保護施設に送る。
5月 4日	第5回こどもの読書週間の寄贈図書配布。		

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1963年(昭38)	7月17～ 18日	九州地区図書館職員研究集会並びに第2回九州地区 全国逐刊目録編集委員会開催(別府市)。	
	8月 9日	台風9号通過。午後3時から休館。	
	8月20日	県庁移転にともない収集した行政資料の整理を開始。	
	8月23日	カードボックス設置。	
	8月	特許関係公報の分類整理終了。	
	10月 7～ 19日	曝書。	
	10月28日	読書週間行事。読書感想文審査(10月28日)。へき地 離島訪問文庫(津久見市無垢島(10月31日～11月1日)、 蒲江町深島(11月25～26日))、職場訪問文庫(大分刑 務所(11月5日))。	
	11月18～ 19日	県内の移動図書館研究協議会開催(別府市)。移動図 書館「やまばと号」駐車場関係者約60名参加。	
1964年(昭39)	1月15日		財団法人童心会児童図書館開館(中津 市)。
	2月 8日	図書館協議会開催。新館建築促進について木下知事 へ陳情。	
	4月 1日		別府女子短期大学(現別府溝部学園短 期大学)附属図書館開館。
	4月 1日		大分短期大学附属図書館開館。

内容紹介もつく

県立「郷土資料目録」できる

県立大分図書館では一昨年来「郷土資料目録」を編さんしていたが、このほどやっと完成した。県下の郷土資料目録は昭和十六年に同図書館が出した「図書分類目録・郷土誌部」に引き継がれて二十数年ぶり。しかもこの間の資料目録は書名、著者名、和洋別、ページ数、発行所、発行年、本の大きさ、蔵書印などのほか「付」注「内容」などがつき、重要資料はその内容の概略が示され、郷土資料目録としては全面的にもめずらしく充実している。

郷土資料の本格的目録を作ろうという動きは戦前から県立図書館内にあり、昭和十年に同館に入った府内藩記録の目録作成などをこころい進めてきた。しかし二十七年七月に同館は戦災にあい、戦前の郷土資料目録はつかれ、郷土資料目録の作成も一時中止された。ところが一昨年三月郷土史家の故伊東東氏（三重町秋葉 秋葉文庫創立者）が同館館に寄贈した「秋葉文庫」の中から戦前の郷土資料目録「備忘録」の「郷土資料目録」(明治三十八年刊)と「図書分類目録・郷土誌部」(昭和十六年刊)の二冊が発見され、この発見を機会に再び郷土資料目録の

編さんが始められ、このほどやっと完成した。実に二十数年の夢が実現したわけでもあり、また同館がどんな郷土資料を所蔵するかがこれで初めて明らかにされたわけ。

目録に取められた資料は三十七年三月三十一日現在同館が所蔵する約三千四百点。分類は昭和三十三年に同館が出した「大分県郷土資料分類表」により、歴史、地理、宗義、歴史、地域、社会科学、自然科学、工業、産業、芸術、語学、文学、府内藩記録、岡田義史、豊後国志、豊州雑志、豊後国志、書名索引、著者名索引となっている。

目録の最大の特徴は重要資料について内容が紹介されていること。写本にはいつたれが、どの本を写本したかなど写本成立の経路が明記されている点。また目録完成までには八回から十回、多いときには十五回も校正を重ね、誤植がほとんどない。

この目録の完成によって図書館にどんな資料があるかわかるだけでなく、大分県の出版界の意図もあり、各方面から注目されている。なお「郷土資料目録」は四百部限定出版、非売品。

(大分合同新聞：昭和38年2月10日)

郷土資料目録作成の日程

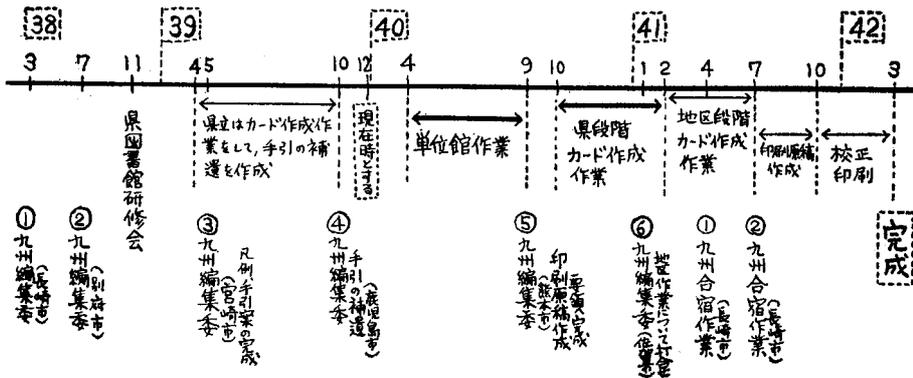
昭和36年	4、5、6月	和本類の分類切替 えと目録カード作成 2人
	7、8、9月	秋葉文庫の整理、 目録カード作成 3人
	10～2月	原稿作成 2人 書名カード、著者名カード作成 1人
昭和37年	3月	出稿
	6～12月	校正 2人
	11～1月	索引原稿作成、校正 1人
	2月	完成
		校正は特に注意した。平均6、7回、多きは14回校正したものもある

(『まぐのりあ』第16号)

全国逐次刊行物総合目録九州地区編集委員会開催

『全国公共図書館逐次刊行物総合目録 九州編』の完成をめざし、昭和38年7月に別府市で開催された。第1巻近畿編の編集にあたった神戸市立図書館の浅野一を迎えて2日間にわたり討議した。

全国逐次刊行物九州地区作業予定表



(『まぐのりあ』第19号)

特許関係公報の分類整理

県立大分図書館では三十六年度から特許庁発行の特許関係の公報を一般に利用しやすいよう分類整理していたがこのほど完成した。特許関係の公報は大分・鶴崎臨工地帯の造成などにもなつて三十五年ごろから利用者が急激にふえ県立大分図書館にもしばしば問い合わせがきた。そこで同館はこれまで県工業試験場の倉庫に保存されていた特許関係の公報をもらいさげ、学生をつかって三十六年の夏から整理分類にかかった。分類された公報は二十五年一月から三十八年七月までに特許庁から発行された特許公報、実用新案公報、意匠公報、商標公報約五千冊。一冊一冊をばらして「農芸」「水産」「建築」「染料」「工具」など百三十六に大きく分類、さらに「農芸」については整地、育成、収穫、その他というふうな、各項目ごとに補助分類をほどこし全部で約千三百と細かく分類している。このように特許関係の公報を細かく分類整理したのは全国の図書館でもめずらしく九州では初めての試み。

(大分合同新聞：昭和38年8月19日より)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1964年(昭39)	4月 1日	大分県立大分図書館の設置及び管理に関する条例施行。大分県立大分図書館管理規則施行により総務課、奉仕課、資料課の3課となる。	文部省図書館職員養成所、国立図書館短期大学に昇格。
	4月10～11日	九州地区県立図書館長会ならびに九州地区市町村図書館連絡協議会結成準備委員会開会(別府市)。	
	5月 7～8日	こどもの読書週間行事。こども読書講演会開催(5月7日)、県内児童福祉施設に中央読進協からの図書寄贈(5月8日)。	
	6月 1日	青山高校新設のため図書567冊貸与。	
	6月 8日	県選挙管理資料収集。	
	6月16日	児童室を保健所旧庁舎に移転開始。27日に開室。	
	6月22日	分室を保健所旧庁舎に移転開始。	
	9月 4日	県行政資料調査。県文書倉庫から一部資料納入。	
	9月 9日	特許局から特許資料受領。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。書庫開放。入庫者177名(10月27～29日)。母と子の読書座談会(10月31日)、へき地訪問文庫(緒方町尾平小・中学校(11月2日)、挾間町時松分校(11月4日))、団地訪問文庫(大分市城南団地(11月5日))、地区訪問文庫(大分市明碩地区婦人会(11月6日))、読書感想文授賞式(11月9日)。	10日 東京オリンピック開催。
	11月 6～8日	大分本好きの会との共催による貴重書展示会(郷土本、趣味本展示会)をトキハデパートのギャラリーで開催。	
	11月16～28日	曝書。	
	12月16日		県芸術文化振興会議設立。
1965年(昭40)	2月18日	新館建設に着工(大分市荷揚町3番31号)。	
	4月 1日	米田貞一館長就任。	日出町立萬里図書館に日出町読書会連絡会発足。
	7月 2日	基本目録・書架目録作成に着手。	
	12月10日	市立図書館未設置市(大分・佐伯・津久見・杵築)に対して、設置要望書送付。	
	12月	クリスマスおはなし会実施(以降毎年)。	
1966年(昭41)	3月31日	大分県立大分図書館管理規則一部改正。	日本の人口一億人突破。
	3月	移動図書館「やまばと号」2代目に更新。	

第 1 章

第 5 節

荷揚町新館時代

昭和41年～平成6年(1966～1994)



大分県立大分図書館(荷揚町)

昭和41年5月大分県立大分図書館新館が完成、7月に開館式が行われた。閲覧室、貸出文庫室、視聴覚室など新しい機能的な設備・機器は県民に歓迎された。

開館後、親子文庫をはじめ種々の文庫の開設、館報「図書館おおいた」や移動図書館報の創刊、親子読書感想文コンクールの実施、団体貸出の開始など次々と活動が展開された。

昭和51年には、新館開館10周年記念式が行われ、講演会、貴重資料展などの記念行事が催された。

さらに、新規事業の開始が続き、野上彌生子賞読書感想文コンクールも実施されるようになった。

一方、書庫の増築工事や、利用の多様化に対応した閲覧室の改装・統合など施設整備も続けられた。

しかし、増大する資料の書架スペース確保に苦慮、また電算化への全国的な動向もあり、昭和61年には図書館機能整備検討委員会が設置された。その後県民会議の提言を受け、平成2年新館建設準備室が設置された。

平成3年新館の基本設計に着手、電算システム検討が開始され、大分県図書館等ネットワーク研究会も発足した。翌年には所蔵資料データの遡及入力、新館に向けた資料整備などを開始、同年10月大分市駄原で新大分県立図書館建設工事が着工した。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1966年(昭41)	10月23日	天皇皇后両陛下、第21回国民体育大会にご出席の折り、本館をご視察。	
	11月17日	第1回「古典文学愛好会講座」が開始(後に、「古典文学講座」と改称。昭和51年3月まで続く)。	
1967年(昭42)	4月 1日		大分工業大学(現日本文理大学)附属図書館開館。
	4月		扇城学園中津女子短期大学(現東九州短期大学)図書館開館。
	4月	「へき地親子文庫」開設。	
	4月	大分合同新聞のマイクロ化開始。	
	5月26日	荷揚町新館の設計が日本建築学会賞受賞。	
	5月30日		全国公立図書館長協議会結成。
	6月12日	こどもの読書週間行事として、「親子読書感想文コンクール」実施(以降、昭和51年まで続く)。	
	9月26～28日	児童に対する図書館奉仕全国研究集会開催(共催:日本図書館協会)。	
	10月28日	読書週間行事(11月11日まで)。映画会、母親教養講座、優良読書団体表彰式、郷土史研究発表、講演会、浮世絵展、読書子ども大会(お話と映画)。	
1968年(昭43)	1月22日		柏原兵三『徳山道助の帰郷』で第58回芥川賞受賞。
	4月 1日	館報『図書館おおいた』創刊。	
	4月26日	荷揚町新館の企画・設計・施工が1968年建築年鑑賞(第7回)受賞。	
	5月 2～8日	こどもの読書週間行事。親子読書感想文コンクール、子ども映画会、湯布院町に子ども文庫開設。	
	5月 7～18日	九州地区県立図書館長会議開催(別府市)。	

設計者磯崎新

新・大分県立大分図書館は建築家・磯崎新の設計によって建てられ、フランスの建築雑誌で紹介されるなど、建築的にも世界的に注目されていた。



磯崎新

大分県立大分図書館の設計をおわって

建築は、できあがったときに、すべてをおのずから語ってくれるものです。その物語りが、言葉激しいか、やわらかいか、それともおどろおどろしいものであるかは、もっぱら、これを見たり、使ったりする、そのたびごとに、皆様方の心のひだに、感じとられるものとなるでしょう。設計者としては、ひたすら心地よく、楽しいものであるように願ってきたのですが……。

いま、この大分県立大分図書館が完成してみると、設計に三年半、工業に一年半、かれこれ五年間を費したことになります。その間、御母堂の遺志をうけ巨額な寄附をなされただけでなく、事あるごとに御指導下さった三浦義一氏、並々なぬ見識をもたれて事業の推進にあられた木下都知事をはじめとする県庁の各担当の諸氏、更にこのうえなく入念な施工をしていただいた後藤組を中心とする施工業者の方々、そして常に好意的にバックアップ下さった全県民、このような多数の意志が結果されて、はじめてこの建築は完成したといえるでしょう。設計者は、この意志を感じとり、はげまされて、全力をあげてここまでできました。あとはひたすら、この図書館が県民諸氏の生活のなかにはいりこみ、大分県の文化の中心として活動していくことを願うだけです。

(『大分県立大分図書館』)

日本建築学会賞・建築年鑑賞受賞



日本建築学会賞を受ける県立大分図書館（円内は設計者の磯崎新氏）

【東京本社】昨年七月一日完成した県立大分図書館の設計が、日本建築学会（会長野井良勝、理事大分県立大分図書館設計主任磯崎新氏）に認められ、四十一年度の同学会賞に決まった。

日本建築学会賞に 県立図書館が入賞

大分市出身の
磯崎氏設計

設計者は大分市出身で東大出で、大分市後藤組の社長で昨年七月完成した。表彰式は二十六月午後四時から都内建築会館で。

同学会では毎年建築関係の論文、設計、業績の三部門ごとにすべれたものへ学会賞を与えているが、県立大分図書館の設計が建築工法や造形芸術の面で優秀であるとして第二部（設計）の入賞作に入った。

昭和天皇皇后両陛下ご視察

昭和41年10月、秋季国民体育大会開会式に出席のためご来県。その際、開館まもない県立大分図書館を視察された。



昭和天皇皇后両陛下ご視察（県立大分図書館）

陛下がご説明役に

マリン時を忘れ過ごされる

天皇・皇后両陛下は浦賀町にある二百七十坪の敷地の「大分県立大分図書館」を視察された。その際、開館まもない県立大分図書館を視察された。

梅園の顕微鏡にご興味

午前中佐賀の村岡図書館で読み聞かせの活動をしてから、大分県立大分図書館へお見えになりました。梅園の顕微鏡にご興味をもち、お見せしました。また、浦賀町にある「マリン時」の水族館にもお見えになりました。浦賀町にある「マリン時」の水族館にもお見えになりました。浦賀町にある「マリン時」の水族館にもお見えになりました。

(大分合同新聞：昭和41年10月21日)

県立図書館が「建築年鑑賞」を受賞

'68年度「建築年鑑賞」に県立大分図書館が決まった。「建築年鑑賞」は「建築年鑑」の発行所であり、建築美術の学者や評論家が結成されている建築ジャーナリズム研究所が主催して行なうもので、'68年度は昭和40年7月から昭和42年12月までの2年半にわたるめばしい建築作品の中から1作品を選んだもの。最終選考には、国立京都国際会館、千代田生命本社など4作品が残ったが、接戦のすえ大分図書館に受賞が決定したといわれている。

授賞の理由は「スケールの小さい地方図書館にもかかわらず、構造と設備が有機的に一体化し、新しい質の建築空間としてまとめた」というもの。なお本館の建物は昨年5月磯崎新氏の作品として日本建築学会賞を受けているが、建築界の代表的賞である年鑑賞をもあわせて獲得した作品に近年その例がない。

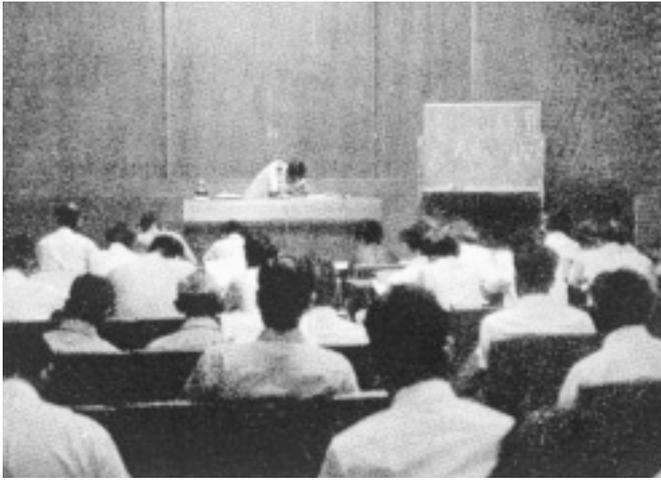
(『図書館おいた』昭和43年4月)

(大分合同新聞：昭和42年5月16日)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1968年(昭43)	5月31日	大分県立大分図書館利用規則一部改正。	
	6月25日	大分県視聴覚ライブラリー管理規則一部改正。	
	6月25日	教育庁社会教育課より、大分県視聴覚ライブラリー移管。	
	7月 3日	『大分県立大分図書館職員必携』刊行。	
	7月29～ 30日	「古文書解説講習」開始(以降、毎年8月頃実施。平成3年度まで24回続く)。	
	8月24～ 25日	九州地区奉仕課長会議開催。	
	9月21日	郷土研究講座「福沢諭吉とその周辺」。	臼杵市立臼杵図書館が野上文庫を開設。
	10月17日		川端康成ノーベル文学賞受賞。
	11月 2～ 8日	読書週間行事。親子読書座談会、明治錦絵展。	
1969年(昭44)	3月20日	『大分県行政資料目録』刊行。	
	3月20日	『大分県大分図書館所蔵教科書目録』刊行。	
	3月20日	「大分県立図書館移動文化講座」開催(安心院町)。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。親子読書感想文コンクール、読書感想画展、読書子ども会、児童室館報『はくちょう』創刊。	
	5月12日	「こども文庫」開設(日出町)。以降、こども文庫は地域を変えて、5月頃と11月頃の年2回にわたって実施。	
	7月 4日	文部省委嘱事業、「読書研究婦人学級」開始。	
	7月20日		アポロ11号月面着陸に成功。
	9月30日	九州地区県立図書館総務担当職員研修会開催(10月1日まで)。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。読書講演会、母と子のつどい(映画・レコード・ブックトーク)、読書相談室、館報臨時増刊号『青年読書案内』刊行。	

古文書解読講習 〈112ページに特集記事を掲載〉

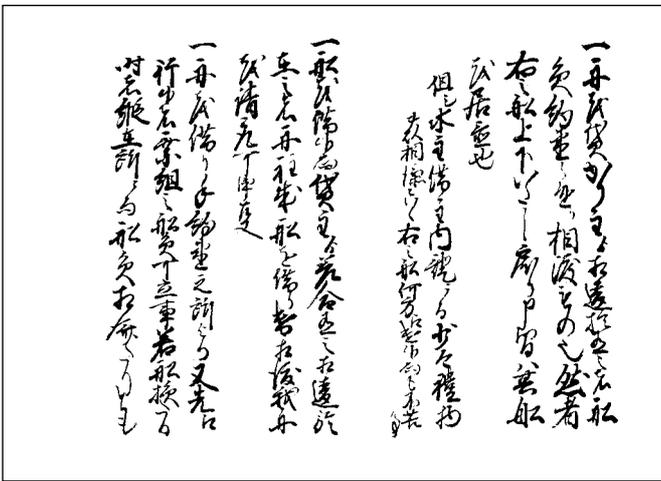
昭和43年より、毎年夏期に開催された。



連日盛況だった古文書解読講習

- 昭和43年 第1回古文書解読講習開催。
- 昭和45年 第3回より、郷土の史料を中心に、図書館で編集した独自のテキストを使用した。
- 昭和48年 第6回より、大分会場と地方会場の2ヶ所開催を開始した。この年は、県北地方豊後高田会場で講習を行った。
- 昭和50年 前年に引き続き、県南・豊肥地区と巡回していく予定だったが、石油ショックによる予算削減で中止となり、第8回からは大分会場のみの開催となった。以後、平成3年度まで、24回続いた。

年次	開催地	開催内容	参加人数
昭和43年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和44年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和45年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和46年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和47年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和48年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和49年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和50年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和51年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和52年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和53年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和54年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和55年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和56年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和57年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和58年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和59年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和60年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和61年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和62年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和63年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和64年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和65年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和66年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和67年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和68年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和69年	野津	野津地区の内外系村御祭	12
昭和70年	野津	野津地区の内外系村御祭	12



昭和四十五年度
古文書解読講習
演習資料

県立大分図書館

古文書解読講習で使用されたテキスト

利用者70万人越す

県立大分 新装なつて3年目

県立大分図書館は、目で開館三
年目を迎えた。この間、利用者は
延べ七十八人を突破した。新進建
築家磯崎新氏の二二クな設計で
話題を集めた建、物だけに県内外
の見学者もあふを絶たないが、か
ら、福沢諭吉が採用していた蘭
和辞書「ズーフハルマ」を珍しい
古書がある。しかし、同図書館が
目標としている二千万冊にはまだ
ほど遠く、このラインに達するま
ではあと三、四年かかりそう。
古典文学講座、レコード・コン
サート、文化映画を見る会など対
外的な文化活動にも積極的で、幼
稚園児や小学校一年生の子供を持
つ母親だけを対象にした「読書研
究婦人学級」が四日、スタートし
た。

県立大分図書館は、目で開館三
年目を迎えた。この間、利用者は
延べ七十八人を突破した。新進建
築家磯崎新氏の二二クな設計で
話題を集めた建、物だけに県内外
の見学者もあふを絶たないが、か
ら、福沢諭吉が採用していた蘭
和辞書「ズーフハルマ」を珍しい
古書がある。しかし、同図書館が
目標としている二千万冊にはまだ
ほど遠く、このラインに達するま
ではあと三、四年かかりそう。
古典文学講座、レコード・コン
サート、文化映画を見る会など対
外的な文化活動にも積極的で、幼
稚園児や小学校一年生の子供を持
つ母親だけを対象にした「読書研
究婦人学級」が四日、スタートし
た。

(大分合同新聞：昭和44年7月5日)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1970年(昭45)	1月		日本書籍出版協会「書籍コード」実施。
	3月14日		日本万国博覧会開催(大阪)。
	4月 1日	利田正男館長就任。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。親子読書感想文コンクール、読書感想画展、読書子ども会。	
	5月12日	貸出予約制度開始。	
	5月30日		『市民の図書館』刊行。
	7月13日		臼杵市立臼杵図書館新築開館。
	9月11日	「高齢者文庫」(ことぶき文庫)開設。	
	10月 1日	個人に対しての館外貸出を、1人1冊1週間から、1人2冊2週間に改定。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。読書講演会、貴重資料公開と案内書配布、館報特集、こども文庫開設、映画、優良読書団体表彰とテレビ放送。	
1971年(昭46)	1月 8日	『戦後十年大分合同新聞主要記事索引』作成。	新著作権法施行。
	4月 1日	佐藤義士館長就任。	
	4月	「団体貸出」開始。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。親子読書感想文コンクール、読書感想画展、読書子ども会。	
	6月17日		沖縄返還協定調印。
	9月 1日	大分県立大分図書館利用規則の一部改正により、禁帯出資料を除く全資料貸出開始。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1971年(昭46)	10月29日	読書週間行事(11月7日まで)。読書講演会、貴重資料展、1日図書館長、利用者座談会、子ども文庫・高齢者文庫開設、優良読書団体表彰式。	
1972年(昭47)	1月18日		国際図書年宣言。記念講演会。
	4月30日		第1回図書館記念日実施。
	5月1～31日		第1回図書館振興の月実施。
	5月10～14日	こどもの読書週間行事。講演会、読書感想画展、読書子ども会。	
	6月1日	幼児券の発行を停止。貸出券はすべて子供名義。	
	7月1日		男女雇用機会均等法制定。
	10月29日	読書週間行事(11月9日まで)。講演会、臼杵図書館所蔵絵地図展、1日図書館長。	
	11月1日		別府市立図書館BM車「ロータリー号」、別府市ロータリークラブより寄贈。
	12月14日		県立図書館利用者が「大分市読書グループ連絡会」結成。大分市立図書館建設を目標に、移動図書館設置を陳情する運動開始。
1973年(昭48)	2月8～9日	「公共図書館部会視聴覚分科会研究集会」を日本図書館協会と共催。	
	3月31日	大分県立大分図書館管理規則一部改正。	

貸出・予約について

貸出条件と貸出券発行

荷揚町新館開館当初（貸出冊数1冊 貸出期間1週間）

貸出券発行の申し込みには、本人と保証人ともに氏名、年齢、電話、住所、勤務先、印を必要とした。

昭和45年（貸出冊数2冊 貸出期間15日間）

本館 (旧)

資料貸出券申込書

ふりがな	性別	年齢	
氏名	男	女	才
現住所	電話	-	番
勤務先	電話	-	番
学校名	学年	名	組
年月日	大分県立大分図書館		

※ 裏面は省略

当時の資料貸出券申込書・貸出券

- 図録 (旧)**
- 資料の貸出しは、この貸出券1枚につき1冊で、15日間借りられます。
 - 資料をこたくしたり、ひどく汚損したときは、賠償していただきます。万一の場合は、早目に係員に申し出てください。
 - 住所、勤務先又は学校、その他の異動は、直ちに届け出てください。
 - この資料貸出券の有効期限は交付の日から1年です。
 - この貸出券を紛失したときは直ちに届け出てください。

この時期から印、保証人を廃止

平成3年（貸出冊数5冊 貸出期間15日間）

本館 (新)

貸出券申込書

ふりがな	性別	年齢	
氏名	男	女	才
住所	電話	-	番
保証者氏名	住所	電話	-
年月日	大分県立大分図書館		

※ 裏面の廃止
(注) 資料貸出券申込書・資料貸出券は原寸と異なります。

当時の資料貸出券申込書・貸出券

- 図録 (新)**
- 資料の貸出しは、この貸出券1枚につき1冊で、15日間借りられます。
 - 資料をこたくしたり、ひどく汚損したときは、賠償していただきます。係員に申し出てください。
 - 住所、その他の異動は、直ちに届け出てください。
 - この貸出券を紛失したときは直ちに届け出てください。

貸出券は5枚綴りとし、割り印を廃止

様式は当時の文書より

一般資料の貸出手続～変形ブラウン式～

一般資料の貸出は、電算化される前は「変形ブラウン式」で行った。通常のブラウン式では袋を貸出券として使用するが、「変形ブラウン式」ではその逆で、カード式の貸出券とブックカードを預かって袋（既製のブックポケットを使用）に入れ、貸出を管理した。

- 貸出券は貸出制限冊数分を発行する。
- 利用者は資料利用票に記入し、貸出券と貸出資料とともにカウンターで渡す。資料利用票は別途保管し統計に使用する。
- 職員は、資料の見返しのデートスリップに返却日付を押印、ブックカードを抜き、そのブックカードと貸出券を袋に入れ、登録番号順に並べ保管する。
- 資料返却時は、見返しのポケットに押印された登録番号と、デートスリップの返却日をもとに該当のブックカードをチェック、貸出券を利用者に返却しブックカードを資料に戻す。



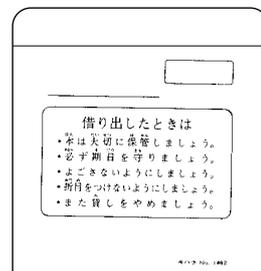
資料の裏表紙の見返し

請求 460 S 資料 20344
自然観察と生態シリーズ 8
書名 海辺の生物

返す日	
6. 8. 1	
6. 9. 2	
6. 9. 3	
6. 9. 4	
6. 9. 5	
6. 9. 6	
6. 9. 7	
6. 9. 8	
6. 9. 9	
6. 9. 10	
6. 9. 11	
6. 9. 12	
6. 9. 13	
6. 9. 14	
6. 9. 15	
6. 9. 16	
6. 9. 17	
6. 9. 18	
6. 9. 19	
6. 9. 20	
6. 9. 21	
6. 9. 22	
6. 9. 23	
6. 9. 24	
6. 9. 25	
6. 9. 26	
6. 9. 27	
6. 9. 28	
6. 9. 29	
6. 9. 30	

大分県立大分図書館

ブックカード



ブックポケット

予約サービスの開始

予約サービスは昭和45年（1970年）5月12日より開始した。電算化されていなかった当時は全て手作業で、予約申込資料の登録番号を貸出中の全ての日付のブックカードからチェックし、予約本を拾った。

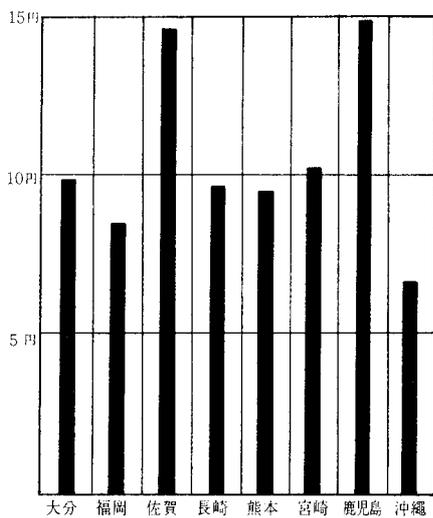
		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1973年(昭48)	4月 1日	『大分県郷土資料所在調査資料(昭和47年度調査)』刊行。	
	5月 1～14日	こども読書週間行事。パネル討論会、読書感想画展、読書こども会。	
	10月23日		第一次オイルショック
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。講演会、1日図書館長、資料展(昔の教育関係資料)。	
1974年(昭49)	1月31日		財団法人東京子ども図書館開館。
	3月	移動図書館「やまばと号」3代目に更新。	
	4月	『大分県郷土資料所在調査資料(昭和48年度調査)』刊行。	
	5月 1～14日	こどもの読書週間行事。講演会、子ども映画と童話の会、読書感想画展、世界の絵本展。	
	6月16日		中津市立図書館BM車「友の輪号」運行開始。
	7月29日		日田市に「淡窓図書館友の会」発足。
	8月		大分市教育委員会、BM車「そよかぜ号」運行開始。
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。高齢者文庫開設(天瀬町)、こども文庫開設(前津江村)、県民文化講座、1日図書館長、資料展(貴重本)、映画を見る会、優良読書団体表彰状伝達式。	
	11月 1日	大分県読書推進運動協議会規約一部改正。	
1975年(昭50)	4月 1日	矢野朔雄館長就任。	
	4月	『大分県郷土資料所在調査資料(昭和49年度調査)』刊行。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1975年(昭50)	5月 1～14日	こどもの読書週間行事。講演会、子ども映画と童話の会、読書感想画展、日本の児童文学名作展、旧貨幣展示展。	
	7月19日		沖縄海洋博開催。
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。子ども文庫開設(本耶馬溪町)、県民文化講座、1日図書館長、資料展(大分今昔、貴重資料)、映画を見る会、優良読書団体表彰状伝達式。	
1976年(昭51)	1月20～21日	九州地区公共図書館職員ゼミナール開催。	
	4月	『大分県郷土資料所在調査資料(昭和50年度調査)』刊行。	
	4月	『やまばと通信』創刊。	
	4月		耶馬溪町教育委員会、BM車「文化キャラバン車」運行開始。
	4月	移動図書館用資料購入のための国庫補助金が、大分県に決定。金額200万円。	
	5月 1～14日	こどもの読書週間行事。講演会、子ども映画会、おはなしと紙芝居の会、影絵、紙芝居、読書感想画展、世界の絵本展。	
	7月 1～5日	新館開館10周年記念で記念式、講演会等の記念行事開催。	
	10月 1日		大分医科大学附属図書館開館。
	10月 7日	10周年を記念して、職員による植樹。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。子ども文庫開設(久住町)、県民文化講座、1日図書館長、資料展(大分今昔、貴重資料)、親子読書感想文コンクール入選者表彰式、優良読書団体表彰状伝達式。	
1977年(昭52)	2月28日		大分県読書グループ連絡協議会結成総会開催。

新館開館10周年を迎えて

昭和41年7月に荷揚町に新館が開館、次々と新しい活動が展開する中で昭和51年7月県立大分図書館は開館10周年を迎えた。開館当初貸出はあまり重要視されていなかったが、昭和43年頃から、大都市とその周辺地域の公共図書館が急速に発達を始め、県立大分図書館も貸出に比重を置いたサービスへと展開して行った。貸出冊数・期間が改善され貸出対象資料も拡大したため年々貸出冊数は伸び続け、昭和50年度の個人貸出冊数は11万9千冊を記録し、全国県立図書館平均貸出数の約2倍となった。一方、目録の刊行や遠隔地住民へのサービスの充実も徐々に進められて行った。10周年記念行事にあたっては、講演会、映画会、本館所蔵貴重資料展が行われた。

昭和51年度九州各県図書購入費人口1人当り単価



図書購入費

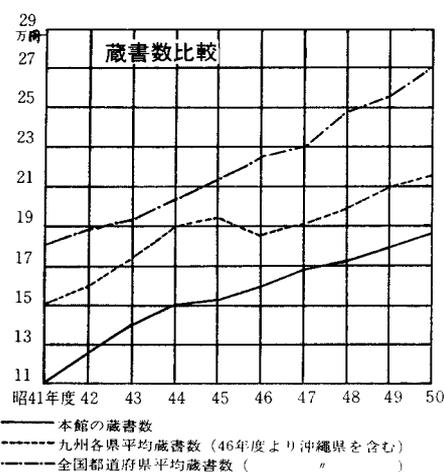
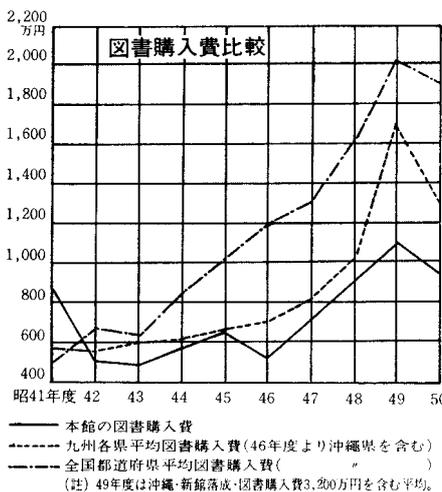
昭和41年新館発足時における図書購入費は、882万円であった。これは、当時の全国平均の1.8倍、九州各県平均の1.5倍にあたる。

昭和41年度末における蔵書数は、111,000冊で、この時点での全国平均が179,000冊、九州各県の平均が150,000冊だった。

以後5年間、県立大分図書館および九州各県の図書費は500～600万円の間を推移していた。全国的に見ると、この間、高度成長の影響を受け、1,000万円台へと急速な伸びをみせる図書館が増加していた。

県立大分図書館も、昭和49年度には1,140万円となったが、その後、全国的な地方財政ひっ迫の影響を受け、51年当時の図書費は伸び悩んでいる状況だった。

◇本館における10年間の図書購入費・蔵書数の推移と全国・九州各県との対比◇



蔵書数

昭和50年度末で187,896冊となり、新館開館時の約2倍に近づいた。10年間の年毎の平均増加冊数は、7,700冊。当時の全国平均蔵書数は272,000冊、平均増加冊数は9,300冊。

九州各県の平均蔵書数は216,000冊で、平均増加冊数が6,600冊だった。

(『図書館おいた』昭和51年7月)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1977年(昭52)	3月 1日	児童室『はくちょう』16号で休刊。	
	4月 1日	成田勝館長就任。	
	4月 1日	児童室、貸出方法を「ブラウン式」から「トークン式」へ変更。	
	4月	「グループ文庫」開始。	
	4月		県教委が古文書・古記録類の所在を明らかにするため、目録作成開始(昭和52～53年の2年計画)。作成した目録は県立図書館へ。
	5月 1～14日	こどもの読書週間行事。子ども映画会、おはなしと紙芝居の会、子ども文庫開設(真玉町)、読書感想画展、絵本のいろいろ展。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。子ども文庫開設(庄内町)、読書グループ作り相談コーナー、県民文化講座、1日図書館長、資料展(県内文学散歩)、映画を見る会、読書感想文コンクール入選者表彰式、優良読書団体表彰状伝達式。	
	12月 6日		『日本目録規則 新版予備版』刊行。
1978年(昭53)	3月20日	『郷土資料目録(文書・記録の部)』刊行。	
	4月 1日	田村卓夫館長就任。	
	5月 1～14日	こども読書週間行事。子ども映画会、おはなしと幻灯の会、子ども文庫開設(杵築市)、読書感想画展、日本の近代絵本。	
	5月 5日		『日本十進分類法』新訂8版刊行。
	5月16日		杵築市立図書館開館。
	7月	「市町村貸出文庫」開設。	
	8月12日		日中平和友好条約調印。
	8月24日	豊後キリシタン関係史料収集用に、上田保元大分市長より寄付を受ける。	

閲覧室模様替えオープン

昭和53年12月15日

〈改良点〉

- ① 2階開架閲覧室と3階貸出文庫室に分かれていた閲覧室を2階開架閲覧室に集中。
- ② 開架図書数を2万7千冊から3万冊に増設。
- ③ 3階貸出文庫室は、行政資料コーナーへ。
- ④ 2階開架書架のそばに、24席の研究席を新設。
- ⑤ 3階にあった専門研究者のための特別研究室2室（1室2名）を復活。
- ⑥ 開架閲覧室は、205席から184席に減らし、学生席と一般席を混合した。
- ⑦ 中3階の休憩室に学習席32席を新設し、学習室に模様替え。



閲覧室(開架閲覧室)

大分県立大分図書館 昭和53年12月15日
 本館の閲覧室は、従来の2階と3階に分かれていたが、この模様替えにより、2階に集中した。また、3階には行政資料コーナーを新設し、2階には24席の研究席を新設した。また、3階には専門研究者のための特別研究室2室を復活させた。また、2階には205席から184席に減らし、学生席と一般席を混合した。また、中3階の休憩室に学習席32席を新設し、学習室に模様替えした。

利用の多様化に対応

研究席、資料コーナー新設 開架は二階に集中

きょう模様替えオープン 県立大分図書館

大分県立大分図書館 昭和53年12月15日
 本館の閲覧室は、従来の2階と3階に分かれていたが、この模様替えにより、2階に集中した。また、3階には行政資料コーナーを新設し、2階には24席の研究席を新設した。また、3階には専門研究者のための特別研究室2室を復活させた。また、2階には205席から184席に減らし、学生席と一般席を混合した。また、中3階の休憩室に学習席32席を新設し、学習室に模様替えした。

(毎日新聞：昭和53年12月15日)



増設工事が進む県立大分図書館

取容能力30万冊に 県立図書館の増築始まる

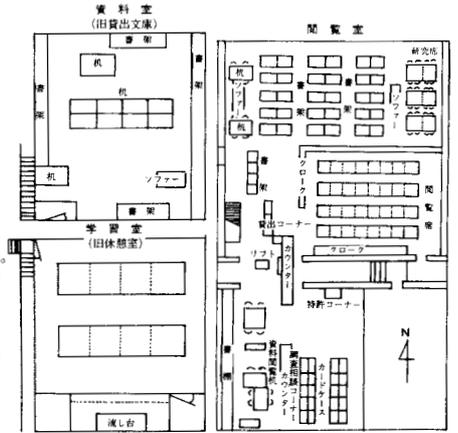
蔵書が増えるにつれて、従来の蔵書庫では収容できなくなってきた。そこで、本館の西北すみの空き地に建てられた鉄筋コンクリート3階建て延べ290㎡の新書庫が、昭和53年11月に着工し、昭和54年4月27日に完成式を行った。総工費は6700万円。取容能力の高い最新可動式の書架10基や本の運搬用のエレベーターを備える。当時の蔵書は、取容能力の20万冊を超えており、あふれた図書はダンボールなどに詰めて廊下や書庫の脇に積み上げていた。新書庫の建設により取容能力は10万冊増え、あわせて30万冊の資料が収蔵可能となった。

(大分合同新聞：昭和53年12月11日)

書架などの配置替えをしました

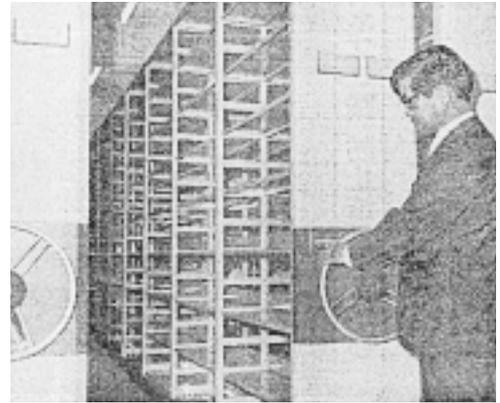
図書館利用者の利便を拡充するために次のように変更しました。

- 1 貸出文庫を閲覧室へ移動しました。従来約14,000冊だったものが従来の開架書架と合わせて約30,000冊に増えて1ヶ所にまとめたので利用しやすくなりました。
- 2 閲覧室の配置が変わりました。① 席の区分がなくなり、中学3年以上の方ほどの席でも利用できます。② 多くの図書館資料を利用できる調査研究ができる研究席を設けました。
- 3 休憩室を廃止して、新に学習室を設けました。利用時間は9時から17時まで。



〔「図書館おおいだ」昭和54年1月〕

最新の移動式書架。ハンドルを回すと、左右に軽々と動く (大分県立図書館内の新書庫で)



蔵書能力は30万冊に

大分県立図書館に新書庫完成 新鋭移動式書架10台も

大分県立大分図書館 昭和53年12月11日
 本館の蔵書が増えるにつれて、従来の蔵書庫では収容できなくなってきた。そこで、本館の西北すみの空き地に建てられた鉄筋コンクリート3階建て延べ290㎡の新書庫が、昭和53年11月に着工し、昭和54年4月27日に完成式を行った。総工費は6700万円。取容能力の高い最新可動式の書架10基や本の運搬用のエレベーターを備える。当時の蔵書は、取容能力の20万冊を超えており、あふれた図書はダンボールなどに詰めて廊下や書庫の脇に積み上げていた。新書庫の建設により取容能力は10万冊増え、あわせて30万冊の資料が収蔵可能となった。

(大分合同新聞：昭和53年12月11日)

新書庫増設

昭和54年4月27日

新書庫は、図書館の西北すみの空き地に建てられた鉄筋コンクリート3階建て延べ290㎡。昭和53年11月に着工し、昭和54年4月27日に完成式を行った。総工費は6700万円。取容能力の高い最新可動式の書架10基や本の運搬用のエレベーターを備える。当時の蔵書は、取容能力の20万冊を超えており、あふれた図書はダンボールなどに詰めて廊下や書庫の脇に積み上げていた。新書庫の建設により取容能力は10万冊増え、あわせて30万冊の資料が収蔵可能となった。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1978年(昭53)	8月29日	西日本新聞社主催「西日本子ども文庫」を館内に開設。	
	8月31日		「移動図書館センター」開館(大分市)。
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。子ども文庫開設(玖珠郡)、1日図書館長、資料展(府内城関係絵図)、館内案内、映画を見る会、読書感想文コンクール入選者表彰式、優良読書団体表彰状伝達式。	
	11月 8日	書庫増築工事に着工。	
	12月15日	利用の多様化に対応し、閲覧室の模様替えオープン。	
1979年(昭54)	1月17日		第2次オイルショック。
	1月20日	『大分県行政資料目録』第2集刊行。	
	2月 1日	『大分県郷土資料所在調査目録』第1輯刊行。	
	2月16日	浩宮様学習のためご視察。	
	3月30日	書庫増築完成。	
	3月	『図書館あんない』刊行。	
	4月 1日	高橋寿満館長就任。	
	5月 1～14日	こどもの読書週間行事。子ども映画会、人形劇とおはなしの会、子ども文庫開設(鶴見町)、読書感想画展、世界の絵本。	
	5月	計423冊のキリシタン関係史料を集め、キリシタン文庫誕生。7月には同文庫による「豊後キリシタン関係史料コーナー」設置。	

浩宮様学習のためご視察



渡辺澄夫別府大学教授より説明を受けられる浩宮様（写真中央）



図書館での浩宮さま



大分県の歴史を勉強に来県された浩宮さまは、2月16日に県立図書館におみえになりました。田村館長から概要説明を聴かれた後、ホールに展示された資料を渡辺澄夫先生、田村館長、赤峯専門員の説明に耳を傾けながら熱心にご覧になりました。特に豊後国志付図には興味を示されたようでした。

（「図書館おおいだ」昭和54年5月）

館内利用

—その現状と課題—



本館の正面玄関を入り、新聞コーナー・経読書コーナーを通過して奥へ入ると、まず広いカウンターがあり、その左手に調査相談コーナーと目録コーナー、右手には104席の閲覧席と、約40,000冊の公開書架コーナーがある。

この公開書架コーナーは、昭和53年12月、旧貸出文庫室と一本化し、更に書庫から若干の図書を移して、文学書をはじめ、一般教養書・娯楽書など利用者の生活に身近な資料を、直接手にとって選択できるようにしたものである。

館内での利用はもちろんのこと、簡単な手続きで登録すれば、1人2冊、15日間自宅に持ち帰ってゆっくり利用することができる。

最近では、全国的に館外貸出冊数は急速に伸びつつあり、昭和40年から53年までの動向を1980年版「図書館白書」から拾ってみると、東京27倍、愛知24倍、大阪23倍などいちじるしいものがある。

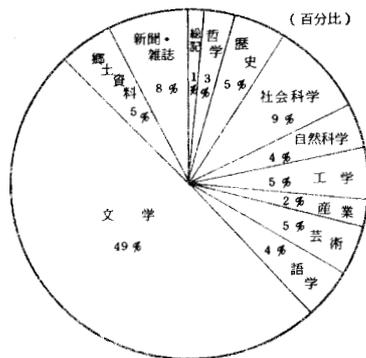
本館では、このような大都会なみの躍進はどうも考えられないが、昭和41年、現在の新館発足以来、年々順調な伸びがみられ、特に、昭和53年度の貸出冊数57,220冊に対して、54年度には87,867冊で30,647冊の増加となっている。また、登録者数も53年度2,767人、54年度4,497人という数字が示すとおり、徐々に図書館が日常生活に浸透してきたことを表わしている。

《分類別利用状況》

昭和54年度の館内利用、館外利用をあわせて、総数87,867冊のうち文学43,227冊、社会科学8,243冊、歴史4,452冊、つづいて芸術・工学（家事を含む）、自然科学、語学、哲学、総記の順で、やはり文学部門が全体の49%を占めてい

る。このほか館内利用だけに限られているが、郷土資料・新聞雑誌の利用も多い。これらは、学生のレポートや卒業論文、県外からの研究者の利用によるもので、郷土資料4,564冊、新聞・雑誌7,328冊で13%となっている（別表「昭和54年度分類別利用状況」）。このような状況を見ると、図書館利用は、学生が席を借りて宿題や受験勉強をするところという、従来の形態から、調査研究や本を借りに行くところという直接日常生活のパターンの中に、組み込まれてきたものと思われる。

昭和54年度分類別利用状況



《調査相談》

図書館では、利用者の求めに応じて資料を提供する直接サービスの仕事と、所蔵資料のことや、生活上わからないこと、知りたいことなどについて直接来館できない利用者のために、電話や文書による問い合わせに応じて、資料や情報を提供する仕事がある。これを調査相談事務といっている。

本館でも専任職員が、月平均100件程の相談を受け、本館の資料の中から調査し、なお資料不足な点は大学図書館、

国立国会図書館などに問い合わせ、利用者が満足できる回答をするよう努力しているが、今後は県内はいうまでもなく、各図書館間の相互協力体制を強め、県立図書館としてより充実した調査機能を発揮できるための努力も続けなければならない。

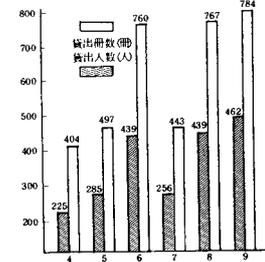
《日曜日の利用》

昭和54年9月に総理府が実施した世論調査によると、図書館を利用したいが、勤務の都合で図書館の開館時間中に利用できないと16%の人が答えており、日曜日の開館ののぞむ意見とも解釈できる。

本館でも、かねてからの要望に応じて本年4月から日曜開館が実現し、日曜日毎に家族連れでにぎわっている。

座席を利用する人数は、夏休みなどであるが、貸出を受ける人の数は回を重ねるごとに増えている（別表「日曜日貸出状況」）。利用者を地域別にみると、図書館の周辺に勤務先を持つ人は平日、もしくは土曜日に、中心部から離

日曜日貸出状況 (55年4月～9月・月別)



れたところの人は日曜日という傾向が見えはじめています。

県庁所在地に市立図書館がないということもあり、本館は、市立図書館の役割も果たさなければならない現状であるが、今後もすべての人が、いつでも、自由に、生活に結びついた文化を求めることのできる、満たされた図書館として発展しなければならないと考える。

（「図書館おおいだ」昭和55年11月）

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1979年(昭54)	9月12～18日		「読書・公共図書館に関する世論調査」実施(内閣総理大臣官房広報室)。
	10月 1日		図書館情報大学創立。
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。子ども文庫開設(挾間町)、1日図書館長、貴重書庫公開・展示、国際児童年図書展示、大分県ニュースを見る会、映画を見る会、読書感想文コンクール入選者表彰式、優良読書団体表彰状伝達式。	
	12月 1日	『大分県明治期行政文書件名目録(神社の部)』刊行。	
	12月 1日	『大分県郷土資料所在調査目録(第2輯)』刊行。	
	12月	豊州新報・大分合同新聞(昭和14～30年)の寄贈を松本義一元大分大学教授より受ける。	
1980年(昭55)	3月 1日	県視聴覚ライブラリー、県視聴覚教育協議会『映画フィルム目録』刊行。	
	3月28日	「豊後キリシタン史研究会」発足。	
	3月29日	大分県立大分図書館の設置及び管理に関する条例一部改正。	
	4月 1日	大分県立大分図書館管理規則一部改正。	
	4月 1日	大分県立大分図書館利用規則全面改正。	
	4月 6日	日曜開館開始。	
	4月19日	豊後キリシタン史研究会発足記念講演会開催。	
	4月	蔵書目録編集開始。	
	5月 1～14日	こどもの読書週間行事。子ども映画会、おはなしの会、子ども文庫開設(香々地町)、読書感想画展、世界の絵本。	
	8月 1日	『図書館業務の手引き』刊行。	
	8月21日		県立点字図書館新館落成。

豊後キリシタン関係史料と研究会発足

昭和53年度、当時の大分マリーンパレス上田保社長より、300万円が贈られ、豊後キリシタン関係史料の収集が始められた。

昭和55年4月、県立大分図書館図書館ホールで、豊後キリシタン史研究会の発足を記念する講演会が開催された。この会は、豊後キリシタン関係史料コーナー開設がきっかけで発足したもので、史料コーナーの外国文献の解説、翻訳を行うことを目標とした「スペイン語部会」と、キリシタン関係史料の基礎的研究と資料整理を行う「資料部会」から成った。



コーナー開きが催され、上田氏に感謝状の贈呈が行われた

	昭和53年度寄贈	昭和54年度寄贈	小計	本館既蔵分	合計
和書	(121) 286	(59) 90	(180)点 376冊	173冊	549冊
洋書	(44) 137	(25) 28	(69)点 165冊	8冊	173冊
計	(165) 423	(84) 118	(249)点 541冊	181冊	722冊
マイクロフィルム		2巻	2巻		2巻

昭和55年当時の「キリシタン関係史料」の内訳
(「図書館おおいだ」昭和55年5月)

研究部会名	内容	日時	場所
スペイン語部会	外国文献読解のためのスペイン語入門講座	毎週水曜日 午後5時～7時	県立図書館 図書学習室
資料部会	キリシタン関係史料の基礎的研究と資料整理	毎月第1土曜日 午後2時～4時	県立図書館 図書学習室

キリシタン研究会の内容
(「図書館おおいだ」昭和55年5月)

県立図書館の「コーナー」開設を機に



豊後キリシタン研究会発足へ

県立図書館は、キリシタン関係史料の収集に力を入れ、昭和53年度から、大分マリーンパレス上田保社長より、300万円が贈られ、豊後キリシタン関係史料の収集が始められた。この史料は、豊後キリシタン関係史料コーナーに収められ、県立図書館で公開されている。このコーナーは、キリシタン関係史料の収集に力を入れ、昭和53年度から、大分マリーンパレス上田保社長より、300万円が贈られ、豊後キリシタン関係史料の収集が始められた。この史料は、豊後キリシタン関係史料コーナーに収められ、県立図書館で公開されている。

「類族帳」の写し発見

三重町で 早くも貴重な資料

豊後キリシタンコトは七月、豊後県三重町で発見された。これは、中津藩御用儀の「類族帳」の写しであり、代々の御用儀に伝承されてきた貴重な資料である。この「類族帳」は、豊後キリシタンの家系を記したもので、豊後キリシタン関係史料の収集に力を入れ、昭和53年度から、大分マリーンパレス上田保社長より、300万円が贈られ、豊後キリシタン関係史料の収集が始められた。この史料は、豊後キリシタン関係史料コーナーに収められ、県立図書館で公開されている。

(大分合同新聞：昭和54年12月4日夕刊)

大分合同新聞を受贈



昭和54年12月6日、大分合同新聞社より、大分合同新聞を受贈した。この新聞は、豊後キリシタン関係史料の収集に力を入れ、昭和53年度から、大分マリーンパレス上田保社長より、300万円が贈られ、豊後キリシタン関係史料の収集が始められた。この史料は、豊後キリシタン関係史料コーナーに収められ、県立図書館で公開されている。

県立図書館に寄贈 「あきらめていたのに」

大分合同新聞社より、大分合同新聞を受贈した。この新聞は、豊後キリシタン関係史料の収集に力を入れ、昭和53年度から、大分マリーンパレス上田保社長より、300万円が贈られ、豊後キリシタン関係史料の収集が始められた。この史料は、豊後キリシタン関係史料コーナーに収められ、県立図書館で公開されている。

(大分合同新聞：昭和54年12月6日)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1980年(昭55)	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。子ども文庫開設(宇佐市)、1日図書館長、著名作家原稿展示会、母と子の映画会、読書感想文コンクール入選者表彰式、大分県読書グループ連絡協議会研究集会。	
	10月	九州地区県立・政令指定都市立図書館職員研修会開催(整理部門)。	
1981年(昭56)	1月1日		日本図書コード実施。
	1月19日		尾辻克彦(大分市)『父が消えた』で第84回芥川賞受賞。
	3月31日	『蔵書目録』第3巻(総記・哲学・歴史)刊行。	
	4月1日	帆足敏郎館長就任。	
	4月1日	音楽カセットテープ貸出開始(1人1回2本まで15日間)。	
	5月1~14日	こどもの読書週間行事。子ども映画会、おはなし会、子ども文庫開設(緒方町)、読書感想画展、世界の絵本展。	
	10月3日	国際障害者年記念事業、スロープ、エレベーター等整備。	28日『「図書館員の倫理綱領」解説』刊行。
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。書庫公開、子ども文庫開設(山国町)、著名作家原稿展示会、母と子の映画会、読書感想文コンクール入選者表彰式、大分県読書グループ連絡協議会研究集会。	
	11月16日		佐伯市立佐伯図書館開館。
	12月	移動図書館「やまばと号」4代目に更新。	

国際障害者年記念事業

昭和56年10月

- ①東側のお堀沿いの道路から、幅1.5mの緩やかなスロープを約25m設置
- ②正面玄関を自動ドア
- ③玄関ホールから閲覧室に通じる高さ約1mの階段2つに車椅子が乗れるエレベーターを取付
- ④身障者用トイレを設置



車イス専用スロープの通り初めをする関係者

車イスでどうぞ
県立図書館の
スロープが開通
車イスでの図書利用がOKに
大分市にある県立図書館は
身障者用のスロープとエレベーター
を設置、三日に通り初め式があ
った。国際障害者年記念事業とし
て取り付け工事をしたため、身
障者はこれからは自由に図書館
を利用することができると喜ん
でいる。
県立大分図書館は入り口などに
階段があり、車イスの人の利用は
困難だった。完成したのは入り口
にある長さ1.5m、1.5m型のスロ
ープと、1.5m型のスロ
ープと館内二方面にある階段の簡
易エレベーターで、車イスで閲覧
室まで自由に行けるようになった。
総工費は千二百万円、身障者
用トイレも設置した。
通り初め式では、身障者代表の
奥藤淳一さん(大分市・自衛)、
平松康雄、山本興教委員長、
吉良興文会長、帆足県立
大分図書館長がテープカット。県
庁吹奏楽団の演奏が流れるなか
を、奥藤さん、前田イソさんを
大分市・主婦、佐藤浩さん、
同・自衛の車イス三人を先頭に
通り初めをした。スロープ、そし
て二つの簡易エレベーターを使っ
て閲覧室へ。

(大分合同新聞：昭和56年10月3日夕刊)

日曜開館開始

昭和55年4月6日より、日曜開館を開始した。遠隔地や勤務の都合で平日に利用できない県民が多く、日曜開館を望む声が高まっていた。開館初日は、約220人が来館し、利用者の熱心な声を反映していた。また、日曜開館に合わせ、視聴覚室の土曜日の利用時間を正午までから午後5時まで延長、さらに、自由閲覧席を増設した。



読書グループの後援もあって日曜日も「読書の日」

県立大分図書館

4月から「日曜開館」

「日曜日も読書の日」を掲げ、読書への意欲を呼び出し、開館が出来るまで、県立大分図書館がようやく実現する

「日曜日も読書の日」を掲げ、読書への意欲を呼び出し、開館が出来るまで、県立大分図書館がようやく実現する。昭和55年4月6日より、日曜開館を開始した。遠隔地や勤務の都合で平日に利用できない県民が多く、日曜開館を望む声が高まっていた。開館初日は、約220人が来館し、利用者の熱心な声を反映していた。また、日曜開館に合わせ、視聴覚室の土曜日の利用時間を正午までから午後5時まで延長、さらに、自由閲覧席を増設した。

(大分合同新聞：昭和55年2月4日)

障害者用のスロープ・エレベーター等完成



本年は「完全参加」と「平等」をテーマにした国際障害者年にあたることから、当図書館としてもこの意義ある年の記念事業の一環として、障害者皆さん方の多年にわたる図書館利用のご要望にお応えするため、総工費約1,200万円をかけて館外にスロープを、また館内に2カ所のエレベーター、便所等を設置して、障害者の皆さん方がお気軽に読書や研究、学習のためご利用いただけるように改善しました。そのため、これを記念してさる10月3日には、知事を始めとし教育委員長、身障者代表等関係者の出席をみて、「通り初め式」が行われました。

(『図書館おおい』昭和56年11月)

休館日の変遷

年 度	開館日数	休 館 日	資料整備期間等
昭和41(1966)年度	212	日曜日、館内整理日(月末)	4～6月閉館、7月1日新館開館
昭和42(1967)年度	274	日曜日、館内整理日(月末)	(11月)
昭和43(1968)年度	288	日曜日、館内整理日(月末)	不明
昭和44(1969)年度	280	日曜日、館内整理日(月末)	11月10日～15日
昭和45(1970)年度	281	日曜日、館内整理日(月末)	読書週間後一週間
昭和46(1971)年度	280	日曜日、館内整理日(月末)	12月6日から一週間
昭和47(1972)年度	278	日曜日、館内整理日(月末)	10月16日から一週間
昭和48(1973)年度	277	日曜日、館内整理日(月末)	12月3日から一週間
昭和49(1974)年度	275	日曜日、館内整理日(月末)	12月2日から一週間
昭和50(1975)年度	276	日曜日、館内整理日(月末)	12月1日～9日
昭和51(1976)年度	274	日曜日、館内整理日(月末)	12月1日～11日
昭和52(1977)年度	272	日曜日、館内整理日(月末)	12月1日～12日
昭和53(1978)年度	273	日曜日、館内整理日(月末)	12月1日～14日
昭和54(1979)年度	272	日曜日、館内整理日(月末)	12月1日～8日
昭和55(1980)年度	302	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	12月1日～6日
昭和56(1981)年度	303	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	12月1日～7日
昭和57(1982)年度	305	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	12月1日～6日
昭和58(1983)年度	308	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	11月28日～12月4日
昭和59(1984)年度	302	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	12月1日～8日
昭和60(1985)年度	296	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	5月20日～6月4日
昭和61(1986)年度	292	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	5月26日～6月10日
昭和62(1987)年度	298	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	5月25日～6月8日
昭和63(1988)年度	296	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	5月23日～6月6日
平成元(1989)年度	273	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	5月22日～6月30日 資料整備、館内改修工事のため休館
平成2(1990)年度	294	第3日曜日、館内整理日(15、末日)	5月21日～6月4日
平成3(1991)年度	282	火曜日	5月21日～6月2日
平成4(1992)年度	279	火曜日	4月13日～5月1日
平成5(1993)年度	283	火曜日	5月17日～28日
平成6(1994)年度	142	火→月曜日	4月11～24日資料整備期間、 9月1日～2月27日新館準備
平成7(1995)年度	286	新館移転以降、 現在まで月曜休館	11月28日～12月6日

休館日について、祝日及び年末・年始は各年度とも共通のため表示をしていない () 内の数字は不確定

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1982年(昭57)	3月31日	『蔵書目録』第1巻(郷土資料)・第4巻(社会科学)刊行。	
	4月 3日	調査相談コーナーに堤文庫開設。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。青空文庫(玖珠・童話祭)、子ども映画会、おはなしと紙芝居の会、子ども文庫開設(安岐町)、読書感想画展、続世界の絵本。	
	5月21日		『図書館年鑑』創刊。
	6月21日	『としょかんおおいた児童室だより』刊行。	
	8月	「地域読書推進文庫」開設。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。書庫公開、子ども文庫開設(山国町)、著名作家原稿展示会、母と子の映画会、読書感想文コンクール入選者表彰式、大分県読書グループ連絡協議会研究集会。	
1983年(昭58)	1月25日	県立大分図書館協議会が、知事・教育長に新図書館構想検討委員会設置の要望書を提出。	
	3月30日	『蔵書目録』第2巻(郷土資料)刊行。	
	3月31日	『蔵書目録』第5巻(自然科学・工学・産業)刊行。	
	4月 1日	勝尾和男館長就任。	
	4月	音楽レコードの団体貸出開始(1団体5枚まで10日間)。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。青空文庫(玖珠・童話祭)、子ども映画会、おはなしと紙芝居の会、子ども文庫開設(玖珠町・山香町)、読書感想画展、世界の絵本。	7日 日出町立萬里図書館新館開館。

蔵書目録刊行（昭和55年度～平成元年度）〈112ページに特集記事を掲載〉

蔵書数約30万のうち「歴史的に保存が必要になるもの」15万冊を選んで目録作成を行った。

蔵書目録の構成

- 蔵書目録
 - 第1巻 郷土資料
 - 第2巻 ◯
 - 第3巻 総記・哲学・歴史
 - 第4巻 社会科学
 - 第5巻 自然科学・工学・産業
 - 第6巻 芸術・語学
 - 第7巻 文学
 - 第8巻 著者名索引
- 増加図書目録 第1巻



資料課目録班の作業

蔵書の有無一目で
県立大分図書館
館が目録作り

県立大分図書館（高橋寿満館長）は、来年度から六年がかりで、蔵書の約半数にあたる十五万冊分の蔵書目録を作る。図書館に足を運ばなくても一目で本の有無がわかるし、目録の配布によって県内外の公共図書館、利用者への情報ネットワークも整うことになる。総事業費約五千万円のうち、とりあえず初年度分八百万円を来年度当初予算で要求していくことにしている。

図書館の蔵書目録は、全国の都道府県立図書館の四十館以上が既に備えているが、九州では大分のほか佐賀、鹿児島、沖縄の四県がまだない。大分図書館では、利用者が希望の本を探す場合には、利用

者自身が図書館備え付けのカードをめぐって探しあたり、書架の間を回って選ぶ方法がとられていた。しかし、目当ての本がなければ△△足になるし、題名のみではきりきりしい本やなじみの薄い本の場合には探し出すまでかなりの日時がかかる。蔵書目録ができれば、検索がかなり便利になる。



（大分合同新聞：昭和54年12月24日）

『児童室だより』の復刊

昭和52年3月に16号発行した後、休刊となっていた『はくちょう』が昭和57年6月『としよかんおおいた児童室だより』として改題復刊された。

（『としよかんおおいた児童室だより』昭和57年6月）

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1983年(昭58)	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。講演会、図書館担当職員研修会、子ども文庫開設(三重町・緒方町)、1日移動図書館、映画会、読書感想文コンクール入選者表彰式。	
	10月28日	大分県公共図書館等連絡協議会結成。総会開催。	
1984年(昭59)	3月31日	『蔵書目録』第6巻(芸術・語学)刊行。	
	4月 1日	切石文士館長就任。	
	4月16日		玖珠町立わらべの館開館。
	4月	所蔵の古文書・古記録のマイクロ化開始。	
	5月 1～14日	こどもの読書週間行事。「子どもと読書」お母さん交流会、子ども映画祭、おはなしと紙芝居の会(館内会場・杵築市会場)、日出町読書サークル連絡会との懇談会、読書感想画展、しかけ絵本展示。	
	6月14日		緒方町立緒方図書館開館。
	9月 6日	県立図書館利用者調査(アンケート)実施。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。読み聞かせ講習会、母子の映画祭、三重町図書館まつり(共催)、読書感想文入選者表彰式、館長会議、図書館担当職員研修会、大分県公共図書館等連絡協議会総会、貴重資料展示。	
11月 5～16日	全国奉仕部門研究集会開催(別府市)。		
11月30日	『大分県校歌集』刊行(大分県公共図書館等連絡協議会)。		
1985年(昭60)	2月14～15日	九州各県立・政令指定都市立図書館郷土資料部門研究集会開催(別府市)。	
	3月16日		科学万国博覧会開幕(つくば市)。
	3月30日		野上彌生子逝去。
	3月31日	『蔵書目録』第7巻(文学)刊行。	
	4月 1日	佐藤和秀館長就任。	

図書館建設ラッシュ～昭和53年から平成5年まで～



杵築市立図書館
昭和53年5月新館



佐伯市立佐伯図書館
昭和56年11月開館



緒方町立緒方図書館
昭和59年6月開館



大分市民図書館
昭和61年6月開館



三重町立図書館
昭和61年7月新館



別府市立図書館
昭和62年7月新館



日田市立淡窓図書館
昭和63年6月新館



武蔵町立図書館
平成3年11月開館



安岐町立図書館
平成4年7月開館



中津市立小幡記念図書館
平成5年4月新館

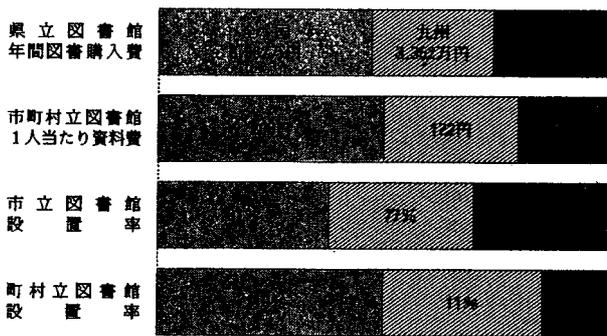


安心院町立図書館
平成5年6月開館



国東町立図書館
平成5年7月開館

全国・九州と大分の図書館状況比較表
(’89年度)



(『図書館年鑑』『日本の図書館』より)

上記以外に、図書館類似施設として、昭和59年4月に「わらべの館」(玖珠町)開館。昭和60年11月に、児童図書館「おじいさんのもり」(別府市)が開館し、民間施設としては日本最大級であった。



“童話の里”の中心施設となる「わらべの館」



松本記念児童図書館通称「おじいさんのもり」

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1985年(昭60)	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。子ども映画会、おはなしと紙芝居の会、市町村へ読書啓発チラシの配布、読書感想画・世界の絵本・野上彌生子作品展示。	
	5月1日～	郷土作家野上彌生子を偲ぶ記念行事。講演会、シンポジウム、資料展示、「野上彌生子先生をしのぶ」読書感想文コンクールなど。	
	9月27日	大分県立生涯教育センターに大分県視聴覚ライブラリー移管。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。読み聞かせ講習会、母子の映画会、1日移動図書館(直川村)、「野上彌生子先生をしのぶ」読書感想文コンクール表彰式、野上彌生子作品・有名作家原稿展示。	
	11月 3日		私立図書館松本記念児童図書館開館(別府市)。
1986年(昭61)	3月	隣接地大分県林業会館の土地及び建物取得。	
	4月	「図書館機能整備検討委員会」設置。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。小・中・高読書感想画展、世界の絵本展、子ども映画会、お話と紙芝居、一日こども図書館。	
	5月16日	国立国会図書館の資料の検索が可能となる。	
	6月 7日		コンパルホール市民図書館開館(大分市)。
	7月22日		三重町立図書館開館。
	7月	郷土関係新聞記事索引の入力開始。	

文庫の変遷 1～昭和40年代～

大分県立図書館文庫の変遷

- 41年10月 親子文庫・へき地文庫開設
- 42年4月 へき地親子文庫開設
- 43年5月 子ども文庫開設
- 45年9月 高齢者文庫開設
- 52年4月 グループ文庫開設
- 53年4月 市町村貸出文庫開設
- 57年8月 地域読書推進文庫開設
- 63年4月 地域読書文庫開設

「こども文庫」を終わって

昭和50年度は本耶馬溪町において、昨年11月から本年2月まで4ヵ月間開設、好評のうちに終了した。

文庫は、県立図書館が編成した児童図書 300冊を、樋田・上津両小学校の児童 292名が利用した。

延べ 4,816人が利用、1人平均16冊の割合で読まれた。

低・中学年向き図書がよく読まれている割には、高学年向きの利用が低く、5人以下の利用図書50冊は、おおむね高学年向き図書であった。反面同一図書を30人以上の者が利用した冊数は20冊で、これらは全て低・中学年向きの図書であった。最高は「国土社発行 ねこずぼん (さかた、ひろお著)」で45人が利用していた。

よく現代っ子＝テレビっ子と言われているが、条件整備さえなされれば、テレビっ子＝読書っ子とも言えるのではなかろうか。すさまじいまでの読書量に、改めて考えさせるものが多かった。

(『図書館おおいた』昭和51年5月)



図書目録を受け取る令井君

県立大分図書館は一日から始まった第十回子供の読書週を記念して、湯布院町公民館会議室

初めての「子供文庫」

県立図書館が湯布院に

に「湯布院町連合子供会子供文庫」を開設、午後四時から開設式をした。同図書館は県下各地で「親子文庫」や「辺地文庫」を開設しているが「子供文庫」は湯布院町が初めて。

町はこれまで県立大分図書館に子供文庫開設を要望したが、今度テストケースとして六ヵ月間開設する。結果がよければ来年から県下各地で毎年、二カ所で子供文庫を開設する。

町連合子供会子供文庫は日本や世界の童話、偉人の伝記など、小学生向きの図書二百五十冊があり、十月までの開設期間中、由布

院、塚原、川西、湯平の四小学校区でそれぞれ持ち回りにする。

開設式では、加藤町教育長、床並県立大分図書館副館長のあいさつと、床並副館長が町連合子供会代表の令井茂之(よしむさし)川布院小二年に図書目録を渡し、宮崎由布院小学校教頭、佐々木同校PTA会長、井尚美(さへみ)同小六年の三人が代表としてお礼のことを述べた。

(大分合同新聞：昭和43年5月3日)



親子文庫・へき地文庫

山間へき地の小学校の家庭への資料提供と「親子20分読書運動」推進の目的で始められた。小学校を指定し、1校につき100冊(成人向き30冊・児童書70冊)1セットを貸出していた。

へき地親子文庫

親子文庫・へき地文庫を一本化し、開設された。文庫の開設を希望するへき地校を対象にして、100冊(成人向き図書50冊、児童書50冊)を1セットを貸出した。開始当初は、3ヵ月おきに各学校の自主交換で運営された。

こども文庫

第10回こどもの読書週を記念し、開設された。貸出対象は、地域子ども会。最初の開設地は、湯布院連合子供会で、200冊の児童書を貸出。これは、テストケースとして6ヵ月間開設されたが、好評を得たため、以後県下各地で順次開設されていった。

高齢者文庫(ことぶき文庫)

敬老の日を記念し、9月に開設された。高齢者向きの本300冊を編成し、市町村、公民館などに6ヵ月間貸出した。

注 貸出冊数は年度により変動した。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1986年(昭61)	10月 1日		日本電子出版協会設立。
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。大分県立大分図書館所蔵貴重図書・資料展、読み聞かせ講習会、家族で楽しむ映画会、一日移動図書館。	
	10月	閲覧室に「大分県コーナー」設置。	
	11月15日		佐伯市立佐伯図書館、移動図書館車運行開始。
	12月17日	野上彌生子賞読書感想文コンクール表彰式(県内規模で開始)。	
1987年(昭62)	4月	大分県立大分図書館利用規則一部改正。	
	4月	閲覧室が中学1年生より利用可へ。	
	5月1～14日	こどもの読書週間行事。小・中・高読書感想画展、国際アンデルセン賞受賞画家絵本選展、一日こども図書館、こども映画会。	
	5月 1日	大分県立大分図書館管理規則一部改正。	
	5月	移動図書館「やまばと号」5代目に更新。	
	6月 9日	児童室の貸出方法(トークン式)を本館と同じ方法(変形ブラウン式)に変更。	
	7月10日		別府市立図書館新館開館。
	9月21日		『日本目録規則』1987年版刊行。
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。大分県文学散歩パネルと大型豪華本展、大型紙芝居とおはなし会、親子で楽しむ映画会、一日移動図書館。	

貸出方法の変遷～児童室～

荷揚町新館時代、本館（一般資料）の貸出方法は変形ブラウン式を維持したが、児童室の貸出方法は年代により変化した。

貸出方法の変遷

昭和41年 変形ブラウン式

児童室も本館と同様に変形ブラウン式で貸出をした（貸出方法は83ページ参照）。

昭和52年 トークン式

児童室の貸出が非常に多く、土・日曜日の当番を荷揚町新館開館当初の職員1名から3名に増やしても、混雑時には貸出返却で1時間も待ってもらうような状況だったため、簡易で迅速なトークン式に変更した。しかし、トークン式は無記名の貸出札での手続きだったため、利用者名を調べるには別途保管した資料利用票を捜さなければならず、資料管理の面で問題が多かった。

昭和62年 変形ブラウン式

その後児童室の貸出は昭和58年をピークに落ち着きを見せ始め、大分市民図書館開館の翌昭和62年6月より一般と同じ変形ブラウン式に戻ることとなった。

貸出券申込書		貸出券	
名前	おとこ・おんな	種類	年月日
学年	年 歳	学校	学校 年 歳
住所	〒 〇〇〇-〇〇	冊数	
保護者名	電話	大分県立大分図書館	電話 〇二-〇〇〇〇

貸出券	
種類	年月日
学校	学校 年 歳
冊数	
大分県立大分図書館 電話 〇二-〇〇〇〇	

- この券は、なくさないように、だいじにもっていて、本をかりるときにだしてください。
- あなただけしかつかえません。
- かりた日から、15日以内にかえしてください。
- 本は、ていねいによみましょう。
- もちはこびには、ふくろなどにいれてください。
- 本のまがしはゆめましょう。
- 本をなくしたりよじしたりしたときはとどけてください。
- 学校中とどけがかわったときはとどけてください。

当時の児童室の貸出券申込書・貸出券

様式は当時の文書より

児童室の貸出手続～トークン式～

昭和52年から始めたトークン式は無記名の貸出札（トークン）と貸出資料とを交換する方法で、貸出札は年度毎に色を変え登録更新が完了しているかどうかを確認した。「トークン式」は迅速性に優れていたが、資料管理の面で問題が多かった。

- 申込により登録が完了すると、利用者に貸出札を制限冊数分の2枚渡す。
- 利用者は資料利用票に記入し、貸出札と資料とともにカウンターで渡す。
- 職員は見返しのデートスリップに返却日付を押印し貸出する（貸出札と資料を引き替えに貸出）。
- 資料が返却されたら、デートスリップに返却済みの印を押し、返却冊数分の貸出札を利用者に返却する。

資料貸出票		月 日	
なまえ		男	女
学校のなまえ	小学校 年生		
本のなまえ	ラベルの番号		

大分県立大分図書館

資料貸出票（児童室）

入館者数の統計

荷揚町新館時代の児童室利用者数は、児童室入館時に各自で箸を筒に入れてもらい（一般〈男女別〉、児童〈男女別・学年別〉に分類されていた）、それで統計をとっていた。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1987年(昭62)	12月17日	野上彌生子賞読書感想文コンクール表彰式。	
	12月25日		公文書館法成立。
1988年(昭63)	1月20日		『図書館用語集』刊行。
	1月20日	『蔵書目録』第8巻(著者名索引)刊行。	
	4月 1日	吉田豊治館長就任。	大分大学が附属図書館を一般市民に開放。
	4月 1日	「地域読書文庫」開設。	
	6月 1日		日田市立淡窓図書館新館開館。
	6月23日	ブックポスト新設。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。大型豪華本の展示、おはなしの会、一日移動図書館。	
1989年(昭64) (平元)	1月 4日		県情報公開条例施行。
	1月 7日		昭和天皇崩御。元号を「平成」と改元。
	1月11日	第1回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	
	3月29日		『公立図書館の任務と目標 解説』刊行。
	3月		『つくりませんか図書館を一すべての町村に図書館を』配布。
	4月 1日		消費税開始。
	5月22日	館内改修工事(アスベスト除去)、資料整備のため休館(6月30日まで)。	

文庫の変遷 2 ～昭和50年代以降～

昭和50年代に入り、文庫活動はますます活性化していった。特に、図書館未設置市町村への貸出を目的とした「市町村貸出文庫」や「地域読書推進文庫」など50年代後半からの相次ぐ市町村立図書館の新館建設の条件整備に貢献した。

6市町村に「地域読書推進文庫」を開設

県立大分図書館は、読書グループの育成を目指して、本年度耶馬溪町など6市町村に初めて「地域読書推進文庫」を開設し、さる8月30日関係市町村に出席をお願いして、その説明会と初回分の新刊書250冊の配本をした。

この事業の基本にあるものは、現在県内各地域地域の盛り上がりや、若い人たちの「ムラ起こし運動」に見られるように、新しい地域づくりがすすまれている。このような中で、平松知事は本年の年頭、県民に「本年は地固めの年、これまで県下各地で盛りあがってきたやる気というか、活力を、本当の地力にしていく年にしたい」と述べ、さらに「本年は豊かな国づくりを目指すスタートにしたい」とその抱負を述べられている。

このことは、単なる物づくりではなく、物づくりを通してそこに住む人たちの意識をかえて、地域を支える新しい人間を育てていくことにある。

従って、物づくりの次には福祉・教育・文化面における

地域の底あげを狙ってこういう運動が必然的に考えられる。

こうした、新しい豊の国の創造と展望として、県政執行の柱のひとつに「人づくり」があげられている。

県立図書館としては、県の基本的な方向のもとに、本年度の主要事業の一つとして「地域読書推進文庫」を開設した。

具体的には実施期間を2年として、期間中に6市町村のそれぞれに成人・児童用図書あわせて新刊書2,000冊を貸し出して、広く一般の利用に供し、地域文化の向上をはかろうとするものである。

この地域の活性化をはかる手段として、読書グループの育成がある。このことも、図書館(室)の大切な仕事である。

対象6市町村の推進事項の概要は、下記の通りである。

市町村名	推進事項の概要	市町村名	推進事項の概要
山国町	<ul style="list-style-type: none"> 2カ月毎に10読書グループと3小学校に巡回配本。 一般への貸し出しを強化し、成人読書グループの育成。 	佐伯市	<ul style="list-style-type: none"> 地区公民館への配本 読書グループの育成 学校図書館との連絡会 童話教室・読み聞かせ・紙芝居・映画会の実施
耶馬溪町	<ul style="list-style-type: none"> 図書貸し出し事業 <ul style="list-style-type: none"> 館内貸し出し キャラバン車巡回 読書推進事業 <ul style="list-style-type: none"> 読書会の開催 読書感想文コンクールの実施 読み聞かせボランティア発掘 	三重町	<ul style="list-style-type: none"> グループ・地区公民館へ貸し出し 幼児を持つ母親グループの育成 子どもたちのためのボランティアの発掘 各種事業を通して、図書館利用の呼びかけ
国見町	<ul style="list-style-type: none"> 地区公民館への貸し出し。 中・高年齢層を対象とした読書グループの育成。 各グループの代表による懇談会を開催する。 図書室の整備・充実。 	直川村	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象とした読書活動の啓発 幼児を持つ親のグループの育成 講師を招いての学習会の開催 各種学級へ持ち込み、読書の啓発

(「図書館おおい」昭和57年9月)

昭和58年度館外奉仕事業の概要

館外奉仕事業の種類	貸出対象	貸出期間	貸出冊数
移動図書館 (移動図書館車 やまばと)	個人および読書 団体 (グループ)	2～3カ月 (1ステーション年5 回巡回)	1人 2冊
(1) 市町村貸出文 庫 7月開設	図書館未設置市 町村	3年	1市町村に 成人書 児童書 2,000冊 ただし500冊は 新刊書
(2) 地域読書推進 文庫	市町村貸出文庫 実施済市町村 5 未実施市町村 3	2年	1市町村に 成人書 児童書 2,000冊 新刊書
(3) 団体(巡回)文 庫 「ライトバン」 使用	市町村教育委員 会	3～4カ月	1セット 成人書50冊 児童書40冊 × 希望セット数
(4) 団体(来館)文 庫 (来館に限る)	読書団体・機関	1～5カ月	1人2冊× 会員数
(5) 親子文庫 7月開設	僻地小学校	3カ月	200冊以内 成人書 50冊 児童書 150冊
(6) 子ども文庫 前期5月開設 後期11月開設	地域子ども会	3カ月	200冊以内

(「図書館おおい」昭和58年4月)

グループ文庫

文庫を中心とした117タイトル、2,340冊を、1セット20冊で3～6ヶ月間貸出した。対象は読書グループ。

市町村貸出文庫

図書館未設置の市町村の中から、積極的な図書の購入、読書グループの育成、活発な読書活動などを計画している市町村に対し、2,000冊の図書を3年間貸出し、図書館設置の条件整備を図った。

地域読書推進文庫

市町村貸出文庫実施済み市町村3、未実施市町村3を対象に、2,000冊を2年間貸出した。

地域読書文庫

へき地、図書館未設置地域の学校などの団体に対し、400冊の図書を、年2回に分けて届け、第1回配本時にはおはなし会等を行った。

注 貸出冊数は年度により変動した。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1989年(平元)	9月	「豊の国文化創造県民会議」から新館建設についての提言。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。資料展示、おはなしの会、1日移動図書館。	
	11月9日		ベルリンの壁崩壊。
1990年(平2)	1月18日	第2回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、講演会。	
	3月19日		「豊の国情報ネットワーク」開始。
	3月30日	『増加図書目録』第1巻刊行。	
	4月1日	堤修三館長就任。	
	4月1日	新館建設準備室設置。	
	4月30日		『図書館ハンドブック 第5版』刊行。
	5月1～14日	こどもの読書週間行事。展示「復刻オズボーン・コレクション」、1日こども図書館、おはなし会。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。資料展示、文化講演会と映画の会、1日移動図書館。	3日 東西ドイツ統一。
12月13日	新県立図書館等基本構想検討委員会が、平松知事に「大分県新県立図書館等の基本構想に関する報告書」提出。		
1991年(平3)	1月17日		湾岸戦争始まる。(～4月6日)
	1月23日	第3回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、講演会。	
	1月	新県立図書館基本設計に着手。	
	1月	電算システム検討開始。	

野上彌生子賞読書感想文全国コンクール 〈114ページに特集記事を掲載〉

野上彌生子賞
読書感想文コンクール

1985年3月30日に亡くなった郷土作家野上彌生子を偲び、同年5月、講演・シンポジウム・資料展示等の記念行事が行われた。その一環として、「野上彌生子先生をしのぶ読書感想文コンクール」を実施。後の「野上彌生子賞読書感想文全国コンクール」の元となった。

実施要項

- ・主 催 大分県 岩波書店
- ・後 援 共同通信社 大分合同新聞社
- ・対象作品 野上彌生子の全作品
- ・応募区分 中学生の部 高校生の部 一般の部
- ・字 数 四百字詰原稿用紙 五枚
(第二回から一般の部は八枚)
- ・ 賞 野上彌生子賞 各部一編 十万円
優秀賞 各部 三編 二万円(第七回から五万円に増額)
佳 作 各部 十編程度 五千元(第七回から一万円に増額)
- ・表 彰 式 翌年1月中旬 大分市にて野上賞、優秀賞受賞者を招待

変遷



- 昭和60年 「野上彌生子先生をしのぶ」文化行事開催。行事の一環として、「野上彌生子賞読書感想文コンクール」を設けた。この年は、野上作品に限り募集。
- 昭和61年 野上作品と大分県が舞台題材の作品について募集。
- 昭和62年 野上作品と指定作品11編について募集。県内での反響は大きく、応募者の急激な増加がみられたため、全国的規模に拡大し、広く全国からの募集を呼びかけることとなった。
- 昭和63年 生前、野上彌生子と関係の深かった岩波書店に共催を要請。実施事項を決定し、第一回「野上彌生子賞読書感想文全国コンクール」が実施された。
- 平成15年 平成14年度第十五回の実施をもって終了。

回	年度	中 学			高 校			一 般			合 計		
		県内	県外	合計	県内	県外	合計	県内	県外	合計	県内	県外	合計
1	S63	183	44	227	631	35	666	37	248	285	851	327	1178
2	H 1	278	8	286	974	8	982	24	106	130	1276	122	1398
3	2	284	81	365	2341	44	2385	122	96	218	2747	221	2968
4	3	204	4	208	2511	11	2522	149	83	232	2864	98	2962
5	4	132	1	133	3260	5	3265	223	104	327	3615	110	3725
6	5	104	7	111	2944	9	2953	122	132	254	3170	148	3318
7	6	109	12	121	2613	3	2616	205	126	331	2927	141	3068
8	7	157	3	160	2624	38	2662	196	107	303	2977	148	3125
9	8	187	3	190	2751	20	2771	333	121	454	3271	144	3415
10	9	180	1	181	3028	1	3029	349	89	438	3557	91	3648
11	10	322	12	334	2963	9	2972	282	123	405	3567	144	3711
12	11	425	5	430	2573	8	2581	208	93	301	3206	106	3312
13	12	431	2	433	2749	7	2756	224	109	333	3404	118	3522
14	13	471	8	479	2934	51	2985	319	117	436	3724	176	3900
15	14	415	6	421	3232	90	3322	38	160	198	3685	256	3941
合計		3882	197	4079	38128	339	38467	2831	1814	4645	44841	2350	47191

応募数の推移

(「平成14年度(第15回)野上彌生子賞読書感想文全国コンクール記念号入賞作品集」)

記念講演一覧

回	年 度	表彰式会場	講演会講師	演 題
1	昭和63年度	県庁正庁ホール	篠 田 一 士	「野上文学の魅力」
2	平成元年度	〃	紅 野 敏 郎	「文学者・野上彌生子」
3	2	〃	竹 西 寛 子	「野上文学と風土」
4	3	〃	加 賀 乙 彦	「野上彌生子の長編小説」
5	4	〃	宇 田 健	「野上さんの北軽井沢」
6	5	大分県共同庁舎	紅 野 敏 郎	「野上日記の魅力」
7	6	〃	竹 西 寛 子	「随筆の野上彌生子」
8	7	大分県立図書館	加 賀 乙 彦	「野上文学と私」
9	8	臼杵市民会館	宇 田 健	「野上さんの日記から」
10	9	大分県共同庁舎	紅 野 敏 郎	「野上彌生子の短編小説」
11	10	〃	竹 西 寛 子	「野上彌生子の文章」
12	11	〃	加 賀 乙 彦	「野上彌生子の短編小説」
13	12	〃	宇 田 健	「野上彌生子と田辺元」
14	13	〃	紅 野 敏 郎	「『迷路』をめぐって」
15	14	大分県立図書館	加賀・紅野・竹西・宇田	座談会「野上彌生子文学をめぐって」

(「野上彌生子賞読書感想文全国コンクール講演集」)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1991年(平3)	4月 1日	大分県立大分図書館利用規則一部改正。	
	4月	新館建設に向けて、電算化委員会、図書館ネットワーク委員会などの内部組織プロジェクトチームを結成。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。展示「こどものとも復刻版」、一日こども図書館、テレビ番組、科学あそびの集い、おはなし会。	
	9月30日		日本複写権センター設立。
	10月 3日	新県立図書館基本設計発表。	
	10月27日	読書週間行事(11月9日まで)。おはなし会、資料展示会、県内史談会誌展、図書館案内。	
	11月19日	大分県図書館等ネットワーク研究会発足。	
	11月23日		武蔵町立図書館開館。
1992年(平4)	1月21日	第4回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、講演会。	
	2月	図書館システムの基本設計を日本電気株式会社に委託。	
	4月 1日	河野昭夫館長就任。	
	4月	電算化に向け、図書データ遡及入力開始。	
	4月	新館に向け、資料購入開始。	
	5月 2日	こどもの読書週間行事。展示「おとぎの世界」復刻版、1日こども図書館、おはなし会、科学あそびの集い。	
	6月16日	図書館等職員研修会(初級)開催。	17日 文部省、各都道府県・指定都市教育委員会教育長宛「公共図書館の設置及び運営に関する基準について(報告)」通知。

新館建設へ

昭和50年代に入り、蔵書能力の限界、駐車場不足等、施設の狭隘が深刻化した。さらに、当時の施設では、生涯学習社会、情報化社会の進展に伴う、資料・情報の量的増大、種類や内容の複雑化・高度化に対応することは困難であった。そして、平成元年9月、「豊の国文化創造県民会議」から新館建設についての提言がなされ、平松知事の決断により新館建設が決定した。

平成3年11月には、「大分県図書館等ネットワーク研究会」が発足。県内図書館活動の現況、相互協力のあり方及び課題等についての調査が行われ、新館移転を目指し、より具体的な方策がまとめられていった。



建築中の新県立図書館

魅力ある県立図書館をめざして（その6）

新県立図書館…情報ライブラリーセンター…の建設基本構想

現在の県立図書館は、昭和41年に開館しましたが、今では増えつつある資料で蔵書能力は限界に達し、更に駐車場不足、施設の狭隘化等の状態にあります。このような状況から平成元年9月に「豊の国文化創造県民会議」から新館建設についての提言がなされ、さらに平成2年12月には新県立図書館等基本構想検討委員会が「大分県新県立図書館等の基本構想に関する報告書」で以下に紹介しますような具体的な提言を行いました。これを受けて、県は平成6年11月の開館を目指し、21世紀を展望した新しい県立図書館の建設に、今、取り組んでいます。

〔新県立図書館の基本理念〕

県民の生涯学習上、最も基本的かつ重要な施設である図書館に、新たに歴史資料として重要な公文書等を後代に伝えるための「公文書館」や大分県を代表する先賢に関する「大分県先哲資料館」（仮称）とを併設した複合文化施設として、新県立図書館等を建設し、県民がだれでも、いつでも、どこからでも利用できる県民に開かれた多目的な機能を備えた「情報ライブラリーセンター」を目指している。

〔新県立図書館の役割と機能〕

<役割>

(1) 21世紀に向けて創造的で活力ある地域社会を構築していくために必要となる生涯学習のキーステーション

(2) 住民に直接的な図書館サービスを行う市町村立図書館等の活動を支援する県下の中核図書館

<機能>

(1) 学習活動を支援するため、専門職員によるインフォメーションサービスの充実・強化を図るとともに、定期的な学級・講座・展示会等、学習の場を提供する。

(2) すべての市町村に図書館が開設され、自力による図書館事業が展開される「一村一館体制」が確立されるよう、市町村立図書館や公民館図書室の

求めに応じて資料の貸出しやレファレンス等の援助を行うとともに、図書館未設置市町村には移動図書館等の運行や図書館の整備促進に係る助言や情報の提供を行う。

(3) 多様化・高度化する県民の学習ニーズに的確に対応するため、総合的かつ系統的な資料の収集に努めるほか、本県図書館を特色づけるため、温泉・権耳・竹等の本県特有の資料や、今後ますます需要の増加が見込まれる視聴覚資料等の収集にも積極的に取り組む。

(4) 県下の公共図書館等との間で図書館機能の相互補完を行い得るネットワークを形成するとともに、最新のコンピュータを導入して図書館業務全般を電算化するほか、「豊の国情報ネットワーク」を利用することにより自宅等に居ながらにしてパソコン等で図書館サービスが受けられるように配慮する。

(5) 大分の歴史文化や県政プロジェクト等の各種の県勢情報を映像等により提供する。

〔新県立図書館の建設場所と施設規模〕

図書館は「ゆとりとくつろぎ」を与える文化施設として利用に便利な場所において、かつ読書に適した静かな環境や将来の蔵書増加に対応する余地の確保が必要である。大分駅や高速道路のインターチェンジにも近く、周辺は文教ゾーンを形成している静かな環境でしかも十分な駐車スペースの確保のできる、大分市南王子町の国立大分病院跡地が最も望ましい建設場所である。

また、施設の規模は150万冊程度の蔵書能力と12万冊程度の図書を開架する図書館を中心に、この複合文化施設全体で1万6千㎡程度を予定している。建物は文化施設としてその出現自体が県民にある意味でのカルチャーショックを与えるようなものであるとともに、永く後世に残る格調高いものが望まれている。

（『図書館おおいた』平成3年3月）

新県立図書館建設に至る経緯

昭和61年度	「大分県立大分図書館機能整備検討委員会」を図書館内部で設置。検討を始める。
平成元年9月	「豊の国文化創造県民会議」（昭和62年度9月設置）が、「豊の国文化創造について」の答申を平松知事に提出。
平成2年1月	「新県立図書館等整備推進委員会設置要綱」制定。
平成2年1月 平成2年1～7月	第1回回整備推進委員会開催。 同整備推進委員会幹事を7回開催
平成2年4月	「県立図書館建設準備室」が設置され、準備室長等6名が発令された。
平成2年6月	「新県立図書館等基本構想検討委員会設置要綱」制定。
平成2年8～12月	「新県立図書館等基本構想検討委員会」開催。 「大分県新県立図書館等の基本構想に関する報告書」を作成。平松知事に提出。
平成3年1月	新県立図書館の基本設計を磯崎アトリエに委託。
平成3年9月	新県立図書館建設用地として、大分市南王子町2丁目の国立大分病院跡地を購入。
平成3年10月	磯崎新「大分県新県立図書館等基本設計説明書」を平松知事に説明。
平成4年2月	図書館システムの基本設計を日本電気株式会社に委託。

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1992年(平4)	7月28日		安岐町立図書館開館。
	9月 5日		学校5日制スタート。
	9月29～ 30日	図書館等職員研修会(中級)開催。	
	10月 1日	新大分県立図書館建設工事着工。	
	10月12日	外務省長期青年招聘事業でモンゴルからダクワ・エンケチメックさんを受入(3月まで)。	
1993年(平5)	1月18日	第5回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、講演会。	
	2月 9～ 10日	図書館等職員研修会(上級)開催。	
	4月23日		中津市立小幡記念図書館新館開館。
	4月	新館運営委員会設置。	
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。展示「世界の絵本70選—ソニーリーサ」、1日こども図書館、おはなし会、科学あそびの集い、展示「県内小学生・中学生・高校生の読書感想画入選作品展」。	
	6月21日		安心院町立図書館開館。
	7月 1日		国東町立図書館開館。
	7月	大分県図書館等ネットワーク研究会、『滋賀県の公共図書館～大分県図書館等ネットワーク研究会先進地視察報告～』刊行。	
	10月13日	大分県図書館等ネットワーク研究会、『大分県における図書館ネットワークのための課題』刊行。	
11月	電算システム用ホスト、端末機部分設置。テスト稼働開始。		
1994年(平6)	1月21日	第6回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、講演会。	
	1月	電算遡及入力書誌情報のデータチェック開始。	

特集「古文書解読講習」

古文書解読講習が始まったのが昭和43年の夏、これは磯崎新氏設計による新しい県立図書館が出来た2年後のことである。

時は、高度経済成長の時代、池田内閣の所得倍增政策・東京オリンピックなど、日本全土が「物も豊か・心も豊か」の社会への要請がたかまり、文化遺産に対する国民の意請が深まりつつあったときである。

戦後20年、人は改めて自分の生まれ育った土地・古里の歴史に深い関心をもって来たのであろう、古文書解読講習会は最初の第1回より受講希望者は予想より多く、県下各市町村の図書館関係者より一般郷土史家が多く、また希望により夏休み期間中施行で学校の先生も多数の参加があり、古文書による郷土史の探求意識が強いことを感じた。

第6回昭和48年講習会は大分市のみでなく地方での開催希望が強く豊後高田市で、次の第7回は日田市立淡窓図書館で行ったが、開催の年は良いが、次の会は何年先になるのか…ということで大分市以外での講習会はこの二回だけで取りやめとなった。

第10回昭和52年には受講生を初心者・中級者に分けて行うほどになり、第24回平成3年まで続けられた。

その後、平成7年よりは新設された県立先哲史料館が引き続き行っている。

大分県郷土資料所在調査目録〔近世史料の部〕第一輯が昭和54年2月に発行された。これは昭和45年より渡辺澄夫先生（大分大学教授）を中心に県下全域にわたり、各地域別に郷土史研究者の方々（35名）の調査によるものです。

小藩分立〔八藩（中津・日出・杵築・府内・臼杵・佐伯・岡・森）七領（島原藩・延岡藩・熊本藩・時枝・立石・宇佐宮・幕府）〕により、その藩・領内にそれぞれの文書が残されている。この文書史料は世界中に、これ丈、ここ丈にしか存在しない、郷土の歴史を研究する“唯一無二”の宝物である。

古文書解読講習においても、始まった最初の段階では古文書解読に必要な一般的な基礎的知識の習得に重点をおいたが、県内の郷土の古文書が発見されるにつれて、その“唯一無二”の史料を教材にとりあげ、受講生もますます自分の住む郷土の歴史を自分の目で知るようになり、唯一無二の宝物である古文書の発見・保存に尽力するようになった。

古文書の所有者の中には、その保存・管理維持が困難であるが、先祖代々引継いで来た家の宝物を人手に渡すことは出来ない、何か良い方策は…ということで、県立図書館が、その文書史料の所有権はそのまま、保存・管理し、史料としての一般利用は認める〔寄託文書〕の規定を制定（昭和54年）、県下各地の貴重な文書が収蔵・利用されている。これらすべて古文書解読講習会の大きな効用だと思われる。

（元職員 赤峯重信）

特集「目録について」

図書館にどういふ本が所蔵されているかを知ることは、利用者にとっても職員にとっても必須のことです。その手段として、荷揚町時代は精密なカード目録が整備されていました。本館（現在の一般資料）用として分類目録、辞書体目録（書名、著者名、件名を混排したもの）、郷土資料用として分類目録、書名目録、著者名目録、これらは利用者用で、このほかに事務用としてそれぞれ基本目録と書架目録もありました。

カード目録は、加除・修正が容易で最新の所蔵記録の維持が可能です。けれどもカード目録以外の場所からの直接の検索はできません。しかし、冊子目録は最新の記録の収録はできませんが、通覧性、可動性、量産性に優れ、他の場所からでも容易に検索できます。県立図書館として市町立図書館の支援機能を果たすために、また、全国に当館の所蔵資料を知らせるためにも、冊子目録作成は悲願ともいえる懸案事項でした。

その冊子体蔵書目録作成が始まったのは昭和55年でした。本館と郷土資料が対象で、現場案の6年計画が4年に縮小されて予算がついたのです。当時の資料課整理係職員1名に蔵書目録用臨時職員3名で、いよいよ原稿用紙に記入を始めました。なお、郷土資料については、2年目から担当係が作業を始めました。

分類カードを元に、ページ数の節約のためできるだけ一括記入をしました。正確を期すために、1冊ごとにその本の出版年によって「国立国会図書館明治期刊行蔵書目録」、「大阪府立図書館蔵書目録」、「国立国会図書館蔵書目録」、「東京都立中央図書館蔵書目録」、「日本図書館協会選定目録」、「全国書誌速報」をカードと参照し、記述が異なる場合は実物で確認をしました。カードや他館の目録が「日本十進分類法」や「日本目録規則」の旧版に従って書かれているものは新版に翻案して記入しました。

蔵書目録は綿密な内容のためか印刷業者決定がうまくいかず、記入済みの原稿用紙がうずたかくなるところで、やっと大手の業者に決まりました。その初会議で業者側の提案は図書館側には思ってもいなかったことでした。「活字を拾うのではなくコンピュータ印刷をします。今ある原稿用紙に赤青の色鉛筆でタグ付け、つまりこれは書名、これは出版社名等とわかるように記号を付けてください」。2年目からはデータシートに記入するようになり、その形式も改良されていきました。図書館側も業者側も試行錯誤でした。担当のSEさんの姿をJ-BISC完成のテレビニュースで見たときは、当館の蔵書目録作成が幾分でも寄与したのではと思いました。

蔵書目録作成は10年間にわたり郷土資料を含めて9冊を出して終了しました。

完成した目録は、県内外の図書館等で相互貸借のツールとして、また県内では目録作成の参考としても使っていただけたようです。新館開館後もインターネットでのOPAC公開までは、古い資料についてはこの冊子体目録を利用した館もあると聞いています。

この事業は、冊子体目録ができたばかりでなく、職員にコンピュータに関する知識を得させ、後の電算導入に伴う蔵書データ入力に大きな影響を与えました。また、郷土資料については、この目録の綿密な記述が電算化時に使われました。

カード目録は、人手、時間、スペース、効率等の点で、新館開館後は廃止されました。

（元職員 佐藤サチ）

【特集「野上彌生子賞読書感想文全国コンクール」】

昭和60年（1985年）3月30日、野上彌生子先生は急性心不全のため、百歳を目前にして、東京都世田谷区の御自宅で逝去された。九十九歳であった。

生前満百歳を祝賀する行事の準備をすすめていたが、急遽、「野上彌生子先生をしのぶ」文化行事として、昭和60年5月2日、大分県庁正庁ホールにおいて、野上耀三氏（彌生子三男）御夫妻をお迎えして、講演会・シンポジウム等を開催した。

その文化行事の一環として、「野上彌生子賞読書感想文コンクール」を実施し、野上彌生子先生の顕彰及び県民読書の推進を図ることになった。

この県内コンクールは昭和60年度、61年度、62年度と3ヶ年継続して実施されたのであるが、県内での反響が大きく、応募者も増加したため、昭和63年度からは、岩波書店の共催を得て、「全国コンクール」として規模を拡大し、広く全国から募集することになった。以来15年間、所期の目的が概ね達成されたとして平成14年度に幕を閉じるまで、全国の野上作品愛好者から熱い視線を受け、大分県の多くの青少年に郷土が生んだ大作家に親しく触れる機会を提供できたことは、大きな意義があったといえることができる。

応募総数は年々増加し、最終回には3,941編もの応募があった。ただ、県外の中学・高校にあっては、他郷の作家であること、やや難解であること等から応募数が伸び悩んだ。一般の部は全国から満遍なく応募があり、野上作品が広く愛読されていることが窺えた。

感想文に取り挙げられた対象作品のベスト5は、『海神丸』『秀吉と利休』『真知子』『随筆花』『哀しき少年』であったが、平成10年に『野上彌生子ふるさと作品集』（大分県教育委員会編）及び『野上彌生子短編集』等の岩波文庫が刊行され、応募作品の幅が大きく広がった。

審査は県内審査と中央審査が行われた。まず県内審査は佐々木均太郎氏を初めとして、県内の大学教授、国語科の学校教員等の学識経験者がこれにあたり、中央審査に送る第1次通過作品を決定した。これを受けて中央審査では、篠田一士、竹西寛子、加賀乙彦、紅野敏郎、宇田健各氏が最終審査に当たられ、各賞が決定された。

表彰式は県庁で行われたが、第9回は臼杵市で、第8回と最終回は県立図書館で執り行われた。また、表彰式には中央審査委員が毎年順番で来県され、野上彌生子に関する記念講演が行われた。第15回の最終回には中央審査員の先生方4名が全員来県され、記念座談会を行った。それらの講演記録は「講演集」としてまとめ、また、「記念号」を発行して、この事業の締めくくりとした。

（元職員 山本勝通）

第1章

第6節

新県立図書館建設

平成6年～平成7年(1994～1995)



豊の国情報ライブラリー

平成4年10月に着工した新館建設工事も平成6年9月末ついに完成し、内装工事の仕上げや書架・家具の搬入等と平行して、新館移転作業が本格化した。

各種データ入力作業も着々と進み、コンピュータシステムの稼働準備は仕上げにかかっていた。業者倉庫での新館用資料10万冊（ダンボール3,000箱）を中心とした仮排架作業は、7月から11月までかけて行われた。

9月には休館に入り、新館用家具・書架のサイン作成や業務全体の見直し（規則改正や業務マニュアル作成等）も進められた。12月に新館への移転作業が開始となった。旧館からの搬入も加えて、図書約52万冊と雑誌等（全部でダンボール3万箱以上）の大移動だった。

年が明けて1月からは、コンピュータ入力データの修正・追加・総点検や、新システム等への職員研修といった総仕上げを経て、2月28日の開館を迎えることになった。

新県立図書館は、延床面積23,000㎡の豊の国情報ライブラリーの一角として、ワンフロア4,500㎡・開架図書収蔵能力30万冊の一般資料室を中心に、書庫収蔵能力130万冊を持つ大規模図書館として、新たに出発することとなった。

新県立図書館建設

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1994年(平6)	4月 1日	宮本高志館長就任。	
	4月 1日	新館の利用券登録事前申し込み受付開始。	
	4月 1日	新館に合わせ、4課9係となる。	
	4月 1日	大分県立大分図書館管理規則一部改正。	
	4月 1～ 24日	資料整備期間で休館。	
	4月 8日		大分フットボールクラブ「トリニティ」(現トリニータ)設立。
	5月 1～ 14日	こどもの読書週間行事。1日こども図書館(5/2)、おはなし会(5/14)、展示(5/1～14)。	
	6月30日		村山富市(大分市出身)内閣総理大臣誕生。
	6月	新館用コンピュータテスト稼働開始。	
	7月 1日	業者倉庫での資料移転作業開始(11月末まで)。	
	7月31日	移動図書館等館外事業停止。	
	9月 1日	新館への移転作業のため閉館。	
	9月30日	新県立図書館等建設工事完成。	
	10月13日		大江健三郎、ノーベル文学賞受賞。
	10月28～ 29日	新県立図書館 見学会。	
	12月 1日	新館への移転作業開始。	

県立図書館

移転日誌 (一)

移転作業始まる

大分県立大分図書館は、平成六年九月一日より平成七年二月末新県立図書館開館予定日までの間、休館し移転作業をすることとなりました。

県の移転作業としては、県立病院の移転以来の大作業になりますので、「移転日誌」を「教育おいた」に六回にわたって寄稿することにいたします。

今回は初回ですので、簡単に新図書館及び移転作業の概要を説明させていただきます。

大分市荷揚町の現図書館が、図書資料等の増大にともなう狭隘化と、駐車場がないこと等により、大分市南王子町二丁目新県立図書館を建築し、移転することになりました。

基本計画は平成三年度に決定し、平成四年度着工、総事業費約一五七億円で、鉄骨鉄筋コンクリート造、地上六階地下一階延べ床面積二万二千八百㎡余りで、公文書館、先哲史料館との複合館となります。

新図書館は、三〇万冊の開架、一六〇万冊の蔵書能力があり、二五〇席の視聴覚ホール、二二〇席の学習室、六研修室、約二〇〇台収容の駐車場が整備されます。家具や書架等が搬入されるのは二月末が予定されています。



また新館建設に伴い、平成三年度より四カ年間で貸出事務等の電算化を、また平成四年度より三カ年間で図書等の資料の充実を平行的に図ってきました。さて、今回の移転のような作業は、他県の県立図書館の例では、新図書館を整理場所として利用しながら、六カ月から七カ月の期間をかけて移転していますが、本県では新館をできるだけ早く県民の利用に供することとしましたので、引越先である新図書館が完成していない時から休館し、準備作業をすることとしました。

休館となった平成六年九月一日現在、新図書館用に購入した本や寄贈を受けた新しい本が約一三万冊となりますが、現図書館には排架(本を列べる)するスペースが全くないので、今年の七月一日より大分市内の業者倉庫を借受け、仮設の書架を設置して、新館の書架に合わせた仮排架作業を開始しました。九月になって、現図書館で所有している本のうち新図書館で開架に出す本を業者倉庫に移送し、併合することによって、一〇月末ま

では、新図書館を想定した仮排架ができます。この間、図書ラベル等の点検をするともに電算データのチェックも行っています。

一月は、箱詰め期間とし、二月には現図書館と業者倉庫から新図書館に搬入し、箱開けや排架作業をします。この時の図書は約五〇万冊、これに雑誌等を加えて、ダンボール箱二万五千個程度になります。

そして一月から二月中旬にかけては、電算データの修正や図書等の排架場所の入力作業を予定しています。

一部の利用者から、休館する期間(六カ月間)が長すぎるとの批判もありますが、整備充実した図書資料数や他県の例に比して多いことと、同時期に電算化を図っていること、それに新図書館で作業できる期間が短いこと等の理由により、六カ月の休館期間を取ってのも、非常に厳しいスケジュールとなっております。ご理解いただいております。

さて、新図書館開館時には、開架図書の内一五万冊程度新しい本となる予定です。月々の新刊書や雑誌、新聞等の購入が飛躍的に増加する予定となっています。また、電算化による検索や貸出事務のスピード化が図られます。また、豊の国ネットワークを利用することにより家庭からでも蔵書データの検索が可能となりますので十分に期待いただけるものと考えております。

今後、広く新図書館のピーアールに努めていきますが、県民の皆さまの積極的なご利用をお願いいたします。なお、来月号において利用券登録のお願いを予定していますが、開館当初は非常に混雑が予想されますので、事前の登録にご協力をお願いいたします。

今回は公式的な報告となりましたが、次回からは、作業現場におけるエピソード等をまじえ、ご報告します。

(『教育おいた』第246号)



バーコードと図書カード



ラベル



フィルムコーティング

新県立図書館利用券申込

たたいま 高築中

新県立図書館での利用券は、電算システムの導入により新しくなります。新館オープン時には、大変混雑が予想されますので、事前の申込みをお勧めいたします。また、ご家族のお申込みもお待ちしています。

利用券申込書は、県教委生涯学習課、県各地方振興局、市町村立図書館、公民館図書室に置いてありますので、郵送にてお申込みください(〒八六二 大分市荷揚町三三二一 大分県立大分図書館企画管理係あて)。なお、利用券は新館オープン後、来館時にお渡しします。(免許証など住所の確認できるものをご持参ください。)

利用券申込書

利用券番号: _____ 申込年月日: 平成 年 月 日

氏名: カタカナ _____ 姓 _____

名 漢字 _____

生年月日: 明治・大正・昭和・平成 年 月 日 性別: 1. 男 2. 女

電話 1: 1. 自宅 2. 呼出() 3. 無し ()

電話 2: 4. 勤務先 5. 毎賃先 6. 無し ()

現住所: 〒() () 番地、マンション名、下宿先等も記載ください。 ()

増設先等: 〒() ()

住所コード: _____ 住所コード: _____

大分県立図書館

(『教育おいた』第248号)

新県立図書館移転日誌

(その1)

※一冊の本はいつたい何度動かすのか。

新県立図書館開館準備のための本の購入は、二年前から準備しており、開館時には一八万冊を超える予定となっていました。そのうち移転作業を始めた七月一日現在約一〇万冊が、大分市内の業者倉庫に保管されていました。

今度の移転作業のために、別の業者倉庫に仮設の書架を設置して、図書の種類番号順に並替えを行う作業を行いました。現図書館では、一般の利用者が本を手にとって見ることで開架書架が七万冊しかなく、当然のことながら、図書館員も一〇万冊という大量の本を分類番号順に並替えた経験がありません。そこで、どういう手順で並替えたら合理的に早くできるのか、手探りの状況ながら、何度も館内で協議しました。

図書館では、本によつては918・68/AI/11のように分類番号がつけられています。例えばこの場合、一桁目の数字をとつて9門の本といいますが、作業を始めた時点では、0門から9門までの一〇万冊の本の部門別内訳がありませんでした。

大分市内の業者倉庫は約三〇〇坪あり、市内でも大きい方なのですが、三〇〇〇箱のダンボール箱をいれると、四段に積んでも、その四分の一がふさがりました。これを箱開けし、分類番号の二桁目まで分類し、また箱詰めしたら、今度は、仮設の書架を設置するスペースがなくなつたので、本を一度運び出し、書架を設置した後、本を書架に並べました。

仮設の書架には、約一六万冊が入れられるように計算されました。一六万冊の書架で一〇万冊入れるのですから、七段の書架のうち作業の都合から上下二段を除いても、十分に本は入るはずですが、本はまだ分類番号の二桁目までしか分類されていないので、三桁目以降を並替えるためにも各ブロックごとのスペースが

(『教育おいた』第247号)



排架作業の様子



本の箱詰め作業

この日の開館に向けて、昨年七月以来移転の作業を開始し、九月からは休館して全館体制で移転作業をしてきました。新県立図書館に引っ越してきた一二月初めは、まだ館内のあちこちで内装工事をしており、職員がけがをしないよう注意を呼びかけながらの作業でした。

当初の計画では、一月末までに書架や家具が納入されているはずでしたが、一部の書架以外まだできあがりしていません。本を旧図書館から搬入しはじめた一二月五日現在、書架に棚板がついているのは半分程度なので、急遽、搬送手順を変更し、書架のできあがり分から運び入れを始め、棚板ができあがり次第に順番に本を排架(並べる)しました。なにしろ三万個を超える段ボールがあるわけですから、うずたかく積まれた段ボールの搬送順番を変えるのも大変です。搬送業者である日通の担当者の方は本当によく協力してくれて、なんとか計画どおり一二月の末までには、本を書架に排架することができました。

平成七年二月二十八日午前十一時、平松知事、永岡教育委員長をはじめ関係者二〇人が出席し、開館記念式が行われ、引き続き、知事、友岡県議会議長、宮本図書館長ら五人がテーブルカットをして、華やかな雰囲気の中、新県立図書館はオープンしました。

一般の利用は、午後二時から始められ、初日の入館者約二一〇〇人、貸出冊数二五〇〇冊で、当初予想した混乱もなく順調なスタートをきることができました。

この日の開館に向けて、昨年七月以来移転の作業を開始し、九月からは休館して全館体制で移転作業をしてきました。新県立図書館に引っ越してきた一二月初めは、まだ館内のあちこちで内装工事をしており、職員がけがをしないよう注意を呼びかけながらの作業でした。

新県立図書館移転日誌

(その五・終)

新館開館を迎えて

(『教育おいた』第251号)

年が変わった一月の一七日からは、五三万冊の本に貼られたバーコードをなぞり、排架場所の電算入力作業を行いました。一人のノルマを一日四〇〇冊としました。単純に計算して、一分間に三冊入力すれば勤務時間内に作業が終わりです。スピードと持続力を要求される作業ですので、計算どおりにいかどうか心配しましたが、三日目からはスケジュール以上の速さとなり、一月末までにはすべて完了しました。職員全員の頑張りがあってからこそと自負しています。

二月になると、新館開館にあわせて導入した図書館システムをはじめとする一〇種類以上のコンピュータシステムの研修を始めました。本来業務に使用する図書館システムの本番環境を使つての研修は、一月採用の非常勤職員や臨時職員はもちろんのこと、以前からの職員も初めを迎えられません。毎日がコンピュータ研修になりました。その上、マイクローリタープリンターやAVシステムなどたくさんさんの新しい機器の使用法の研修が上乘せられます。研修につく研修でさぞくたげられたことと思います。

開館が近づくとつれ、館内にサイン(案内表示)が設置され、そのチェックをしつつ、パンフレット、利用案内などの作成や各種様式の印刷、式典の準備など土曜、日曜なし、帰宅が午前様の職員もかなりいたようです。

開館を迎えて、ぎりぎりのセーフ、準備がすべて万全とはまだ言えませんが、最大限の努力はしました。職員一同、県民の皆様の来館をお待ちしておりますので、どうかご家族おそろいでおいでください。

特集「新館移行時の郷土資料について」

平成2年12月「大分県新県立図書館等の基本構想に関する報告書」が発表され、翌年の平成3年4月から本格的な新館準備が始まった。郷土資料部門の準備は、資料課資料係が担当した。新館開館までに解決しておくべきことは山積していた。中でも、「公文書館」「先哲資料館」^{〔注1〕}の新設にともなう図書館郷土資料の一部移管と、新図書館の郷土資料室の整備充実が重要課題だった。資料移管については、平成3年8月下旬に係長以上の会議で検討し、以下の四項目を基本的な考えとすることで県立図書館の意思を統一した。

- (a) 現在(平成3年)所蔵している郷土資料のうち、図書は「図書館郷土資料室」に、文書は「公文書館」または「先哲資料館」に、を原則とする。この場合の「文書」とは文書群として組織化、グループ化し文書整理規定に従って整理されたものをさす。
- (b) 「文書」であっても「図書」として登録し、十進分類法で整理されているものは移管しない。
- (c) 一般和書、碩田叢史および豊州雑誌は引き続き図書館が管理する。
- (d) 寄託文書は寄託者の了解を得て公文書館または先哲資料館に移管する。

資料移管に関する三館の調整会議は、平成3年9月中旬に県立図書館建設準備室の呼びかけで開かれた。会議では上記(a)～(d)の図書館側の提案についてはそのまま了承された。この内容も含めてこの会議で合意されたことは、「大分県立図書館・大分県公文書館及び大分県先哲資料館が収集管理する資料の範囲を定める要領」として、平成4年3月に教育長名で三館に通知された。移管作業は平成6年から平成7年にかけて行われた。大分県公文書館には所蔵資料・寄託資料合わせて約2万6千6百点、大分県立先哲史料館^{〔注2〕}には所蔵資料・寄託資料合わせて約1万3千5百点を移管した。合計4万点を超えていた。

資料移管と並んでの重要課題は、新設される郷土資料室の資料を整備し利用者サービスを向上させることだった。新館に向けての郷土資料購入費は、平成3年度の120万円から平成4年度は697万円(平成5・6年度も同)と増額され、新刊本の複本購入や既刊本の遡及購入を積極的に進めることができた。また県内自治体刊行物や県民の私的刊行物の収集にも努めた。その結果、郷土資料の蔵書数は平成3年度末の43,891冊(「行政文書」は除く)から平成6年度末には54,460冊となり、3年間で1万冊以上も増加した。こうした所蔵資料の増加充実を背景に、新館開館と同時に郷土資料の貸出し(複本3部以上ある資料)に踏み切った。他県の県立図書館では、まだほとんど郷土資料の貸出しは実施していなかった。

資料整備の一環として、貴重資料・古文書・古記録のマイクロフィルム化とフィルムからの複製本の作成にも予算が付いた。新館では複製本約2,000冊が開架書架に並んだ。これで利用者の便と原本の保存とが両立できるようになった。

郷土資料データの電算入力も利用者サービスに欠かせない重要な取り組みだった。郷土資料の場合は既製のマークには頼れなかったため、80%以上はオリジナルデータを作成した。作業は図書館側で原稿を作成し契約先の紀伊國屋が入力した。原稿作成に当たっては、漢字のフリーワード検索にそなえて内容注記をできるだけ充実させようとした。

平成6年4月、図書館組織は改編され資料課資料係は奉仕第二課郷土資料係となった。「郷土資料係」の係名が初めて誕生した。平成7年2月28日に新館は開館した。3月6日付大分合同新聞〔東西南北〕に「新県立図書館をのぞいて見た(中略)。とくによかったのは郷土資料室が独立し、多くの貴重な資料が開架式で公開されたこと。(以下略)」とあった。

〔注1〕「基本構想」では、共に文書館機能を持ち収蔵対象資料を明治4年で区分するとしている。

〔注2〕平成6年の条例制定以降「先哲史料館」を使用。「基本構想」等での表記は「先哲資料館」となっている。

(元職員 吉良 洋一)



新しくつくられた郷土資料室
(約2万冊を開架)



貴重書庫
天井と壁に日田杉を使用

特集「新館に向けての資料購入」

平成2年の「大分県新県立図書館等の基本構想に関する報告書」を受けて、翌3年に「新県立図書館基本設計」がまとまった。これにより、30万冊の大規模閲覧室、書庫も含めて全蔵書能力160万冊の新館づくりが始まった。旧館時代（平成3年度末現在）は、全蔵書冊数30万冊余の内、開架冊数は10万冊程度であり、新館にむけて大幅な資料購入計画が進むことになった。

平成4～6年度の3ヵ年で、約7億円かけて、一般資料12万冊、児童資料3万冊、郷土資料6千冊、外国語資料7千冊、館外活動用資料3万冊、新聞78紙・雑誌846誌、CD898枚・LD138枚を選定・購入するという大計画となった。

資料選定委員会を毎月1回開催して全体会とし、収集方針の策定や資料選定及び収集状況の検討を進め、館外・児童・郷土資料の専門部会を設置した。その下に資料収集班を組織し、資料選定・発注・受入等の実務を行った。

新刊書は書店からの現物見計らいを基本にし、既刊書の週及購入は、一般資料については1981年以降出版の10万社・70万件収録の打出リストを、児童資料については1969年以降出版の5万件収録の打出リストを中心に選定を進めていくことになった。

一般資料は、新刊書を毎週600冊のペースで選定し、現図書館用に100冊、新館用に500冊の配分とした。また既刊書は平成4年度は主要出版社1,020社・25万件的打出リストや、復刻本、美術豪華本、参考図書・辞書類のカタログ等から約56,000冊を選び、翌5年度に残りを選んだ。

児童資料は、新刊書を毎週30冊選定とし、そのまま現図書館用とした。新館用は打出リストを中心とし、平成4年度を中心に選定した。新館では子どもの本資料室を設置するので、そのための資料選定は、各種ブックリストや児童書・児童図書館専門誌の選定書を中心に、児童文学全集や復刻版等のコレクション資料を加えていった。

外国語資料やCD・LD、新聞・雑誌の選定は平成5年度を中心に選定した。

特に、新聞・雑誌は逐次刊行物として継続して購入することになるので、慎重に判断する必要がある、九州各県立図書館や全国同規模以上の県立図書館の購入リストを入手し、比較しながらの選定作業とした。

館外資料は現物選書等で新刊書を中心に選んだ。

郷土資料は豊後キリシタン資料をコレクション資料として収集し、新たにコーナーを設けることにした。

こうして、3ヵ年の資料購入は、コンピュータ化のための資料データ入力や図書ラベル貼付等の装備作業を経て、新館開館に向かって収束し、旧館時代の蔵書と共に、各コーナーに配架されるべく、次の資料移転計画へとつづいていった。



一般閲覧室



閉架書庫（固定式）



閉架書庫（電動式）

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1995年(平7)	1月12日	大分県公立図書館振興策検討委員会による「大分県公立図書館の振興策に関する報告書」を提言。	
	1月17日	第7回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	阪神・淡路大震災。
	2月 1日	大分県立大分図書館の設置及び管理に関する条例一部改正、大分県立大分図書館利用規則全部改正。	
	2月 5日	近隣住民・館外事業関係者見学会。	
	2月19日	「大分市布絵本の会」手作り布絵本寄贈。	
	2月28日	「豊の国情報ライブラリー」開館(大分県立図書館・先哲史料館・公文書館)。 開館記念式の後、午後2時から一般の利用がスタート、約2,100人が入館、2,500冊を貸出。	

「豊の国情報ライブラリー」3館複合文化施設の役割

大分県立図書館

県民の生涯にわたる多様な自発的、継続的な学習要求にこたえるキー・ステーションとして、だれでも、いつでも、どこからでも利用できる図書館をめざす。また県立図書館として、県内公共図書館等との緊密な連携のもとに相互協力による全県的な奉仕活動に務める。

先哲史料館

県内外にわたる郷土の先哲ほか、主として明治以前の歴史と文化に関する史料を収集・保管し、県民に提供する。さらに調査研究し、展示や、先哲叢書の刊行などを行う。

公文書館

主として明治以降の公文書その他の記録を収集、整理、保存し、県民に提供する。公文書について、調査研究を行う。

磯崎芸術いまここ



ゆったり快適空間

▼「百柱の間」 磯崎氏が設計をする上で最も気を使ったという閲覧室は、古代ローマやバビロンにあつたといわれる「百柱の間」を再現したユニークな設計が話題を呼んでいる。30万冊の蔵書能力を持つ一般用

の開放閲覧室のこの部屋は、一辺68mの正方形の空間は、4本の空調用の円筒が、トランスホールの天井高間に7・5m間隔で、百本芸術感覚で立てられ、この円筒の柱が立ち並んでいる。その4本の円筒に付いている吹気が取り付けられている。15

古代ローマ再現

百柱の間 自然光もふんだんに

▼「エントランスホール」

二階まで吹き抜けのエンは、一辺68mの正方形の空間は、4本の空調用の円筒が、トランスホールの天井高間に7・5m間隔で、百本芸術感覚で立てられ、この円筒の柱が立ち並んでいる。その4本の円筒に付いている吹気が取り付けられている。15



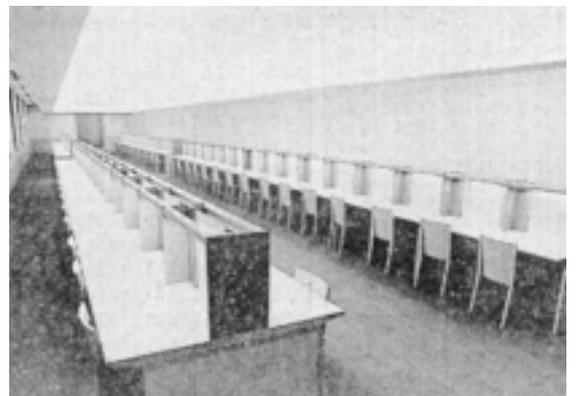
「エントランスホール」二階まで吹き抜けのエンは、一辺68mの正方形の空間は、4本の空調用の円筒が、トランスホールの天井高間に7・5m間隔で、百本芸術感覚で立てられ、この円筒の柱が立ち並んでいる。その4本の円筒に付いている吹気が取り付けられている。15

現代建築の粋を

れ、やわらかな色彩が一つのおしゃれな空間を作り出している。「視覚ホール」には、3ミリの16ミリの映写機をほはじめ、ビデオプロジェクト、遠隔操作が可能なCD、LD装置、最新のオーバーヘッド設備、照明装置など視覚教育に欠かせない設備を整えている。226席の階段式のイスには、クッションが敷かれ、快適な掛け心地。図書館としては、講演会場としても最適のこのホールを、県立図書館関連の生涯学習活動などに利用してもらう予定にしているという。

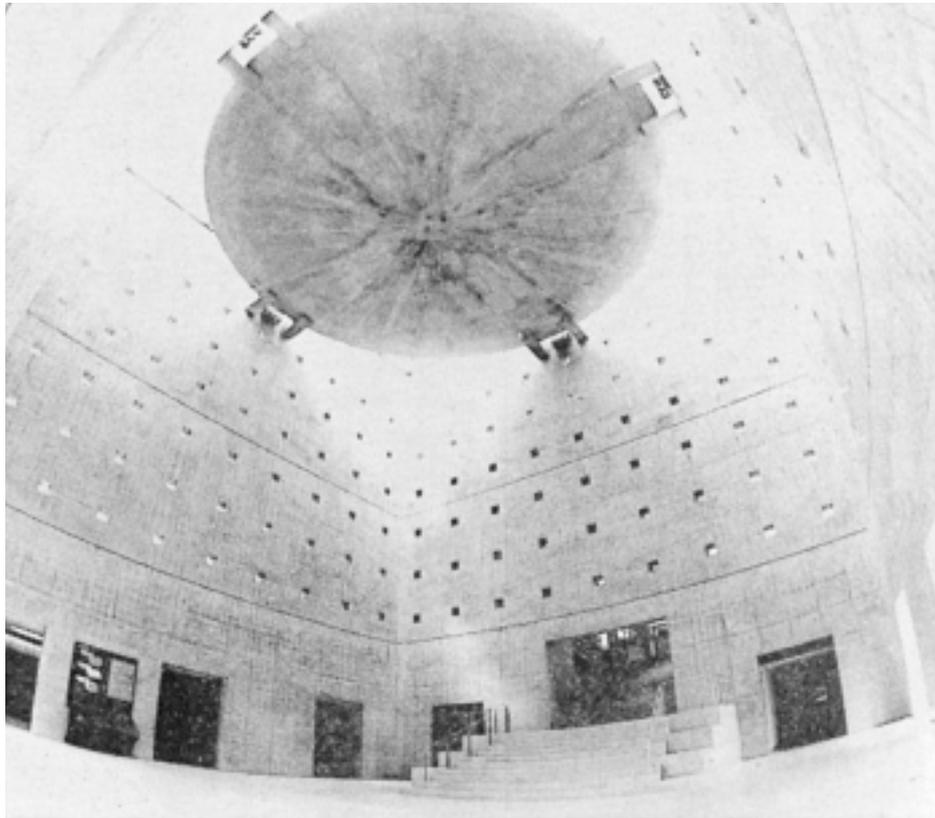


貸し出し、返却もコンピューターで



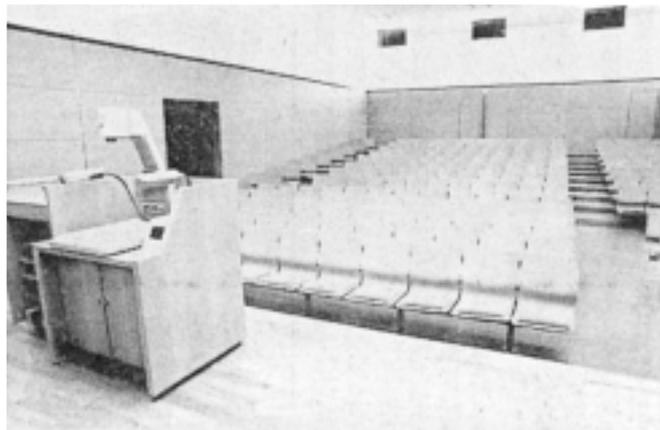
学習室もゆったり、快適に

に



吹き抜けのエントランスホール。天井に、コンクリート製の円盤が取り付けられ、まるで宇宙にいるような錯覚を覚える

大分市の西部・静かな文教住宅街の一角に、オフホワイトのしっとりとした建物がある。辺りの雰囲気と溶け込むように建っている。前庭と周囲には数十本の桜の植栽。花の季節の見事さがしのばれる。大分県が生んだ世界的な建築家・磯崎新氏の設計による新大分県立図書館は、その外観・内部ともに、氏の豊かな感性が随所に生かされ、現代建築の粋を結集した見応えある建造物としても注目を浴びている。1万5千410・15平方メートルの敷地に建てられた建物は、県立図書館、公文書館、先哲史料館の3館の複合施設で、建築面積6千642・32平方メートル、鉄骨鉄筋コンクリート造り、地上6階地下1階建てで、延床面積は2万3千002・22平方メートル。各所に斬新でユニークな工夫・配慮が施された館内を案内しよう。



室内はすべてベージュに統一され、やわらかな色彩がおしゃれ空間を作り出している視聴覚ホール

き出し口で、室内の空気が循環される仕組みになっている。このホールに佇んで、天井を見上げると、

連続した波を思わせる高い天井からは、適度に制御された和らかな自然光が射し込み、周囲のガラス窓からは、辺りの豊かな緑あふれる景観や青空も見通せる。閲覧席は250席。ゆったりと快適な読書タイムを過ごせる、アメニティ空間と言えよう。

地球の向こうから

集めて

▼「視聴覚ホール」床も壁もイスもすべてベージュで統一さ

な。

い太陽の光であるかのよう

然光が、あたかも地球の向

こうからこぼれくる、明る

うな錯覚を覚える。そして

地球を見上げているかのよ

うな錯覚を覚える。そして

屋根を通して取り入れた自

然光が、あたかも地球の向

こうからこぼれくる、明る

い太陽の光であるかのよう

な。

が、不思議に心を落ち着か

せるという。このホールに

佇んで、天井を見上げると、

円盤が地球のように見え、

自分が宇宙の一角にいて、

地球を見上げているかのよ

うな錯覚を覚える。そして

屋根を通して取り入れた自

然光が、あたかも地球の向

こうからこぼれくる、明る

い太陽の光であるかのよう

な。

が、不思議に心を落ち着か

せるという。このホールに

佇んで、天井を見上げると、

円盤が地球のように見え、

自分が宇宙の一角にいて、

地球を見上げているかのよ

うな錯覚を覚える。そして

屋根を通して取り入れた自

然光が、あたかも地球の向

こうからこぼれくる、明る

い太陽の光であるかのよう

な。

が、不思議に心を落ち着か

せるという。このホールに

佇んで、天井を見上げると、

円盤が地球のように見え、

自分が宇宙の一角にいて、

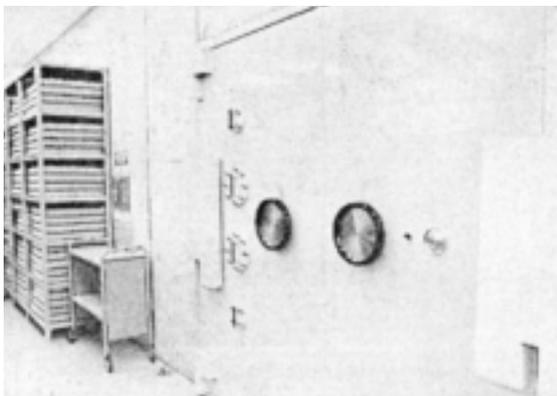
地球を見上げているかのよ

うな錯覚を覚える。そして

屋根を通して取り入れた自

然光が、あたかも地球の向

(大分合同新聞：1995年2月27日)



貴重な資料は耐火書庫へ



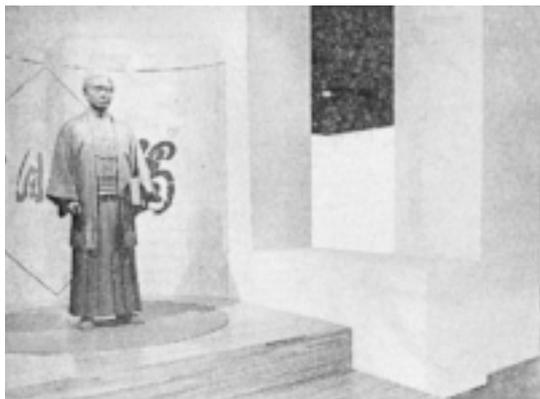
駐輪場の屋根もユニーク。向こうが駐車場

家庭からの検

資料も50万冊そろそろ



公文書閲覧室



先哲史料館の展示室

「ワンフロア4千5百平方分の広々とした百柱の間で30万冊の本を自由に読むことができる。子供室も同じフロアにある。本の数はもとより、近代的な施設と設備、利用のしやすさなど、利用者の皆さんに満足していただけると思う」と、宮本高志館長。

万冊、蔵書160万冊の能力は九州ではトップ、全国でも屈指の規模という。県教委では、資料費としてこの3年間に約7億円分カードからコンピューターに転写する予算を組み、18万冊の本を購入した。

歴史や偉人伝もバッチリ

併設の公文書館は、数の行政記録文書が閲覧でき、多く集められた明治以降の、先哲史料館は、郷土の歴史や古文書

新図書館の特徴は、なんでも簡単に探せること。システムを導入し、利用者サービスも充実している。また、図書の検索方法がこれまでの図書カードからコンピューターによる新方式に変わった。タッチパネル式の端末も導入した。

主要ローカル紙コーナーも

とも結び、大分にはない最新の情報を得ることも可能になった。一方、「だれでも、いつでもどこからでも利用できる機能づくり」を一大スローガンとしている県立図書館のもう一つの目玉は、「図書館情報提供ネットワーク」だ。

公文書館／先哲史料館

かなり広いスペース。1階は、県民の生涯学習のキーステーションとして、県内一円のネットワーク構築が進め、二階に直接来館者用のコンピューターシステムも取り入れ

コーナーも。サークル、グループなど活動など上の利用者が訪れる」と利用されているが、さて。宮本館長は「だれもが気軽に利用できる親しみのある図書館を心がけている。学習室、子供からお年寄りまで多くの方の利用を期待している。また、県民の生涯学習のキーステーションとして、県内一円のネットワーク構築を進め、二階に直接来館者用のコンピューターシステムも取り入れ

は先哲史料の展示室がある。大友宗麟、三浦梅園、福沢諭吉や、近世から近代にかけて郷土が生んだ先哲を紹介している。また、72台取付の駐車場と駐輪場ができたのもありがたい。利用者層はほとんど広がりそうだ。図書館側は、「少しづつでもこれまでの3倍以上の利用者が訪れる」と利用されているが、さて。宮本館長は「だれもが気軽に利用できる親しみのある図書館を心がけている。学習室、子供からお年寄りまで多くの方の利用を期待している。また、県民の生涯学習のキーステーションとして、県内一円のネットワーク構築を進め、二階に直接来館者用のコンピューターシステムも取り入れ

索もOK



マップ閲覧コーナー



サークル活動にどうぞノ研修室



遊びのスペースもあるこども室

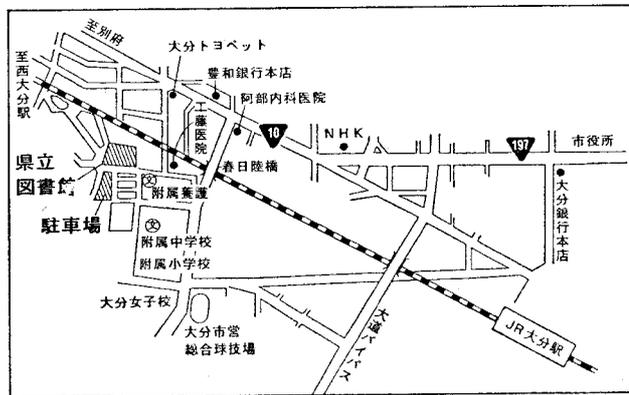
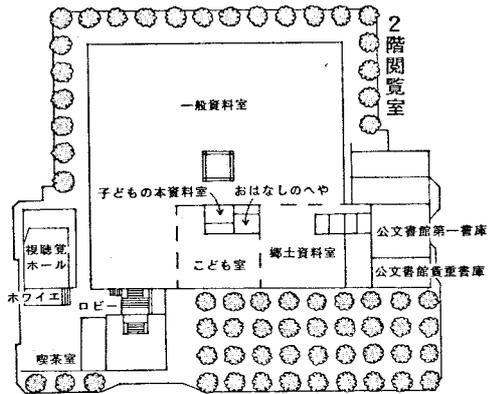
ゆったり250座席

子ども室も 郷土資料室を新設

オープン時の蔵書数はおよそ50万冊。うち約24万冊は利用者が自分で選べる開架式図書で、これだけでも全国10指に入る量である。ロア。中心となる一般資料室のほか子ども室、郷土資料室が独立して設けられており、座席の数は全部で250席。「スペースはたっぷり、ゆったりくつろいで本を読むことができる。子ども室も同じフロアにあるので親子ともども安心して利用できます」という。子ども室に隣接した郷土資料室はこれまでなかった施設。規模が大きく、大分県の産業、文化、歴史をはじめ、各分野の多様な資料を揃えたコーナー。ゆったり資料を広げられる量の間に本を読むことができる。

使いよさ第一に

県下の市町村の図書館に端末機を置いてオンライン、市町村から県立図書館の蔵書を検索し、貸し出し予約ができるという図書館オンラインネットワーク。予約本は、車や郵送で市町村図書館に配本する仕組み。つまり、地方の人が、時間と交通費を費やして大分市まで足を運ばなくても県立図書館を利用できるというわけ。市町村図書館としては、値の張る本やあまり利用されない本は県



あし

▼バス JR大分駅前より
大分交通県立図書館行き
「図書館前」バス停下車

▼JR 大分駅から徒歩25分(約1・8km)、西大分駅から徒歩15分(約1km)

新県立図書館での新サービス

- ・貸出冊数 5冊→10冊へ
 - ・カバンの持ち込み自由
(ブックディテクションシステム採用のため)
 - ・電算化 (コンピュータによる本の検索・貸出・返却等)
 - ・新刊1ヶ月単位→週ごとへ
 - ・郷土資料室の設置
 - ・パソコン通信により家庭からも蔵書が検索可能に
-
- ・駐車場の設置 3台→172台へ
 - ・学習室の設置 120席
 - ・開架閲覧室の冊数 10万冊→30万冊へ
 - ・雑誌のタイトル数の増加
-
- ・協力車の運行開始
 - ・専用回線による県内図書館のネットワーク構築 (OLIB)
 - ・協力貸出の開始
 - ・団体貸出、図書館振興文庫による貸出



ブックディテクションシステム(図書館入口)
貸出手続きの済んでいない図書の入
出しをチェックするシステムです。



検索が簡単なタッチパネル式端末機



中央カウンター
(リクエスト・返却・書庫資料)



案内・貸出カウンター



広い一般資料室(館内係)

旧図書館に比べ、5倍の広さになった一般資料室(開架)には新コーナーを多数設け、専門書から軽読物まで資料の幅も広がりました。利用者端末や冊子目録から検索できます。

●一般資料

あらゆるジャンルの約135,000冊の資料が、分野ごとにカラフルな色ラベル(全10色)でわかりやすく並んでいます。

●新着コーナー

1週間ごとに新刊が並びます。

●YA(ヤングアダルト)コーナー

10代の若者向けのコーナーです。古典からポピュラーまで新刊を中心に約1,200冊をそろえています。

●外国語資料コーナー

国際化時代に対応して、英米の出版物を中心に約6,500冊をそろえています。

●文庫本コーナー

学術文庫からポピュラーなものまで36文庫、約20,000冊をそろえています。

●AV(オーディオビジュアル)コーナー

クラシック音楽、民族音楽、教養(美術館案内等)を中心にCD、LD約1,000点をそろえています。

●大型本・超大型本コーナー

美術書を中心に豪華でビジュアルな資料をそろえています。

●障害者コーナー

大活字本約700冊、カセットブック約200冊をそろえています。もちろん健常者の方も利用できます。

●対面朗読室

視覚障害者の方及びその関係者の方が利用できます。自動朗読機を設置しています。

一般資料室(開架)のほかにも、約18万冊の資料があります。所蔵していない本のリクエストにも応じます。



障害者コーナー(大活字体)



文庫本コーナー

図書館の“最新情報”の窓(逐次刊行物係)

情報化時代、国際化時代に対応し、総合誌、週刊誌をはじめ、外国誌から児童誌までタイトル数が大幅に増えています。

●購入雑誌、寄贈雑誌合わせて1,130タイトル(パンフレット類61タイトル)開架閲覧できます。

●雑誌は当月分を排架し、当年分を最下段に収納するので容易にバックナンバーが閲覧できます。

●新聞架には外国4大紙を含む60紙を、見開き台には全国紙9紙を含む16紙を排架し、1ヶ月単位の製本版を引き出し式の新開架に当年分(1月~12月)を排架しています。内外合わせて70紙の閲覧ができます。

●「大分合同新聞」は過去10年間分を製本し、排架しています。

●新聞縮刷版は、利用がしやすいように1年分の国内紙縮刷版12紙を排架、朝日、読売は過去8年分が閲覧できます。

●研究誌、紀要も紀要架として独立して設けています。(約200冊収納)



新聞縮刷版

(『図書館おおいた』第178号より)

平成7年2月28日 開館初日のにぎわい



(『教育おおい』第251号)

夢がふくらむ(児童係)

児童係は子ども室の運営及び児童書の収集・整理を主に行っています。子ども室には次のような資料や設備があります。

●児童図書

絵本・紙芝居をはじめ中学生までを対象とした、あらゆるジャンルの本を約25,000冊そろえています。

●子どもの本資料室

子どもの本や読書に関する資料(児童文学研究書など)を、約5,000冊そろえています。

●おはなしのへや

おはなしや紙芝居、スライド上映、読みきかせなどを行う部屋です。

そのほか書庫にも約25,000冊の児童書があり、職員に申し込んでいただければ閲覧・貸出ができます。また、児童書に関する調査相談にも応じます。大人でも十分楽しめる資料が多数あります。ぜひ、ご利用ください。



子ども室
子どもの本と紙芝居が利用できます。また、調査相談にも応じます。



子どもの本資料室
子どもの本と読書に関する資料が利用できます。



おはなしのへや
おはなし会が開かれます。



調査相談コーナー



利用者用端末・CD-ROM
タッチパネル式やキーボード式2方式の端末機による検索やCD-ROMの検索ができます。

調べもののお手伝い(調査相談係)

* イベントの持ち方の本はないか

* 三十三化身とは何だろう

* “血引”という魚の図を見たい

このような疑問や問題をお持ちになったことはありませんか。

調査相談(レファレンス)係では、たくさんの参考資料、事典・辞典・年鑑・統計書・法令・国の刊行物など豊富な資料に基づいて、調べもののお手伝いをいたします。

● 電子日本総合年表や12ヶ国語電子辞書、学術雑誌総合目録、朝日新聞記事索引外13タイトルのCD-ROMもそろえました。探したいことばで検索することができます。

● 当館の資料で解決できない場合は、国立国会図書館や他の図書館から資料を取り寄せたり、専門機関などへも紹介をいたします。電話やFAX、お手紙などでもお気軽にお問い合わせください。



調査相談カウンター
(『図書館おおいた』第178号より)

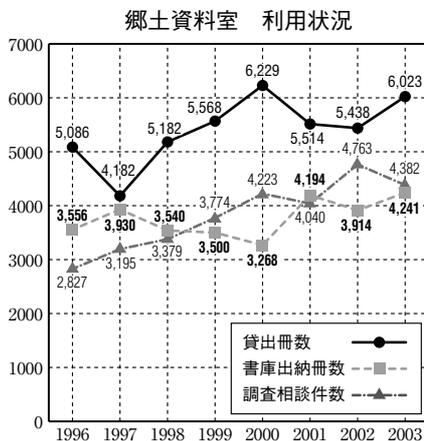
独立の部屋ができました(郷土資料係)

郷土資料室は約20,000冊の資料を開架しています。開架資料を含めて約50,000冊の資料はすべて電算に入力されていて端末検索ですぐに出納できます。



キリシタン関係資料のある郷土資料室

- 第一の特色は今回初めて「郷土資料室」として独立の部屋が設けられたことです。これまで大分県コーナーはありましたが、とても小規模でした。
- 開架資料で特色あるものとしては
 - ① 豊後キリシタン関係資料コーナー
 - ② 古文書・古記録類のマイクロフィルムからの複製本のコーナー
 - ③ 県下の市町村広報紙をそろえた逐次刊行物コーナー
 などです。
- ・ 豊後キリシタン関係資料のコーナーは、その道の研究者に必要な資料がかなりそろっていると自負しています。
- ・ 複製本コーナーは碩田叢史、府内藩記録、寺院明細帳、神社明細帳などがあります。
- ・ その他、各市町村史誌、文化財調査報告、各種行政刊行物等も排架しています。



市町村広報紙

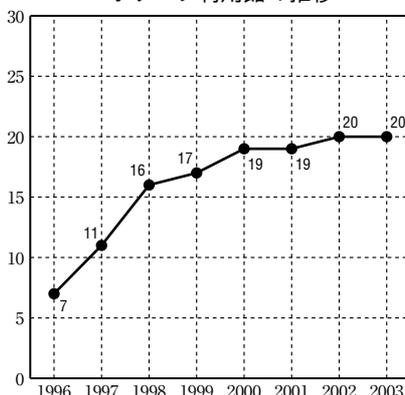
郷土資料室

オンラインネットワークの構築

県立図書館の資料の情報を利用者へ提供するためOLIB：オーリーブ (OITA LIBRARY INFORMATION NETWORK) というネットワークを構築しました。これにより図書館の外からでも図書館の資料が検索できます。

- 市町村立図書館とのネットワークでは、探している本が見当たらない時でも、オンラインネットワークで県立図書館の資料を検索し、利用申込みにより各図書館まで本が届けられます。
- 豊の国情報ネットワークと接続したことにより、公民館に設置してある生涯学習情報提供システムの端末や各家庭からでもパソコン通信で検索できます。
- 図書館内では図書館システムを導入したことにより、貸出・返却等が容易にでき、また、利用者向けにタッチパネル式の端末を設置したので、画面に触るだけで目的の本にたどりつけます。

オーリーブ利用館の推移



全域サービスの窓口(市町村協力係)

県内全域サービスの窓口として、市町村立図書館、市町村公民館、学校、読書団体等の団体に図書の出納など市町村の読書活動を支援する事業を担当し、約70,000冊をそろえています。

● 団体貸出文庫

市町村・学校・読書グループ等の団体を対象に最大1,000冊を、貸出期間3ヶ月以内で貸出します。(4月から実施)

● 図書館振興文庫

図書館のない市町村を対象に、常時1,000冊を3ヶ月ごとに半分を交換し、年間通算で2,500冊を貸出します。(4月から実施)

● 協力貸出

市町村立図書館及び市町村公民館からリクエストのあった図書を郵送等により貸出します。(新館開館時から行っています)



市町村協力用書庫

(「図書館おおいた」第178号より)

第 1 章

第 7 節

新県立図書館誕生から現在まで

平成 7 年～平成 17 年 (1995～2005)



閲覧室(百柱の間)

平成 6 年度末に順調なスタートを切った新県立図書館は、旧館時代の平成 5 年度は、年間入館者数 24 万人・個人貸出冊数 7 万冊だったが、新館直後の平成 7 年度には、年間入館者数 60 万人・個人貸出冊数 83 万冊となった。貸出はその後も増加し、平成 15 年度には 91 万冊を超えた。

新県立図書館は、生涯学習のキーステーションとして、また県内市町村立図書館等の支援図書館として、さまざまな活動に取り組むことになった。

郷土資料室・外国語資料コーナー・AV コーナー等の新設による新しいサービスと共に、公開講座や野外学習講座、文化講演会等を開催し、読書週間行事にも力を入れた。

県内市町村立図書館等への支援としては、オンライン接続で所蔵資料の検索ができ、協力車を運行して、リクエスト資料を届け、情報交換等を行うサービスを始めた。また「一村一館」体制への支援として、平成 8 年に『豊の国・図書館づくりマニュアル』を作成し、県の新設図書館図書購入費補助等の支援事業とタイアップした。

平成 8 年 10 月には全国図書館大会を、平成 10 年 9 月には全国公共図書館整理部門研究集会を開催して盛況に終わった。また、平成 11 年 10 月には日本図書館協会建築賞を受賞した。

平成 14 年 11 月には創立 100 周年記念式典・行事等が実施された。

その後は、ホームページの充実や大分大学附属図書館との相互協力も加わり、県内外図書館とのネットワークを強化し、平成 16 年度末の電算システム更新を機に、県内総合目録の構築を開始し、同時に収蔵能力 30 万冊の公開書庫もオープンして、県立図書館としてのさらなる飛躍を目指している。

新県立図書館誕生から現在まで

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1995年(平7)	4月 3日	「図書館振興文庫」「団体貸出文庫」開設。	
	5月13日	学校週5日制対応事業、「アニメ上映会」(第2土曜日)「プーさんのおはなし会」(第4土曜日)開始。	
	5月19日		佐伯市立佐伯図書館増築、視聴覚センター併設。
	7月 1日		国見町立図書館開館。
	7月	香港理工大学から企業研修で劉潔心(モリーン)さん来館(2ヶ月)。	
	8月 1日	図書館協力車運行開始。	
	9月 1日	パイロット電子図書館総合目録ネットワークプロジェクトに参加。	
	9月 3日	「野外学習講座」開講(生活の原点探求講座、テーマ「大野川!!母なる川をたずねて」)。	
	9月21日	公開講座開始。以後毎年4～5講座開催。	
	10月11日	外務省長期青年招聘事業でミャンマーからケイ・ティ・トウエさんを受入(3月15日まで)。	
	10月22日	読書週間行事。文化講演会 林望「私のイギリス観察」。	
	10月	県立図書館案内ビデオ『豊の国情報ライブラリー／大分県立図書館のすべて』作成。	
	11月20日	大分県公立図書館整備費補助金交付要綱改正施行。	
	12月16日	大分県立図書館利用者等懇話会開始(年2回開催、平成9年度まで)。	4日 大分県行政改革大綱策定。
12月20日	「クリスマスおはなし会」開催。以後毎年、たなばた、クリスマス、ひなまつりの季節のおはなし会実施。		

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1996年(平8)	1月19日	第8回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	
	3月15日	『レファレンス事例集—図書館を身近に—』刊行。	
	3月29日	『豊の国・図書館づくりマニュアル あなたのまちに“あなたの図書館”を』刊行。	
	4月 1日	大分県立図書館資料収集方針改訂、大分県立図書館資料除籍要綱作成。	
	5月 1日		山国町立図書館開館。
	7月 1日		コンバルホール市民図書館が大分市民図書館と改称。
	7月30日		津久見市民図書館開館。
	8月13日	「野外学習講座」開講(温泉学探求講座「湯けむりの向こう側に」)。	
	8月25日	個人貸出が1,231,297冊となり平成7年の県人口と並ぶ。	
	10月23～25日	第82回全国図書館大会大分大会開催。	
	10月		『図書館評価のためのチェックリスト』刊行。
11月 3日	読書週間行事。文化講演会 阿刀田高「アイデアを捜せ」。		
1997年(平9)	1月22日	第9回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	

全国図書館大会開催

第82回全国図書館大会が、平成8年10月23日(水)～25日(金)の3日間、別府・大分両市を会場に開催された。大分での開催は初めて。大会テーマ「大分の風 おもいをのせて全国へ—特色ある図書館づくりとネットワークの広がりをめざして—」。参加者2,100人。

第1分科会	公共図書館	生涯学習時代における図書館活動のステップアップ
第2分科会	町村図書館	21世紀に向けて、町村の図書館づくりを考える
第3分科会	大学図書館	ドキュメント デリバリー —ドキュメントサプライヤーの今後の動向—
第4分科会	短大・高専図書館	21世紀にむけて、短大・高専図書館のあり方を考える
第5分科会	学校図書館	豊かな心と自ら学ぶ意欲を育てる学校図書館教育
第6分科会	専門図書館	CD-ROM新時代 —豊かな情報源とするために—
第7分科会	児童・青少年サービス	子どもと本をつなぐ —児童サービスの原点に戻って—
第8分科会	障害者サービス	障害者サービスのより広い普及のために
第9分科会	図書館の自由	「宣言」を守り、広めていくために
第10分科会	職員問題	図書館振興策と職員問題
第11分科会	資料保存	紙以外の資料(メディア)保存のための課題
第12分科会	図書館員養成	図書館学の展開と再構築(V)
第13分科会	図書館と出版流通	出版物再販制と図書館
第14分科会	図書館利用教育	図書館をいかに“売る”か —利用者の認知・満足度向上のためのマーケティング戦略—



開会式



授賞式
優秀図書館賞に
三重町立図書館

図書館功労者表彰に
大分県から瀬尾信子氏



平松知事 記念講演
「地域づくりは、人づくり
—ローカルこそグローバル—」



勇壮な豊後くれない太鼓



分科会発表(第6分科会)



手話通訳・要約筆記

(『全国図書館大会記録平成8年度』より)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1997年(平9)	4月 1日	上村作郎館長就任。	消費税3%から5%にアップ。
	5月 4日	こどもの読書週間行事「はるかぜげんき広場」開催。	
	6月 5～ 6日	九州各県立及び政令指定都市立図書館長会議開催(別府市)。	
	7月 2～ 3日	第8回瀬戸内海関係資料連絡会議開催(別府市、大分市)。	
	7月 8日	個人貸出200万冊突破。	
	9月 7日	「野外学習講座」開講(「山びこを聞きながら～人と自然の調和を求めて～」)。	
	10月20日	外務省長期青年招聘事業でベトナムからハー・ラン・フィーさんを受入(3月13日まで)。	
	11月 2～ 7日	読書週間行事。除籍資料の県民への無償譲渡(11/2)、本の案内コーナーを設置(11/3～7)。	
1998年(平10)	1月26日	第10回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	
	2月 1日		アートプラザ(旧県立図書館)開館。
	2月 8日	文化講演会 那須正幹「子どもの好きな本」。	
	4月 1日		大分県立看護科学大学附属図書館開館。
	5月 3日	こどもの読書週間行事「そよかぜげんき広場」開催。	
	6月	『野上彌生子ふるさと作品集』刊行。	
	7月29日	個人貸出300万冊突破。	

利用の伸び

蔵書34万冊、開架10万冊、最も多かった年の個人貸出冊数が16万9千冊（1982年）だった旧図書館に比べ、蔵書58万冊、開架27万冊でオープンした新館の利用は飛躍的に伸び、全国でもトップクラスとなった。

大分県立図書館 3 S サービス

- ★ Smile（ほほえみのある対応）
- ★ Speed（迅速な対応）
- ★ Sincerity（誠実な対応）

1996.4からの職員基本姿勢

年度	蔵書数	開館日数	利用者数 (一日平均)	個人貸出冊数	調査相談件数
7	579,587	286	2,077	833,122	14,083
8	631,013	282	1,986	849,434	12,862
9	679,316	284	1,999	921,499	14,301
10	719,892	283	2,014	957,789	14,839
11	758,638	284	2,049	986,152	16,825
12	800,535	281	2,042	957,277	17,828
13	832,761	276	1,936	895,893	17,635
14	861,971	281	1,959	921,195	17,561
15	910,150	285	1,834	915,210	19,357

※利用者数は、一般資料室・学習室・研修室・視聴覚ホール・社会見学者の合計
（『大分県立図書館要覧』より）



県立図書館

県立図書館は、平成9年4月25日、大分県立図書館としてオープンしました。旧大分県立図書館（旧大分市立図書館）の蔵書34万冊、開架10万冊を継承し、新館では蔵書58万冊、開架27万冊を収容しています。また、新館では、旧館に比べて、蔵書34万冊、開架10万冊、最も多かった年の個人貸出冊数が16万9千冊（1982年）だった旧図書館に比べ、蔵書58万冊、開架27万冊でオープンした新館の利用は飛躍的に伸び、全国でもトップクラスとなった。

貸し出し85万冊 登録者も増加

全国トップ 射程圏内

2年目のジメクス克服

（大分合同新聞：平成9年4月25日夕刊）

移転から5年

成長続ける県立図書館

県立図書館は、平成9年4月25日、大分県立図書館としてオープンしました。旧大分県立図書館（旧大分市立図書館）の蔵書34万冊、開架10万冊を継承し、新館では蔵書58万冊、開架27万冊を収容しています。また、新館では、旧館に比べて、蔵書34万冊、開架10万冊、最も多かった年の個人貸出冊数が16万9千冊（1982年）だった旧図書館に比べ、蔵書58万冊、開架27万冊でオープンした新館の利用は飛躍的に伸び、全国でもトップクラスとなった。

貸出数 一日平均3400冊

旧館時代の10倍以上に

（大分合同新聞：平成12年2月29日）

野外学習講座

文部省の「博物館、少年自然の家等における科学教室等特別事業の研究開発事業」の委嘱を受け平成7～9年度の3年間実施した。「図書館の書籍で学び」、「現地で体験学習」し、「専門家の講演で学ぶ」という全国でもユニークな事業である。

平成7年度は、川をテーマとして取り上げ、大野川の各流域を訪れ、流域の生物・災害・歴史・文化・産業を探求した。平成8年度は、温泉をテーマとし、別府市・湯布院町・直入町を訪れ、泉源でのpH測定・電気伝導度測定等の実験や、温泉リハビリテーション施設見学や車中及び現地での講師による解説、受講生からの記事投稿による温泉情報かわら版の発行、また地域振興実践家を招いてのシンポジウム「温泉は地域を変えるか」の開催等多様な活動を展開した。平成9年度は山をテーマとして取り上げ、バス利用による3回の現地体験学習のうち1回を、新しく宿泊研修とした。この講座は好評で、終了後も学習を続ける自主サークルができた年もあった。



〔平成7年度〕荻町陽目溪谷で、水の透視度実験をしている風景



〔平成8年度〕亀川温泉の泉源で、泉質を確認している風景



〔平成9年度〕8班の小グループに分かれて、九重町長者原で自然観察をしている風景（地元自然観察指導員5名がボランティアで講師陣に加わる）

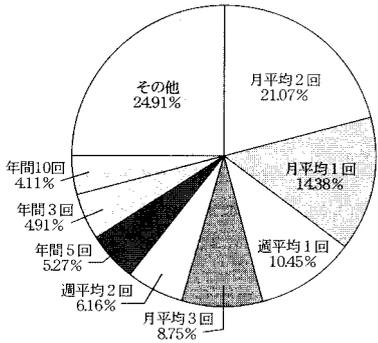
（『図書館おおいだ』第194号より）

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1998年(平10)	8月 5日	利用者アンケート実施。	
	9月17～ 18日	全国公共図書館整理部門研究集会開催(大分市)。	
	10月17～ 26日		第13回国民文化祭を県内32市町で開催。
	11月 1～ 8日	読書週間行事。文化講演会 赤瀬川原平「老人力のヒミツ」(11/1)、本のリサイクル、アニメ映画上映会(11/8)。	
	11月11日	NHKテレビ「ひるまエスタジオ」で本の紹介開始(月1回、1年間)。	
	11月19～ 20日	九州地区図書館総務情報部門担当者会議開催(大分市)。	
1999年(平11)	1月18日	第11回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	
	1月27日	九州地区公共図書館研究協議会開催(別府市)。	
	2月27日		宇佐市民図書館開館。
	3月21日	「ゆふいんどきどき広場」開催(共催湯布院町中央公民館)。	
	3月22～ 25日	ホストコンピュータ更新のため臨時休館。	
	3月31日	『瀬戸内海に関する図書総合目録 キリシタン関係資料の部』刊行。	
	4月 1日	西来路秀彦館長就任。	
	4月 1日	大分県公立図書館図書整備費補助金交付要綱一部改正。	

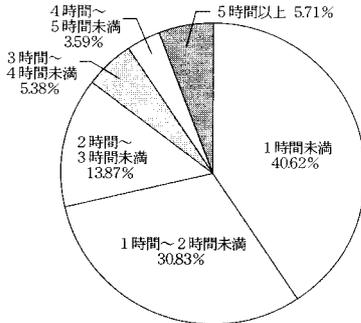
利用者アンケートを実施

利用者の意見を広く聞き、より良いサービスの向上を図るために、夏休み期間中の平成10年8月5日(水)に、新館開館後初めて実施した。この日の利用者2,643人中1,283名が回答(回答率48.5%)。広々とした閲覧室、開架資料の多さ、土日の開館等が支持されていることがわかった。また、駐車場の拡張、蔵書内容の改善等の希望が寄せられた。

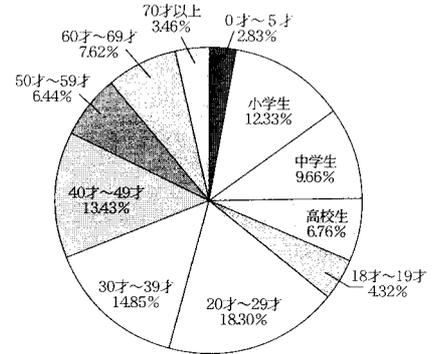
県立図書館利用回数別利用者数(図2)



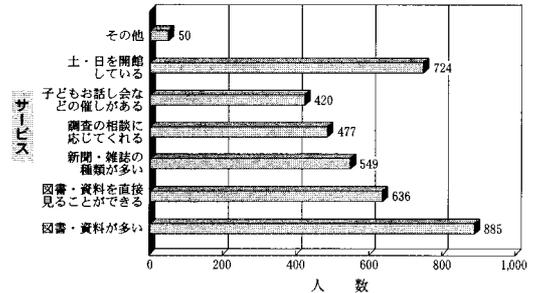
利用時間別利用者数(図3)



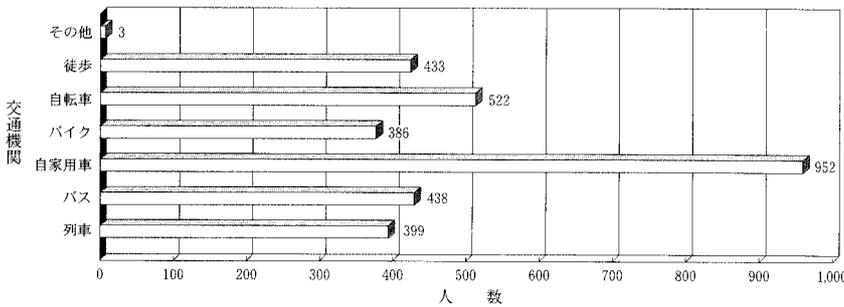
年齢別利用者数(図1)



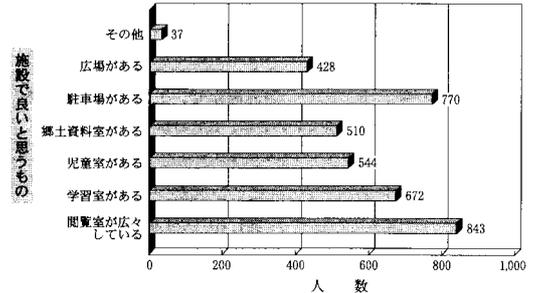
サービス別良とする利用者数(複数回答)



交通機関別利用者数(複数回答)(図4)



施設別良とする利用者数(複数回答)



(『図書館おおい』第197・198号)

『瀬戸内海に関する図書総合目録』の刊行

瀬戸内海に面する、大分、広島、山口、岡山、愛媛、香川、福岡県の7県立図書館が1990(平成2)年から共同で編集作業を始めた。各図書館が持ち回りで独自にテーマを設定し、それぞれの図書館が所蔵する関係資料を目録として提供する方式で作成した。当館は「キリシタン」をテーマとした。全8巻。

瀬戸内研究の助っ人

大分県図書館は、瀬戸内海をテーマとした「瀬戸内研究の助っ人」を刊行している。これは、瀬戸内海に面する7県立図書館が共同で編集作業を進めてきた。本館は「キリシタン」をテーマとした。全8巻。

「総合目録」を刊行
所蔵場所が一目で

瀬戸内研究の助っ人

本館は「キリシタン」をテーマとした。全8巻。

瀬戸内研究の助っ人

瀬戸内研究の助っ人

万葉、キリシタンなどテーマ別全8巻。掲載資料数は1万点を超える(大分合同新聞：平成11年5月7日)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
1999年(平11)	5月 2日	こどもの読書週間行事「そよかぜげんき広場」開催。	
	7月 1日	コロンブス(大分県中小企業地域情報ネットワーク)上で、インターネットによる所蔵情報の一般公開開始。	
	7月 8日	子ども放送局放送受信開始。	10日 九重町・図書館開館。
	7月	『介護保険関係資料目録』を県内21市町立図書館と協力して刊行。	
	8月10日	個人貸出400万冊突破。	
	10月24日	読書週間行事。文化講演会 荒川洋治「言葉と世界」。	
	10月27日	第15回日本図書館協会建築賞受賞。	
	12月 4日	視覚障害者へのカセットブック郵送貸出開始。	
	12月31日		コンピュータの2000年誤作動問題で全国的に厳戒体制。
2000年(平12)	1月10～11日	利用者及び業務用コンピュータ端末更新。	
	1月25日	第12回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	
	3月10日		日出町立萬里図書館増築。
	4月 1日		介護保険法施行。
	4月 1日		立命館アジア太平洋大学総合情報センター開館。
	4月24日	天皇皇后両陛下全国植樹祭ご出席の折り、豊の国情報ライブラリーご視察。	
	4月	『地方自治資料BOOKSガイド』刊行開始。	
	4月	「ご意見箱」カウンターに設置。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
2000年(平12)	4月28日		挾間町立図書館開館。
	4月30日	こどもの読書週間行事「そよかぜげんき広場」開催。	
	6月 1日	緊急地域雇用創出事業により寄贈本整理。	
	7月	『たのしい子育てBOOKSガイド』刊行。	
	8月11日	個人貸出500万冊突破。	
	10月22日	「2000年図書館フェスタ」開催(11月24日まで)。	
	12月		文部省『2005年の図書館像』刊行。
2001年(平13)	1月 6日		中央省庁改革(1府12省庁へ)。
	2月 6日	第13回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	
	2月	『サッカーがおもしろくなるBOOKSガイド』刊行。	
	3月	寄稿集『2000年子ども読書年 図書館法制定50周年に寄せて』刊行。	
	4月 1日	高山直也館長就任。	
	4月 1日	個人貸出資料の市町立図書館経由返却試行(10月から本格実施)。	
	4月29日	こどもの読書週間行事「そよかぜげんき広場」開催。	
	5月 2日	市町立図書館広報誌の相互配布開始。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
2001年(平13)	5月10日	豊の国IT塾「パソコンはじめて物語」開講。	
	7月 1日		くにさき図書館(東国東広域図書館)開館。
	7月18日		文部科学省公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準施行。
	8月 8日	豊の国ハイパーネットワーク接続、運用開始。ホームページ発信開始。	
	9月 6日	「パソコンステップアップ講座」開講。	
	9月 7日	個人貸出600万冊突破。	
	9月	『ボランティアBOOKSガイド』刊行。	
	10月 9日	読書週間行事(11月9日まで)。NHKテレビ「ゆうどき5おおいた」にて本の紹介(10/9~11/9)、文化講演会 鈴木ひとみ「車椅子からの出発」(11/4)。	
	12月12日		子どもの読書活動の推進に関する法律施行。
2002年(平14)	2月上旬	特別展示「地方紙にみる日本各地の正月2002」(6月末まで)。	
	2月 6日	第14回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰式、記念講演。	
	3月 2~3日	除籍資料の県民への無償譲渡実施。	
	3月	『大分県内専門機関案内』刊行。	
	4月 2日	コイン式コピー機導入。	

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
2002年(平14)	4月28日	こどもの読書週間行事「そよかぜげんき広場」開催。	
	5月18日	学校週5日制対応事業、第1、3、5土曜日におはなし会「ペンちゃんタイム」開始。	5日 国際子ども図書館全面開館。 (国立国会図書館支部図書館)
	5月31～ 6月30日		「2002FIFA WORLD CUP KOREA JAPAN」開催。
	6月 1日		大分県個人情報保護条例施行。
	9月 5日	司書による門別選書開始。	
	10月 7日	個人貸出700万冊突破。	国立国会図書館関西館開館。
	11月 5日	創立100周年記念式典・記念講演会。	
	12月10日	メールレファレンス開始。	
2003年(平15)	2月 6日	第15回野上彌生子賞読書感想文全国コンクール表彰。記念座談会「野上彌生子文学をめぐって」。(この回をもって終了)	20日 イラク戦争始まる。
	3月	『調べものBOOKSガイド』刊行。	
	4月 1日	神繁司館長就任。	臼杵市立臼杵図書館分館「莊田平五郎記念臼杵こども図書館」開館。
	4月 1日	ホームページに「情報探索のためのリンク集」掲載。	
	4月 1日	大分大学附属図書館との相互協力開始。	
	4月 1日	緊急地域雇用創出事業により寄贈本整理。	
	4月27日	こどもの読書週間行事「そよかぜげんき広場」開催。	個人情報の保護に関する法律施行。
	5月30日		
	9月 5日	ホームページへのアクセス件数100万件突破。	
	11月 1～ 16日	読書週間行事。「子ども文庫・読み聞かせグループ交流会」(11/1)、図書館バックヤードツアー(計4回)、「子ども図書館司書体験」(11/15)、文化講演会 伊沢元彦「逆説の日本史」(11/16)。	

創立100周年記念式典・関連行事

創立100周年を記念して、記念式典・講演会及び、関連行事が行われた。



記念式典・記念講演会(11/5)

県立総合文化センター音の泉ホールで開催し、約700名が出席した。

平松知事らの挨拶の後、高山県立図書館長が「県立図書館100年の歩み」について説明した。また、明治大学齋藤孝助教授による記念講演会「声に出して読みたい日本語～読書力とは何か～」が行われた。



バックヤードツアー(11/7から計6回)

司書の案内で、通常入ることのできない閉架書庫や整理作業室、選書、受入業務などを見学するツアーを開催した。毎回20名程度の参加があり好評だった。



子ども図書館司書体験(11/9)

小学5、6年生5名が参加し、ブックポストの本の回収からカウンター業務、排架等を経験した。また、小さい子どもたちへ「読み聞かせ体験」も行った。



明日の県立図書館を語る集い(12/14)

創立100周年を節目に、今後の県立図書館のあり方を考える会を、県立図書館視聴覚ホールで開催した。利用者の代表、学識経験者ら6名のパネリストと、コメンテーターとして平松知事が特別参加し、会場の約200名の参加者とともに白熱した討論が行われた。

(『図書館おおいだ』第219・220合併号)

子ども文庫・読み聞かせグループ交流会(12/14)

県内にはおよそ100の子ども文庫や読み聞かせのグループがあるが、交流の機会があまりないことから、お互いの交流と、県内の読書活動の一層の活性化を目的に、県立図書館視聴覚ホールで開催した。46グループ約160名が集まり、代表の5グループが、活動状況の発表や読み聞かせ等の実演を行った。



大分大学附属図書館との相互協力



県立図書館

大分大学附属図書館

県立図書館(高山館長)と大分大学附属図書館(佐藤新治館長)は両館の窓口で互いの図書館を貸し出すサービスを四月二日始め、蔵書は県立図書館が八十三冊、大学附属図書館は門前中心六十冊、協力は利用者利用性が高まると話している。

明日から どちらでもOK

県立図書館は「現在、県内の二十二の市町立図書館とネットワークを構築し、資料面のバックアップをしているが、生涯学習振興として大分大の蔵で飛躍的にも役に立つ。将来的に行政や大学の蔵で相互協力関係を築き、相互協力を強めていきたい」と話している。

県立図書館は「現在、県内の二十二の市町立図書館とネットワークを構築し、資料面のバックアップをしているが、生涯学習振興として大分大の蔵で飛躍的にも役に立つ。将来的に行政や大学の蔵で相互協力関係を築き、相互協力を強めていきたい」と話している。

県立図書館は「現在、県内の二十二の市町立図書館とネットワークを構築し、資料面のバックアップをしているが、生涯学習振興として大分大の蔵で飛躍的にも役に立つ。将来的に行政や大学の蔵で相互協力関係を築き、相互協力を強めていきたい」と話している。

(大分合同新聞：平成15年3月31日夕刊)

		県立図書館のできごと	県内・日本・世界のできごと
2003年(平15)	11月12日	個人貸出800万冊突破。	
	11月22日	「読み聞かせ地域研修会」開催(佐伯市)。	
	12月18日	大分大学附属図書館との横断検索開始。	
2004年(平16)	1月	『ビジネス支援BOOKSガイド』刊行。	
	2月20日	第1回読書感想文コンクール「大分県先覚者に学ぶ」表彰式。記念講話 竹本弘文「大友宗麟について」。	県教育委員会「大分県子ども読書活動推進計画」(おおいた子ども夢ライブラリー計画)策定。
	2月28日	「読み聞かせ地域研修会」開催(竹田市)。	
	3月 1日	国立国会図書館レファレンス協同データベース実験事業参加。	
	3月29日		中教審生涯学習分科会『今後の生涯学習の振興方策について(審議経過の報告)』の刊行。
	4月6日～6月20日	村山富市元総理大臣在任中海外記念品展示。(以降、定期的に継続)	
	9月10日		『公立図書館の任務と目標 解説 改訂版』刊行。
	10月13日	子どもの本資料室に「子ども夢ライブラリー」設置。	
	10月23日		新潟県中越地震。
	10月25日	「ブラッシュアップ講座」開催(米水津村)。	
	11月 2～5日	読書週間行事。図書館バックヤードツアー(計3回)。	
	11月 7日	「子ども文庫・読み聞かせグループ交流会」開催。	
	11月30日	『ようこそ! 絵本の世界へ』刊行。	
	12月 4日	「読み聞かせ地域研修会」開催(日田市)。	
12月22日	個人貸出900万冊突破。	26日 スマトラ沖大地震及びインド洋大津波。	
2005年(平17)	1月 1日		大分市、佐賀関町、野津原町合併。 臼杵市、野津町合併。
	1月12～18日	大分県立図書館アンケート(県立図書館満足度調査)実施。	
	1月26日	第2回読書感想文コンクール「大分県先覚者に学ぶ」表彰式。	
	2月 1～21日	資料整備期間(電算システム更新等)。	
	2月22日	公開書庫オープン。 新館開館10周年記念行事開催。記念講演会 無着成恭「私が読んできた本のこと」、県立図書館貴重書展示、「大分県ニュース」映画上映。	

読書感想文コンクール「大分県先覚者に学ぶ」

大分県の代表的な先覚者を題材とした読書感想文コンクールが、野上彌生子賞読書感想文全国コンクールの終了した翌年の平成15年度に始まった。第1回の応募数は、小学生の部、中学生の部、高校生の部を合わせて638編で、福沢諭吉159点、滝廉太郎104点と全国的に著名な先覚者を選んだ児童・生徒が多かった。また、特に自分たちの地域出身の先覚者について取り組んだ学校も多くあった。

子ども夢ライブラリー事業

県教育委員会は平成16年2月に「大分県子ども読書活動推進計画」を策定した。この計画では特に「読書活動の形成」と「あらゆる機会・場所における読書機会の提供」を目的としている。これを受けて、県立図書館では平成16年度から「子ども夢ライブラリー事業」を始めた。

①新刊児童図書の整備

新刊児童図書の8割を購入し、一年間子どもの本資料室に展示することで、県内の図書館、図書室、読み聞かせグループ等の選書、読み聞かせ活動の参考にしてもらう。夢ライブラリーで閲覧するほか、選書、読み聞かせ活動のためには貸出もしている。県内各地の子どもの読書活動推進につなげることを目的としている。



②ブックリストの作成及び優良図書の整備・活用

本を選ぶ参考にしてもらうため、乳幼児に読んであげたい優良図書200タイトルを掲載したブックリストを作成した。

県内の図書館、図書室、読み聞かせグループなどに配布。また、ブックリスト掲載の図書は複数購入し、読み聞かせグループ及び公民館図書室へ貸し出す。



公開書庫の整備

新館開館10周年にあたり、1階部分に「公開書庫」を整備した。収蔵能力は30万冊で、おおむね発行後10年から20年以内の資料を中心に排架し、利用者の多様なニーズに応えるため、できるだけ多くの資料を自由に手にとって探せるようにした。オープン時の排架冊数は約17万冊で、2階閲覧室の開架30万冊と合わせて、約47万冊の資料を手にとれるようになった。

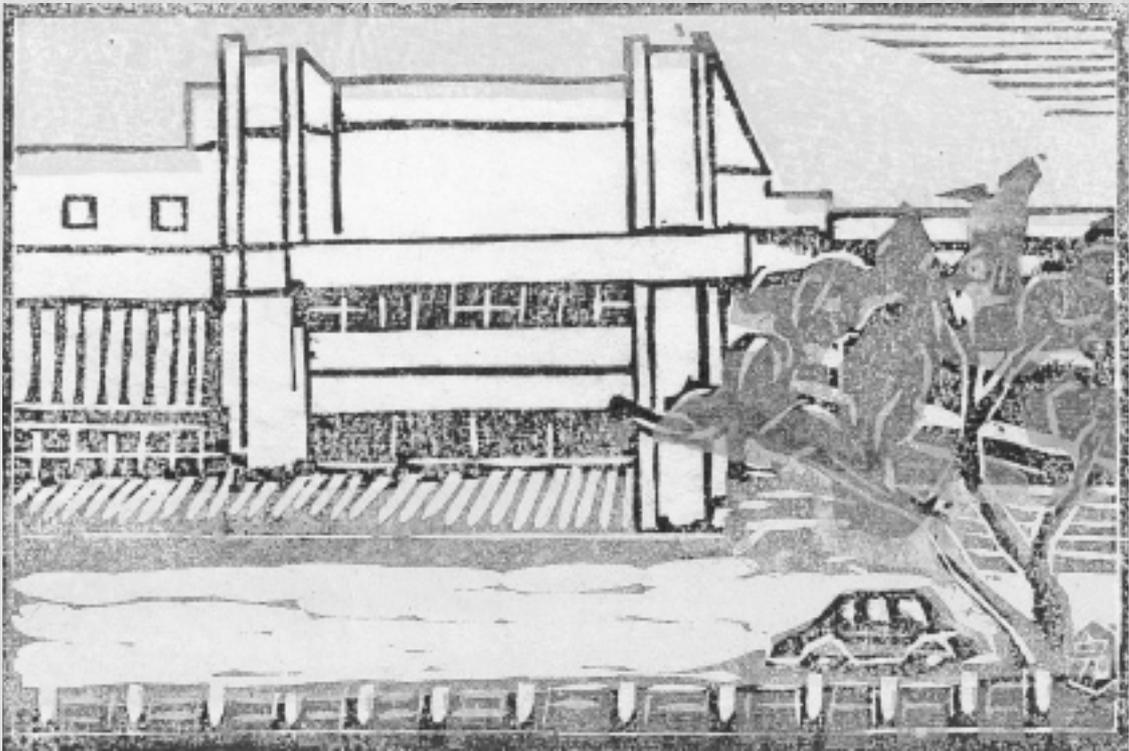


電算システムの更新

新館開館を機に導入した電算システムも10年が経過し、大幅に更新することになった。検索端末機の増設、インターネットパソコン・自動貸出機の導入、館内でのパソコン貸出を始め、携帯電話からの蔵書検索や県内公立図書館8館との横断検索を開始した。

第 2 章

回想編



大分県立大分図書館落成記念 色紙 武藤 完一 作

私と県立図書館

建築家 磯崎 新

私を建築家としてデビューさせていただいたのは、旧大分県立図書館（1966）の設計によってです。私は中学2年のとき終戦を全面焼野原になっていた大分市でむかえました。勿論中島にあった自宅も姿を消していました。たしか現在県庁の第2庁舎のあるあたりの木造の建物に県立図書館が仮住まいしていました。中学生から高校生の頃、ここにもっばら通った記憶があります。建築家になるなんて考えてもみなかったので、当時ここにあった美術関連の全図書を読破しようところみたりしました。図書館がどんな本を蔵していたか、それが、ひとりの人間の生涯の選択になることさえあるのです。

こうして通った図書館をその10年後に建築家として設計する幸運にめぐまれました。これがいま大分市アートプラザとして、再活用されている建物です。コンクリート打ち放しだけの建物ですが、設計が当時まで誰も試みていなかった方法に基いており、完成と同時に注目していただきました。新耐震法への改造を経て、幸いに設計当初の構想がそのまま保存されることになり、日本の近代建築百選（DOCOMOMO）にもえらばれています。

そして、現在の豊の国情報ライブラリーにつづきます。大規模になったので、むこうしばらくの間は充分使用できると思います。またちがう建築空間を楽しんでいただけたと考えています。

大分県立図書館100年の歴史のうち、ほぼ半分を私とその建築を担当できたことは、何よりも幸運であり、楽しいことだったといま感じています。こんな経験から、建築家として、私は図書館を専門としているとさえみられています。いま世界の各地で、私のもっと大規模な図書館の建築が進行していますが、そのすべてが終戦後に本を求めて通った大分県立図書館に発祥しているのです。将来とも、多くの県民の皆さんがそんな経験を持つ場所として、この大分県立図書館を利用していただけたといいなと考えます。

県立図書館の思い出

県立図書館協議会委員長 後藤 惣一

旧県立図書館（現アートプラザ）時代の私は、大分県を舞台にした随筆・詩歌・児童文学作品や作家について調べるため随分と通ったものです。『大分 ふるさと文学館 51』（ぎょうせい刊）の執筆のためでした。当時は、郷土資料が現在に比べればまだ貧弱で、係りの人に大分県の風土に根ざした文学（児童文学も含む）に関する資料を充実するようそっとお願いしたこともありました。

平成7年、県立図書館が移転開館して以来、私と新県立図書館とのかかわりは、以前にもまして深くなりました。子どもの本の研究や大学における児童文学の授業等の関係上、充実してきている子ども室や子どもの本の資料室に足を運ぶことが多くなったことです。

複合施設としての先哲史料館の新たな設置は、私と図書館をいっそう緊密に結び付けました。委嘱を受けた「久留島武彦資料集」等の編纂のために、どれだけ図書館を訪れたか数知れません。お陰で、ライフワークの基盤が固まりました。さらに開館と同時に県立図書館協議会委員を拝命して以来、館長室を始め事務室などにもお邪魔することが多くなり、今は勝手知ったるわが家の感じです。図書館協議会では、図書館運営の基本方針や重点目標はもちろん、具体的な活動推進事業等について審議をいたしてきていますが、事務局の周密な準備と提案、県立図書館に寄せる委員の熱き思いをひしひしと感じているこのごろです。創立百周年、おめでとうございます。

アメリカ文化図書館のこと

別府大学附属図書館長 佐藤 允 昭

第二次世界大戦の戦災で大分市内のあちこちにまだ焼け跡が残っている頃、私は小学生で荷揚町に住んでいた。昭和通を挟んで目と鼻の先に県立大分図書館はあったが、私たち子どもには旧武徳殿の敷地にあるアメリカ文化図書館のほうに人気があった。日本の本では見ることでできないカラー印刷の美しい本や雑誌がたくさんあったからである。紙はびかびかつるつるで、印刷インクの上には甘く感じた。内容は理解できずとも、雑誌広告にみるアメリカの豊かな生活にあこがれたものである。

この図書館は県立で「福岡CIE図書館」の大分分室を兼ねていたことを後に知った。CIE図書館は、戦後日本を占領した連合国軍の占領統治組織GHQで教育政策を担当した民間情報教育局（CIE）が、民主主義思想普及の手段として1945年11月から日本各地に設置した図書館のことである。1952年4月対日講和条約が発効すると民間情報教育局からアメリカ合衆国国務省の直轄となりCIEの名称は消えた。

アメリカ文化図書館もその後県立大分図書館に統合されて今はない。しかし私にとって人生で一番幸福な時代の忘れることのできない図書館である。

郷土史取材の宝庫

大分合同新聞社論説委員長 狭間 久

私が大分合同新聞社に入社したのは昭和35年で、郷土の歴史に取り組み始めたのは、39年の「大分の古戦場」（全34回）からだ。古戦場だから現地に足を運ぶのは当然だが、合戦がどういう歴史的背景のもとに起こったか、まず文献を調べねばならない。そこで駆け込んだのが県立図書館だった。驚いたのは、古戦場について『郷土戦史の研究』という本が昭和2年に刊行されていたこと。編者は帝国在郷軍人会大分支部。戦術研究のため古戦場が調査研究されていたのだ。全く思いがけないことで、その資料を教えてくれたベテランの図書館員に感謝したものだ。

これがきっかけで図書館に入り浸るようになるが、41年に新館が落成し、郷土資料室ができてからは、ここが第二の職場みたいになった。特に郷土史料の中でも田北学氏編さんの『増補訂正編年大友史料』（全33巻）が食欲をそそった。それは、孔版の、限定出版だったので、図書館などでしか見られないものだった。この『大友史料』をベースに46年から48年まで「豊後大友物語」（全80回）を新聞に連載したが、取材はほとんど県立図書館においてだった。

以後、「二豊小藩物語」（48年から51年まで）など、すべては県立図書館の史料を中心に、ベテラン館員のアドバイスを得ながら書き続けた。私にとって県立図書館はまさに郷土史料取材の宝庫だった。

館長時代の思い出

第32代館長 吉田豊治

県立図書館との出会いは、昭和10年代後半の小学校時代から始まった。戦災前の図書館児童室、戦災後間借りした母校金池国民学校時代、戦前の場所に再建され、昭和41年開館した荷揚町の図書館と場所や規模は変わったが、一利用者として訪れていた。特に50年代は県史や市町村史の史資料調査などで活用させて頂いた。

大学卒業以来学校現場にあったものが、最後に図書館長になるとは考えていなかった。昭和63年、内部から図書館を見る立場になって、生涯学習が強く求められる中での「図書館経営のあり方」をまず勉強させられた。司書講習は館の為というより、自分自身の図書館の経営に対する目を開かせてくれた。

館長就任の年に開始された「野上彌生子賞読書感想文全国コンクール」も、懐かしい思い出の一つであるが、大分県と岩波書店と共催で全国規模に拡大するには、一方ならぬ館員の努力と県内の高校や中学校の協力があつたのも忘れることが出来ない。

また館長時代に本格的に、新図書館建設構想が具体化した。宮崎、徳島や富山の県立図書館を視察、さらに大分市内の候補地なども調査して、平成2年1月に「新県立図書館等整備推進委員会」の初の会議が持たれた。

日本図書館協会が創立百年記念として刊行した『近代日本図書館の歩み』地方篇の大分県の執筆を担当、書庫に保管されている史資料を纏めたのも館長時代であった。

図書館と私

第34代館長 河野昭夫

平成4年4月着任。教員だった私にとって図書館への転任は、少なからず戸惑いを覚えた。地方史関係の資料や史料探しで図書館を利用したことはあるが、運営・管理については全くの素人だったからである。

赴任当時の県立図書館は、本来の業務に加えて、新県立図書館の建設準備中で、多忙を極めていた。元来、じっとしてられない私は、折をみては館内外を歩き回った。

1日子ども図書館や地域読書文庫での小学校訪問。野上彌生子賞読書感想文全国コンクールの協力依頼。移動図書館車によるステーション巡回。貸出文庫。県立図書館間協力の瀬戸内海関係資料連絡会議による資料目録の作成。資料の現物選書。ネットワーク研究会。新図書館のゾーニング。職員研修等々。

乏しい体験ではあるが、それまで抱いていた図書館観がくつがえされる思いがした。その思いは、都道府県立図書館長会議・日本図書館協会など、全国規模の会議や研修会に出席することで増幅された。どの会議、どこの図書館でも、真摯で熱心な取り組みがなされていた。

図書館関係者の熱気溢れる姿と大型紙芝居に見入る子どもの姿、移動図書館車を待ちわびる老人の姿などがダブって見えた。図書館業務の在り方が少しはわかったような気がしたのである。

わずか二年間の在任ではあったが、この時の体験が、退職後の津久見市民図書館の建設・運営に、そして今なお図書館学の講義に生かされていることを思えば、貴重で大きな財産を得たことになる。

旧館から新館への思い出

第35代館長 宮本高志

創立百周年、心からお祝い申し上げます。

昭和63年頃（教育庁在職）旧館は収蔵能力の限界、駐車場不足、電算化等で新館建設が喫緊の課題となっていた。建設準備室が設置されたのは平成2年である。相良浩室長を中心に、他県視察、用地取得、電算化構想等の具体化に着手した。設計者の磯崎新氏とも綿密な打ち合せを重ね、芸術性と利便性の調和を模索した。最終的には、平松知事の決断で、スロープ式出入路をホール式に、地下にも駐車場設置と設計変更され、平成4年10月工事着工、7年2月、開館と決定された。

平成6年4月、館長として移転準備に携わる。田中謙吉副館長を先頭に作業開始、新刊本を保管していた日通倉庫で配架作業や、電算化への研修等職員全員が夜遅くまで取り組んだ。平成7年1月阪神大震災が発生したが、予定通り2月28日に開館となり安堵した。

開館日に、新館に魂を入れよとの平松知事の訓示があり、Smile、Speed、Sincerityの3Sを提唱しサービスの向上こそ魂であり、基本姿勢とした。開館後、利用者、貸出冊数が飛躍的に伸び、職員一同欣喜雀躍、多忙の中にも意欲と笑顔に満ち溢れた日々が続いた。

平成7年、国会図書館から上村作郎氏を副館長に迎え、全国的視点からの指導を受け、多くの改善がなされ、平成8年8月全国図書館大分大会も無事に終了し、名実ともに全国有数の図書館として好評を博し一村一館運動に弾みがついた。その後内容も充実発展しておりますが、すべて職員の精励努力の賜であります。引越作業の苦しみ喜びを憶い、今後生涯学習の拠点、知の泉として更なる発展をお祈りいたします。

新館オープン時の活況

第36代館長 上村作郎

平成7年4月から11年3月まで、大分県立図書館にお世話になりました。それまでは国立国会図書館におりましたので、就職以来はじめて東京を離れたこともあって、貴重な体験、有意義な経験のできた4年間でした。

赴任直前の2月28日には、新館が現在の駄原に、図書館・先哲史料館・公文書館が一体となった「豊の国情報ライブラリー」として開館したばかりでした。私と同時に新人の司書3名（翌年には2名）が採用され、建物も人（私のことに非ず）も、そして資料群を備えた万全の新体制でスタートできたわけです。それだけに、県民の皆様へ新生の「情報ライブラリー」を実感していただくにはどうすればよいのか、というプレッシャーもありました。職員の士気は高く、移転、開館準備にも意欲的に取り組んでおりました。幸いなことに、開館以来大勢の方々が来館、ことに土日には館内は人であふれる盛況振りでした。

図書館への期待は利用増にとどまらず、積極的に支援していただくことにもなりました。ことに子ども室でのボランティアの方々の活動は、我々にもおおいに励みになりました。また、図書館独自の事業では、図書館協力事業の開始や、文部省の委嘱を受けて試みた野外学習講座は、図書館の新しい可能性を追求したものと考えております。

新県立図書館開館時の思い出

元職員 田 中 謙 吉

全国でも有数な施設規模をもつ、新図書館が開館するという年度に、宮本県教育長が館長となり、全くの素人の私が副館長として赴任するとは、夢にも思わなかった。

着任と同時に、職員の問題が多々あった職場の中で、少数人員での開館業務と重なって通常の運営が出来るのか一抹の不安があった。

8月末に旧図書館を閉館し、12月1日に工事中の新図書館に全職員を移転し、最終的な開館に向け作業に取り組んだ。

開館までには、県民に永年親しんでいただいた移動図書館車の廃止に伴う、各地区協力者へのお礼と今後の協力をお願い。

施設設備の納入遅れ等大きな問題が生じ2度にわたり業者から始末書を取った。更に、利用者の安全を図るための職員の防災訓練の実施等多忙をきわめたものである。

開館と同時に、毎日の開館と閉館時は入口に立ち利用者への挨拶を行い、職員の昼食時には私が貸出しカウンターで業務を行い転勤するまで続けたものである。

見学者も多く毎日数団体を私が案内をしたが、特に大分舞鶴高校1,400人の全生徒の来館は壮観であった。開館からは毎日緊張の中にも非常に充実した日々であった。

わずか、一年間の勤務であったが、図書館の歴史の中で新図書館の開館という大事業に従事できたことは幸運であった。

現図書館の発展は、司書等の頑張りによるものであり多くの利用者にささえられ今日に至っていると思っている。

昭和26(1951)年当時の県立図書館

元職員 松 尾 則 男

昭和26年当時の県立図書館は、荷揚町の現在の大分県総合庁舎のある場所で、大手前公園に隣接しており、戦災の焼け跡に建てられた小さい平屋の木造建築でした。

建物は東向きで、玄関の入り口の右側には、春になると、白い大きな花弁をつけるマグノリアの成木があり、南側には青桐の木が二本程植えられており、外見は個人住宅のような感じの小さな建物でした。職員の数も館長以下9名という、現在では想像できないこぢんまりとしたスタッフでしたが、当時でも、地方からの読書グループへの団体貸し出しを行っていました。

私は図書出納の係でしたので、午前中の閲覧者は殆ど居ないので、勤務中での読書が楽しみでしたが、午後になると、全部で80人くらい収容できる閲覧室は席借りの高校生で満席となり、当時は閉架式でしたから、図書出納の仕事は、隣接する書庫に入ったり出たりして重たい図書の出し入れをするつらい仕事でした。開架式の図書館のあることを聞いて羨ましく思っていました。

図書の貸し出しは、本の定価の金額を供託する制度で大変不便でした。土用の曝書期には、晴天の日に、閲覧室の前のテラスに郷土資料や貴重本を運んで虫干しをしていました。今から53年前の事です。

五十年前の県立図書館

元職員 油 布 辰 子

1953年の春。私は県立図書館に就職しましたが、それは、懐かしい小さな木造の建物でした。現在の県総合庁舎のあたり、遊歩公園に面していました。床は板張り、いたるところ隙間だらけで、小さな部屋が7つ。閲覧室はその中でいくらか広い部屋でした。

館員は17名。でも静かでのんびり、和気あいあいの雰囲気でした。冬の朝など、出勤すると、木の火鉢をかかえて、小使さんに小さな火種を貰ってきて皆の火鉢の火起こしをして、それから仕事にかかるのでした。

私は整理係で、本の分類・登録をする仕事でした。カードは手書きで一枚、分類目録用のものだけでした。

別棟に土蔵の書庫があり、一階には一般書籍、二階には郷土誌・上記・古文書・碩田叢書などが収納されていました。松ヤニの出た分厚い木造書架が印象的でした。

当時、休館は月曜日でした。1958年の10月、利用者アンケート「平日の夜7時までの開館か、日曜日4時半までの開館かのどちらかを望むか」の結果、日曜日の休館と決まり、皆で喜んだのでした。

1966年7月。荷揚町に新県立図書館が実現。児童室が新設されて私はその担当になりました。許斐氏利さんから200万円の寄付があり、児童室に充当されることになって、その整理で、しばし5千冊の新刊書の中に埋まったのでした。

児童室オープン後は、ストーリーテリングや子供会などで大忙しの毎日。翌67年には児童に対する図書館奉仕全国大会も催しました。

振り返れば、生涯忘れることの出来ない、最も充実した一時期でした。

新館建設の頃

元職員 瀬 尾 信 子

新県立図書館は、92年着工、95年2月にオープンした。この頃は、図書館の電算化が本格的になり、大型施設・大量の資料による大規模開架の図書館が次々と誕生していた。

示された新館計画も、160万冊の蔵書能力、30万冊の開架というものであった。当時の荷揚町の図書館は、30万冊弱の所蔵で7万冊の開架、九州でも下位の小規模館であり、予想を超えた大きな計画である。電算化や大型の施設・資料の大量収集、組織の問題等、手さぐりで雲を掴むような、期待と不安の出発であった。

私達職員は、それぞれにチームを組み、準備室や磯崎アトリエ、書店等と協議を重ねながら作業に当たったが、難航することも多々あった。すでに開館していた滋賀県立・徳島県立・愛知県立図書館他の先進館には、見学や資料等大変お世話になった。

資料の収集では、開館時50万冊の所蔵を目途に、開館までの3年間で新刊書の積極的な収集と同時に、過去10年間の遡及収集を行った。これまでの所蔵資料の整備を図るために、基本図書を中心に幅広く集めようというのである。10年の年月、折からの地価の高騰による出版社の在庫の減少等々の理由から、収集の目処が立ちにくく、関係の方々にはご迷惑もお掛けした。この機会に、所蔵資料に厚みを加え得たことは幸いだったと感謝している。

思い出すこと そして願うこと

元職員 高山 順子

閲覧室の窓から見えるお堀の石垣と木々の緑、書庫のヒンヤリとした空気の中のカビたような本の匂い、児童室の少し汗くさい子供達、そして何もかも手作業だった本の整理やカード組み込み、調査相談で難問に四苦八苦したことなどなど、27年間の図書館生活を思い出すと、いろんな場面と場所がパッと浮かび出てきます。

荷揚町の新館2年目、企画広報を受け持ち、講演会・映画会・レコードコンサート・子ども会・図書館報の発行などをしましたが、チラシを配ったり、街にポスターを貼って歩いたり、人集めの難しさを知りました。その中でも当時の館長が講師で始められた「古典文学講座」だけは人気が高く、受講希望者が殺到し、その熱心さには圧倒されたものです。「公民館みたいです。」といわれながらも、いろいろな行事によって、新しい図書館の役割が認められるようになったのではないのでしょうか。

先日、見せていただいた図書館年表の中に昭和20年の図書資料疎開の記述がありました。大分の空襲も段々と激しくなり私達も毎晩、防空壕の中で過すようになっていた時代です。自分自身の生活もままならない厳しい状況の中で、どんなに苦勞して貴重な資料を守ろうとしたのか、わずかな記述の行間から、いろんな思いが伝わってきます。空襲も、その後の混乱も、子供ながらに記憶している私にとって、とても気になる数行でした。

これからの百年が、どうぞ平和で、先輩達が守った資料が無事に受け継がれますようにと願うばかりです。

楽しき思い出

元職員 安藤 和子

荷揚町の新図書館への移転作業が始まった昭和40年10月が私の図書館勤務の始まりでした。その時はまだ、アルバイトとして働いていました。

作業は、目録カードを一枚一枚手書きで複製したのが最初で、翌年4月頃になると、土蔵の書庫から本を搬出し、洋服ブラシ様のもので埃を払い、箱に詰める準備をしました。そんな折、古い本を取り落しでもしたら、「本は大丈夫ですか？」とかけ寄ってきた今は亡き大先輩のEさんを思い出します。パピルスのことになると口角沫を飛ばす勢いで語っておられたものです。新館最初の館長は、明治生まれの厳格な方でした。職員の身なり、服装についても、女性のシャツの腕まくりや履物にまでご意見がありました。また、何かの訓示で、「書棚を見て、本が乱れていたり、逆さになっているのを気にしない者は、図書館人の資格はない。」と云われたのは、今でも記憶にあり、時折、若い人達に話して聞かせました。

当時の一ヶ月間の受入れ新刊書は、現在の一週間分にも満たないものでした。でも、標目や分類を決めて目録原稿を書き、ガリ版印刷で作製したのですが、今思うと、結構楽しいものでした。標目決定には、職員同士の意見が一致せず、一冊の本に何時間もかかったことも多々ありました。今のコンピュータ時代と異なり数が少ない分、内容が頭に入った様です。ベテラン係長のTさんなんかは、書架の何番目、何段目までインプットされていました。新米の図書館員としては、当時の大先輩諸氏の庇護のもと、のほほんとして過ごしたつければ、その方達が退かれた後痛感させられました。しかし思えば古き佳き時代でした。

子ども室はいつもにぎやか

元職員 三重野 アツ子

昭和11年（1936）に県立図書館に児童閲覧室が設置された。田舎育ちの私がはじめて図書館を利用した時は、荷揚町にあった旧武徳殿横のアメリカ図書館（何だかそう呼んでいた）で、毎土曜日英会話グループが閲覧席を専用していて、私たち一般利用者は英会話風景を横目で感じながら本を選ぶという情景だった。

カウンターの右隣の部屋では、子どもたちがにぎやかに出入りしていて、館報などの記録を見ると、いつも子どもたちの利用が全体の3分の1強の利用状況で現在にも続いている。

利用者だった私が図書館職員になったのが1969年で、児童室担当になったのが1982年。水・土・日曜日は、子どもたちが何列にも並んで順番を待ち、職員3人を配置してもさばけない程の盛況ぶりだった。1986年に大分市民図書館がオープンして、ようやく県立図書館としての役割がはたせるようになったと思う。その間にも、親子文庫や地域読書振興文庫など市町村担当係と共に、おはなし勉強会のメンバーの協力を得て、地域の学校や公民館に本とおはなしを届けにまわった。

近年過疎化が進み、農山村の小学校が次々に廃校になり、田畑が荒れて行くのを見るにつけ、あの頃楽しんだ子どもたちの母校よ、もう一度と願わずにはおれない。

子どもたちの読書への動機づけとして、1983年より、毎水曜日、お母さんたちと“おはなし広場”を午後2時から開き、もう20年以上も続いている。学校週休2日制の試行が1992年から始まり、“本とあそぼう会”が発足、以後完全週5日制実施に当たって、毎土曜日と毎水曜日は子どもたちに読書の喜び、おはなしの楽しさを知るチャンスが提供できている。これは、未来の読者にとって力になると思う。

Oita Kenritsu Toshokan Mascot Character

pen-chan



第 3 章

資料編

- 1 県内市町村立図書館一覧
- 2 歴代館長一覧
- 3 県立図書館条例・規則
- 4 蔵書数の推移
- 5 施設の変遷
- 6 県立図書館協議会委員一覧
- 7 県立図書館主要刊行物一覧
- 8 読書感想文コンクール入賞者一覧
(最優秀受賞者名)
- 9 公立図書館等職員研修会
- 10 組織及び職員
- 11 参考資料一覧

1. 県内市町村立図書館一覧

館名	所在地	電話番号・FAX番号	館長名
中津市立小幡記念図書館	〒871-0056 中津市片端町1366番地の1	TEL 0979-22-0679 FAX 0979-24-3516	八崎 道信
豊後高田市立図書館	〒879-0606 豊後高田市大字玉津987	TEL 0978-24-2277 FAX 0978-24-2277	尾造 正道 (生涯学習課長兼)
山国町立図書館	〒871-0712 下毛郡山国町大字守実130	TEL 0979-62-2141 FAX 0979-62-2590	荒川 節幸 (教育次長兼)
宇佐市民図書館	〒879-0453 宇佐市大字上田1017-1	TEL 0978-33-4600 FAX 0978-33-4679	田口 彰
安心院町立図書館	〒872-0521 宇佐郡安心院町大字下毛2130	TEL 0978-44-2177 FAX 0978-44-2181	矢野 省三 (教育長兼)
杵築市立図書館	〒873-0001 杵築市大字杵築1-1	TEL 0978-62-4362 FAX 0978-62-3401	河野 健一
別府市立図書館	〒874-0942 別府市千代町1-8	TEL 0977-23-2453 FAX 0977-27-0330	村上 英敏
国見町立図書館	〒872-1401 東国東郡国見町大字伊美2409-1	TEL 0978-82-1585 FAX 0978-82-1585	伊美 哲二 (生涯学習課長兼)
くにさき図書館	〒873-0503 東国東郡国東町大字鶴川160-2	TEL 0978-72-3500 FAX 0978-72-3526	清原とも子
武蔵町立図書館	〒873-0412 東国東郡武蔵町大字古市1131-1	TEL 0978-69-0946 FAX 0978-69-0946	瀧口 洋司 (生涯学習課長兼)
安岐町立図書館	〒873-0202 東国東郡安岐町大字瀬戸田728	TEL 0978-67-3551 FAX 0978-67-3551	冨永 六男 (生涯学習課長兼)
日出町立萬里図書館	〒879-1506 速見郡日出町2602-2	TEL 0977-72-2851 FAX 0977-72-4991	野崎 一郎
大分市民図書館	〒870-0021 大分市府内町1丁目5-38	TEL 097-538-3500 FAX 097-538-3744	手島 昭彦
挾間町立図書館	〒879-5506 大分郡挾間町大字挾間104-1	TEL 097-586-3150 FAX 097-583-1186	山月美江子
臼杵市立臼杵図書館	〒875-0041 臼杵市大字臼杵6-16	TEL 0972-62-3405 FAX 0972-63-3943	神田 政明
津久見市民図書館	〒879-2431 津久見市大友町5-15	TEL 0972-85-0080 FAX 0972-85-0081	仲 博徳
佐伯市立佐伯図書館	〒876-0843 佐伯市中ノ島2丁目20-33	TEL 0972-24-1010 FAX 0972-25-0609	宮本 孝憲
竹田市立図書館	〒878-0013 竹田市大字竹田1980	TEL 0974-63-1048 FAX 0974-63-1048	平尾 胖 (総務課長兼)
三重町立図書館	〒879-7125 大野郡三重町大字内田881	TEL 0974-22-7733 FAX 0974-22-7733	吉良 悦子
緒方町立緒方図書館	〒879-6643 大野郡緒方町大字下自在172	TEL 0974-42-4141 FAX 0974-42-2705	金子 恵子 (生涯学習課長兼)
日田市立淡窓図書館	〒877-0003 日田市上城内町1-72	TEL 0973-22-2497 FAX 0973-26-3210	橋本 建夫
九重町・図書館	〒879-4803 玖珠郡九重町大字後野上17-4	TEL 0973-76-3888 FAX 0973-76-3877	梶原 直昭 (生涯学習センター所長兼)

(平成16年4月1日現在)

創設年月	延床面積 (㎡)	職員数(嘱託等含) (人)	蔵書冊数 (冊)	登録者数 (人)	個人貸出冊数 (冊)	資料購入費 (千円)
1909. 1	2,892	16	199,150	29,228	499,144	21,265
1925. 4	194	4	45,231	3,235	22,583	2,823
1996. 4	813	4	37,972	3,851	37,036	1,874
1998. 4	3,563	18.7	151,880	24,725	407,275	22,578
1993. 6	197	3.5	20,775	2,852	20,392	1,215
1980. 8	360	4	55,509	2,962	37,182	3,967
1922. 6	1,333	8	143,685	4,394	35,202	7,700
1994.12	160	4	17,263	1,527	9,454	1,768
1993. 7	899	5	48,933	6,966	80,627	6,751
1991. 6	795	6	45,526	7,295	48,480	3,410
1992. 7	216	2.6	28,708	2,184	15,943	1,505
1910. 6	502	4	41,190	2,857	59,420	3,620
1976. 7	2,876	34.1	384,767	134,389	698,122	40,830
1999.12	1,247	6	63,548	10,359	126,528	5,650
1918. 5	808	6	86,311	7,520	61,979	6,604
1996. 7	2,458	13.7	119,268	13,116	112,585	9,000
1981.11	1,220	14	109,002	9,553	187,669	6,853
1909. 3	577	4.8	82,177	1,790	38,691	3,180
1981. 4	769	5	62,786	8,019	68,640	4,287
1984. 6	80	5	17,684	337	7,014	1,700
1916. 4	1,534	8	139,030	33,873	161,403	10,540
1999. 4	377	3	19,827	2,076	22,565	3,348

※延床面積少数点以下四捨五入

2. 歴代館長一覧

代	館長名	就任年月日	備考
初	大久保 利 武	明35. 5. 24	知事兼務
2	小 倉 久	明39. 6. 1	知事兼務
3	坂 本 永 定	明39. 12. 1	福沢記念図書館長兼大分県教育会事務員
4	片 切 豹太郎	大 8. 9. 2	福沢記念図書館長兼大分県教育会専務幹事
5	石 橋 豊 徳	昭 6. 4. 1	館長事務取扱（県社会課長兼）
6	小 野 拓	昭 7. 1. 18	館長事務取扱（県社会教育主事兼）
7	林 重 房	昭 7. 2. 15	館長事務取扱（県教育課長兼社会課長兼）
8	向 井 新	昭 7. 9. 22	館長事務取扱（県教育課長兼社会課長兼）
9	加 藤 清	昭11. 7. 29	館長事務取扱（県学務課長兼）
10	沢 田 勝 次	昭12. 7. 23	館長事務取扱（県学務課長兼）
11	小 倉 兼	昭13. 5. 21	館長事務取扱（県学務課長兼）
12	松 阪 富之助	昭13. 9	館長事務取扱（県学務課長兼）
13	小 川 直 熙	昭15. 5	県立日田中学校長から初代専任館長
14	山 室 寿	昭20. 3. 22	県社会教育主事から
15	広 中 益次郎	昭25. 3. 31	県社会教育課長から
16	友 成 大之丸	昭26. 7. 1	県社会教育主事から
17	坂 本 信 彦	昭31. 4. 1	県立大分図書館外国資料室から
18	志 賀 正 道	昭34. 4. 2	県立ろう学校長から
19	串 田 順	昭36. 4. 1	県立鶴崎高等学校教頭から
20	布 施 順 生	昭38. 4. 1	大分県教育事務所長から
21	米 田 貞 一	昭40. 4. 1	県立大分女子高等学校長から
22	利 田 正 男	昭45. 4. 1	県立緒方工業高等学校長から
23	佐 藤 義 士	昭46. 4. 1	県立佐伯豊南高等学校長から
24	矢 野 朔 雄	昭50. 4. 1	県文化課長から
25	成 田 勝	昭52. 4. 1	県教育次長から
26	田 村 卓 夫	昭53. 4. 1	県立大分上野丘高等学校長から
27	高 橋 寿 満	昭54. 4. 1	県立杵築高等学校長から
28	帆 足 敏 郎	昭56. 4. 1	県立大分女子高等学校長から
29	勝 尾 和 男	昭58. 4. 1	県立杵築高等学校長から
30	切 石 文 士	昭59. 4. 1	県立日田高等学校長から
31	佐 藤 和 秀	昭60. 4. 1	県立鶴崎工業高等学校長から
32	吉 田 豊 治	昭63. 4. 1	県立双国高等学校長から
33	堤 修 三	平 2. 4. 1	県立安岐高等学校長から
34	河 野 昭 夫	平 4. 4. 1	県立中津商業高等学校長から
35	宮 本 高 志	平 6. 4. 1	県教育委員会教育長から
36	上 村 作 郎	平 9. 4. 1	県立図書館副館長から
37	西来路 秀 彦	平11. 4. 1	国立国会図書館から
38	高 山 直 也	平13. 4. 1	国立国会図書館から
39	神 繁 司	平15. 4. 1	国立国会図書館から

3. 県立図書館条例・規則

(1) 大分県立図書館の設置及び管理に関する条例

(昭和39・3・31 条例第53号)
(最終改正 平成6・9・30 条例第34号)

(設置)

第1条 県民の教育と文化の発展に寄与するため、図書館法（昭和25年法律第118号。以下「法」という。）第10条の規定に基づき、大分県立図書館（以下「図書館」という。）を設置する。

(位置)

第2条 図書館は、大分市大字駄原587番地1に置く。

(業務)

第3条 図書館は、法第3条に規定する業務を行う。

(職員)

第4条 図書館に、館長その他の職員を置く。

(損害の賠償)

第5条 利用者は、建物、設備又は図書等の資料に対して損害を与えた場合は、教育委員会の認定に基づき、その損害を賠償しなければならない。

(委任)

第6条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、昭和39年4月1日から施行する。

附 則 [昭和55・3・29・条例第11号]

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 [平成6・9・30・条例第34号抄]

(施行期日)

1 この条例は、平成7年2月1日から施行する。

(2) 大分県立図書館管理規則

(昭和39・3・31 教育委員会規則第7号)
(最終改正 平成16・4・1 教育委員会規則第6号)

(趣旨)

第1条 この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第33条第1項及び大分県立図書館の設置及び管理に関する条例（昭和39年大分県条例第53号）第6条の規定に基づき、大分県立図書館（以下「図書館」という。）の組織、運営その他必要な事項を定めるものとする。

(課、係の設置)

第2条 図書館に、次の表の上欄に掲げる課を置き、それぞれの課に、同表の当該下欄に掲げる係を置く。

課 名	係 名
総 務 課	管理係
企 画 協 力 課	企画管理係、市町村協力係
奉 仕 第 一 課	館内係、児童係、逐次刊行物係
奉 仕 第 二 課	調査相談係、郷土資料係

※原表は縦書き

(総務課の分掌事務)

第3条 総務課においては、次に掲げる事務をつかさどる。

- 1 公印の管守に関すること。
- 2 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 3 職員の身分、服務、研修及び福利厚生に関すること。
- 4 予算の執行並びに現金、有価証券及び物品の出納命令に関すること。
- 5 図書館協議会に関すること。
- 6 施設及び設備の維持管理に関すること。
- 7 その他他課の所掌に属さない事項に関すること。

(企画協力課の分掌事務)

第4条 企画協力課においては、次に次に掲げる事務をつかさどる。

- 1 行事の企画・調整に関すること。

- 2 広報に関すること。
- 3 図書館ネットワークの推進に関すること。
- 4 館外用資料に関すること。
- 5 貸出文庫等館外事業に関すること。
- 6 県勢情報コーナーの運営に関すること。
- 7 電算システムの運用に関すること。
- 8 関係行政機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- 9 図書館統計に関すること。
- 10 その他市町村立図書館の設置、運営に関する支援、協力に関すること。

(奉仕第一課の分掌事務)

第5条 奉仕第一課においては、次に掲げる事務をつかさどる。

- 1 一般資料、児童資料、視聴覚資料、逐次刊行物その他の図書館資料（次条第1号に規定する資料を除く。）の選定、収集、整理、保管、閲覧、貸出し及び廃棄に関すること。
- 2 読書相談に関すること。
- 3 対面朗読室及び特別閲覧室の利用に関すること。
- 4 図書館資料の複写に関すること。

(奉仕第二課の分掌事務)

第6条 奉仕第二課においては、次に掲げる事務をつかさどる。

- 1 調査相談資料及び郷土資料の選定、収集、整理、保管、閲覧、貸出し及び廃棄に関すること。
- 2 調査相談に関すること。
- 3 他の図書館等との図書館資料の相互貸借に関すること。
- 4 図書館資料の寄託に関すること。

(職員の職)

第7条 図書館の職員の職として、次の職を置く。

- 1 館長
 - 2 副館長
 - 3 参事
 - 4 課長
 - 5 主幹
 - 6 主任社会教育主事
 - 7 主幹司書
 - 8 調査相談専門員
 - 9 視聴覚専門員
 - 10 郷土資料専門員
 - 11 調査専門員
 - 12 係長
 - 13 副主幹
 - 14 社会教育主事
 - 15 主査
 - 16 主任司書
 - 17 社会教育主事補
 - 18 主任
 - 19 主事
 - 20 技師
 - 21 司書
- 2 前項に規定する職は、吏員相当職（地方自治法（昭和22年法律第67号）第172条第1項に規定する吏員に相当する職員の職をいう。以下同じ。）
 - 3 館長の職は、非常勤とすることができる。
 - 4 館長は、上司の命を受け、図書館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
 - 5 副館長は、館長を補佐し、図書館の事務を処理する。
 - 6 参事は、上司の命を受け、専門的事項の指導及び助言に関する事務並びに特定の事務を処理する。
 - 7 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

- 8 主幹は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。
- 9 主任社会教育主事は、上司の命を受け、社会教育に関する特定の事務を処理する。
- 10 主幹司書は、上司の命を受け、図書に関する特定の専門的事務を処理する。
- 11 調査相談専門員は、上司の命を受け、図書館資料の紹介及び読書相談に関する事務を処理する。
- 12 視聴覚専門員は、上司の命を受け、視聴覚に関する事務を処理する。
- 13 郷土資料専門員は、上司の命を受け、郷土資料に関する事務を処理する。
- 14 調査専門員は、上司の命を受け、図書館資料の収集及び調査統計に関する事務を処理する。
- 15 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。
- 16 副主幹は、上司の命を受け、特定の事務を処理する。
- 17 社会教育主事は、上司の命を受け、指導業務に従事する。
- 18 主査は、上司の命を受け、事務を処理する。
- 19 主任司書は、上司の命を受け、図書に関する専門的事務を処理する。
- 20 社会教育主事補は、上司の命を受け、指導業務に従事する。
- 21 主任は、上司の命を受け、事務に従事する。
- 22 主事は、上司の命を受け、事務に従事する。
- 23 技師は、上司の命を受け、技術に従事する。
- 24 司書は、上司の命を受け、図書館に関する専門的事務に従事する。

第8条 前条に規定するものを除き、図書館に、次の職員の職を置く。

1 技師

2 用務員

2 前項に規定する職は、吏員相当職を除く職員の職とする。

3 技師は、上司の命に従い、前条に規定する技師の職務を補助し、又は自動車の運転及び整備若しくは図書館の汽かんに関する業務に従事する。

4 用務員は、上司の命に従い、図書館の清掃、使送その他の雑務に従事する。

(職員の数)

第9条 図書館の職員の数は、教育長が定める。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、昭和39年4月1日から施行する。

附 則 [平成15・4・1・教育委員会規則第5号]

この規則は公布の日から施行する。

附 則 [平成15・5・22・教育委員会規則第8号]

この規則は公布の日から施行する。

附 則 [平成16・4・1・教育委員会規則第6号]

この規則は公布の日から施行する。

(3) 大分県立図書館利用規則

(平成7・1・31 教育委員会規則第2号)

大分県立図書館利用規則(昭和55年大分県教育委員会規則第8号)の全部を改正する。

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、大分県立図書館の設置及び管理に関する条例(昭和39年大分県条例第53号)第6条の規定に基づき、大分県立図書館(以下「図書館」という。)の利用に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 図書館の開館時間は、午前9時から午後7時までとする。ただし、土曜日及び日曜日は、午前9時から午後5時までとする。

(休館日)

第3条 図書館の休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日

2 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)第2条に規定する国民の祝日(日曜日に当たる日を除く。)並びに同法第3条第2項及び第3項に規定する休日(以下「休日」という。)ただし、その日が月曜日に当たるときは、

その日後において、その日に最も近い休日でない日

3 12月28日から12月31日まで及び翌年の1月1日から1月4日まで

4 図書館法（昭和25年法律第118号）第3条第1号に規定する図書館資料（以下「資料」という。）の整備期間（1年間を通じて15日以内で大分県立図書館長（以下「館長」という。）が定める期間）

（開館時間等の変更）

第4条 前2条の規定にかかわらず、館内整理その他のため、館長が必要があると認めるときは、開館時間若しくは休館日を変更し、又は臨時に開館若しくは休館することができる。

（資料の賠償）

第5条 資料を利用するもの（以下「利用者」という。）は、資料を亡失し、又は汚損したときは、同一の資料又はこれに相当する資料を持って賠償しなければならない。

（利用制限等）

第6条 館長は、利用者が次の各号のいずれかに該当し、又は該当するおそれがある場合は、その入館を拒否し、若しくは退館を命じ、又は利用を制限し、若しくは利用を停止させることができる。

1 第13条第3項の規定により交付を受けた資料利用券を不正に使用したとき。

2 資料又は図書館の施設を故意に亡失し、汚損し、若しくはき損し又はそのおそれがあると認められるとき。

3 資料の返納を故意に怠ったとき。

4 定められた場所以外で喫煙又は飲食をしたとき。

5 めいていし、大声を發し、若しくは危険物を持ち込む等他の利用者に迷惑を及ぼし、又はそのおそれがあると認められるとき。

6 その他管理上支障があると認めるとき。

第2章 館内利用

（利用の手続）

第7条 利用者は、図書館内において資料を自由に利用することができる。ただし、館長が別に定めるものについては、この限りでない。

（調査相談）

第8条 調査相談は、調査相談をしようとする者の口頭、電話又は文書による申込みにより、資料を介して行うものとする。

2 古文書及び美術品の鑑定、法律相談、医療相談、学習課題の解答その他館長が回答することが適当でないことについては、相談に応じないものとする。

（資料の複写）

第9条 資料の複写を依頼しようとする者（第3項において「依頼者」という。）は、資料複写申込書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は、前項の複写の依頼が次の各号のいずれかに該当する場合は、これに応じないものとする。

1 著作権法（昭和45年法律第48号）の侵害となるおそれがあるとき。

2 技術的に複写が困難な資料及び複写することにより損傷が予想される資料

3 その他館長が複写することを不適當と認めた資料

3 依頼者は、複写のために必要な材料を負担しなければならない。

4 複写物の利用による著作権法上の責任は、当該複写物の提供を受けた者が負うものとする。

（特別閲覧室）

第10条 特別閲覧室は、次の各号のいずれかに該当する場合はこれを利用することができる。

1 複数の利用者で資料を利用するとき。

2 その他館長が特に必要と認めるとき。

2 特別閲覧室を利用しようとする者は、特別閲覧室利用申込書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

（対面朗読室）

第11条 対面朗読室は、次の各号のいずれかに該当する場合にこれを利用することができる。

1 視覚障害者及びその関係者が利用するとき。

2 その他館長が特に必要と認めるとき。

（学習室）

第12条 利用者は、学習室を利用する場合は、館長が別に定めるところに従い利用しなければならない。

第3章 館外利用

（資料利用券等）

第13条 利用者は、資料の貸出しを受けようとするときは、資料利用券の交付を受けなければならない。

- 2 利用者は、資料利用券の交付を受けようとするときは、資料利用券申込書を館長に提出しなければならない。この場合には、利用者は、氏名・住所等を証明できる書類を職員に提示しなければならない。
- 3 館長は、前項の規定により資料利用券申込書の提出があったときは、これを審査し適当と認める者に対し資料利用券を交付するものとする。
- 4 館長は、利用者が引き続いて3年間資料の利用がない場合は、資料利用券の登録を取り消すことができるものとする。
- 5 資料利用券の交付を受けた利用者は、資料利用券申込書の記載事項に変更があったときは、速やかに届け出て当該記載事項の訂正を受けなければならない。
- 6 資料利用券の交付を受けた利用者は、資料利用券を他人に貸与し、又は譲渡してはならない。
- 7 資料利用券の交付を受けた利用者は、資料利用券を紛失し、又は汚損したときは、速やかに再発行申込書を館長に提出して資料利用券の再交付を受けることができる。この場合において、紛失し、又は汚損した資料利用券が発見されたときは、直ちにこれを返却しなければならない。

(資料の貸出し)

第14条 利用者は、資料の貸出しを受けようとするときは、貸出しを受けようとする資料に、前条第3項の規定により交付を受けた資料利用券を添えて職員に提出して、貸出しを受けなければならない。

(利用冊数及び期間)

第15条 前条の場合において、利用者が同時に利用することのできる資料は10冊以内とし、利用期間は借り受けた日から起算して15日以内とする。

(貸出しの制限)

第16条 次に掲げる資料は、貸出しをしないものとする。

- 1 貴重資料、郷土資料、参考資料、逐次刊行物及び視聴覚資料
- 2 その他館長が特に指定する資料

(特別貸出し)

第17条 前条に掲げる資料のうち、館長が特に貸出しを認めたものは、貸出しをすることができる。

- 2 利用者は、前条に掲げる資料の貸出しを受けようとするときは、資料特別貸出申込書を館長に提出し、その許可を得なければならない。
- 3 第14条及び第15条の規定は、特別貸出しについて準用する。

第4章 貸出文庫

(貸出文庫)

第18条 貸出文庫は、県民の図書の利用に資するため、館長が必要と認めた市町村の機関及び読書団体等（以下「利用団体等」という。）に対して資料を貸し出すものとする。

(貸出しの手続)

第19条 貸出文庫の貸出しを受けようとする場合は、利用団体等が責任者を定めて館長に申請しなければならない。

- 2 館長は、前項の申請書の提出があったときは、これを審査し適当と認める利用団体等に、貸出しを行うものとする。

(利用期間)

第20条 貸出文庫の利用期間は、貸出しを受けた日から原則として3月とする。

(損害の賠償)

第21条 貸出し文庫の資料を紛失又は破損した場合は、第5条の規定にかかわらず、貸出しを受けた利用団体等の責任者が、同一の資料又はこれに相当する資料をもって賠償しなければならない。

第5章 資料の寄贈及び寄託

(寄贈及び寄託)

第22条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

- 2 資料を寄託しようとする者は、寄託申込書により館長の承認を得なければならない。

(寄贈及び寄託資料の取り扱い)

第23条 寄贈及び寄託資料の管理については、図書館の所有する資料に準じて取り扱うものとする。ただし、寄託資料については、館外利用はできないものとする。

(寄託資料の賠償責任)

第24条 寄託資料が天災その他不可抗力により滅失又は損傷したときは、館長は賠償の責めを負わないものとする。

(寄託に伴う費用)

第25条 寄託に伴う送料等の費用は、原則として寄託者の負担とする。

第6章 研修室等の利用

(研修室等の利用)

第26条 研修室又は視聴覚ホール（以下「研修室等」という。）は、図書館の事業に関連のある会議、研修会、講演会等

のために利用できるものとする。

(研修室等の特別利用)

第27条 前条の規定にかかわらず、図書館等の運営に支障がなく、館長が特に認めた場合は、特別に研修室等を利用できるものとする。

(利用手続)

第28条 研修室等を利用しようとする者は、研修室等利用申込書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は、前項の研修室等利用申込書の提出があったときは、これを審査し適当と認める者に対し、研修室等利用許可書を交付するものとする。

(許可の取り消し等)

第29条 館長は、前条の利用許可をした後において、次の各号のいずれかに該当する場合は、許可を取り消し、又は使用を中止させることができる。

- 1 研修室等利用申込書の記載内容に偽りがあるとき。
- 2 図書館の業務上特に必要があるとき。
- 3 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- 2 前項の取り消し等により損害が生じることがあっても、これに対する補償は行わないものとする。

第7章 雑則

(委任)

第30条 この規則に定めるもののほか、図書館の利用に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成7年2月1日から施行する。

(4) 大分県立図書館協議会条例

(昭和25・11・21・条例第60号)

(最終改正 平成6・9・30・条例第34号)

第1条 図書館法(昭和25年法律第118号)第14条の規定に基づき、大分県立図書館の円滑な運営を図るため、大分県立図書館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

第2条 協議会の委員(以下委員という。)の定数は10名以内とする。

第3条 委員の任期は2年とする。但し、特別の事情ある場合は任期中でも解任することができる。

第4条 この条例の施行について必要な事項は大分県教育委員会が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 [平成6・9・30・条例第34号抄]

(施行期日)

- 1 この条例は、平成7年2月1日から施行する。

(5) 大分県立図書館協議会会議規則

(昭和26・5・25・教育委員会規則第6号)

(最終改正 平成7・1・17・教育委員会規則第1号)

第1条 大分県立図書館協議会(以下協議会という。)の会議に関しては、この規則の定めるところによる。

第2条 協議会は、委員のうちから、委員長及び副委員長各1名を互選する。

2 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期中とする。

3 委員長は、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を行う。

第3条 協議会の会議は、図書館長の諮問に応じて、委員長が、これを招集する。

2 委員長は、7日前までに、会議開催の日時、場所及び議題を委員に通知しなければならない。

第4条 協議会の会議は、在任委員の半数以上が出席しなければ、これを開くことができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決する。ただし、可否同数の時は、委員長が決する。

第5条 この規則に定めるもののほか、会議について必要な事項は、図書館長が、別にこれを定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

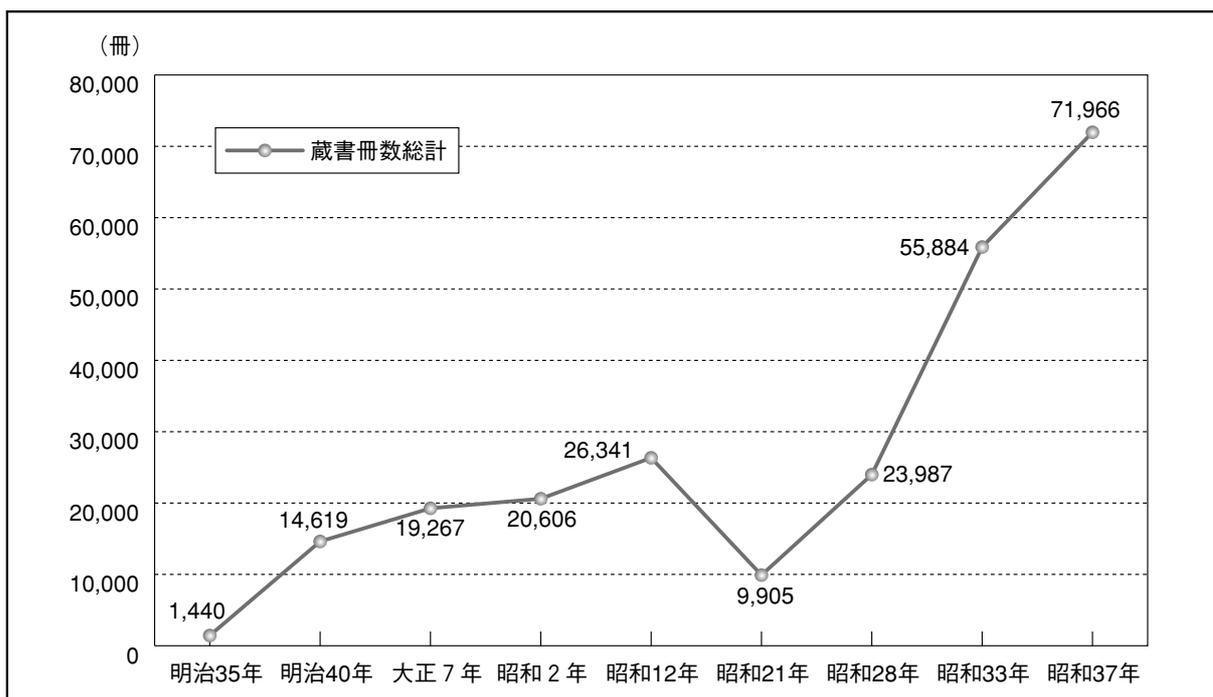
附 則 [平成7・1・17・教育委員会規則第1号]

この規則は、平成7年2月1日から施行する。

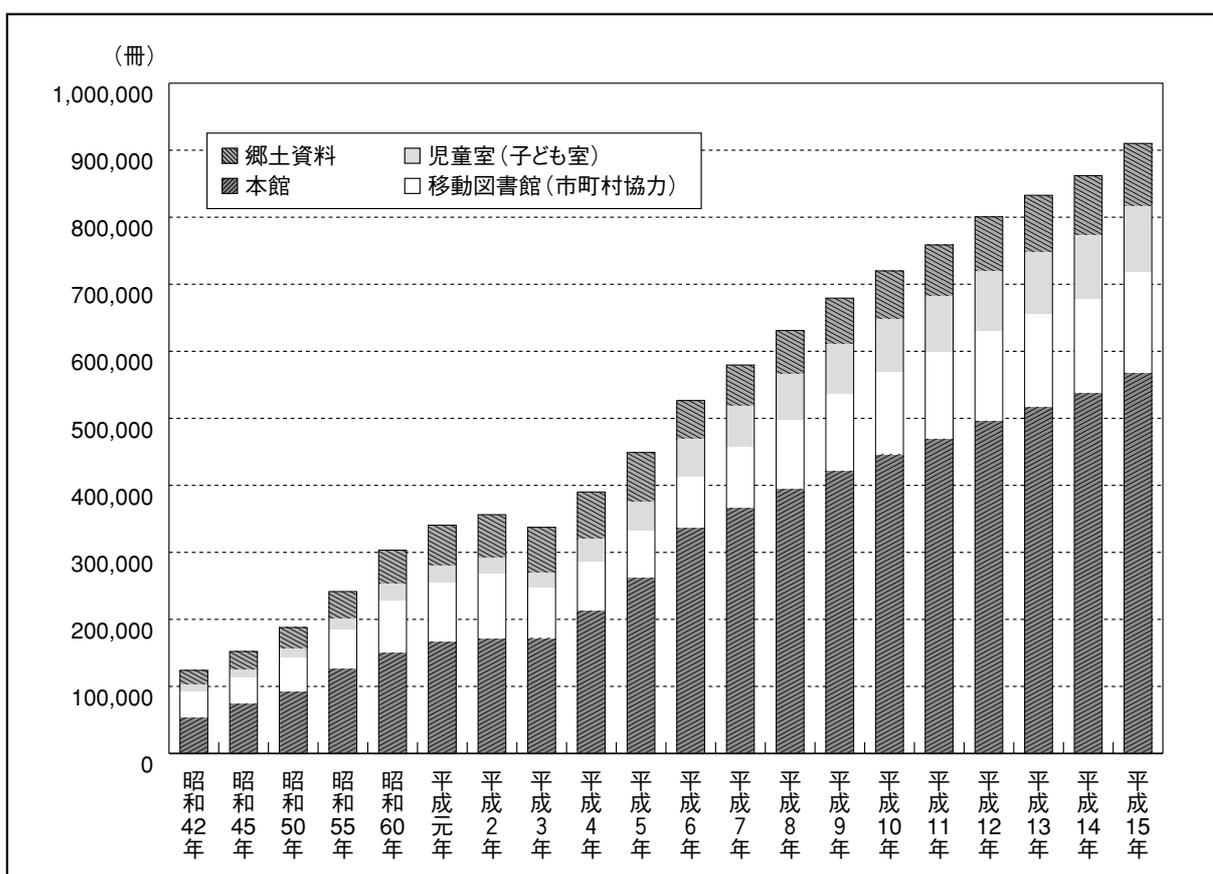
4. 蔵書数の推移

蔵書数の推移をグラフに表した。荷揚町に移転した昭和41年を境に2図に分けた。これは、それ以前とそれ以後ではその単位が大きく違うからである。1図からは、戦災で疎開に間に合わなかった資料が灰燼に帰し半分以下になったこと、2図からは、荷揚町に開館以後着実に蔵書数を伸ばし、駄原に移転後は飛躍的にその数を増やしてきていることがわかる。

1 図



2 図

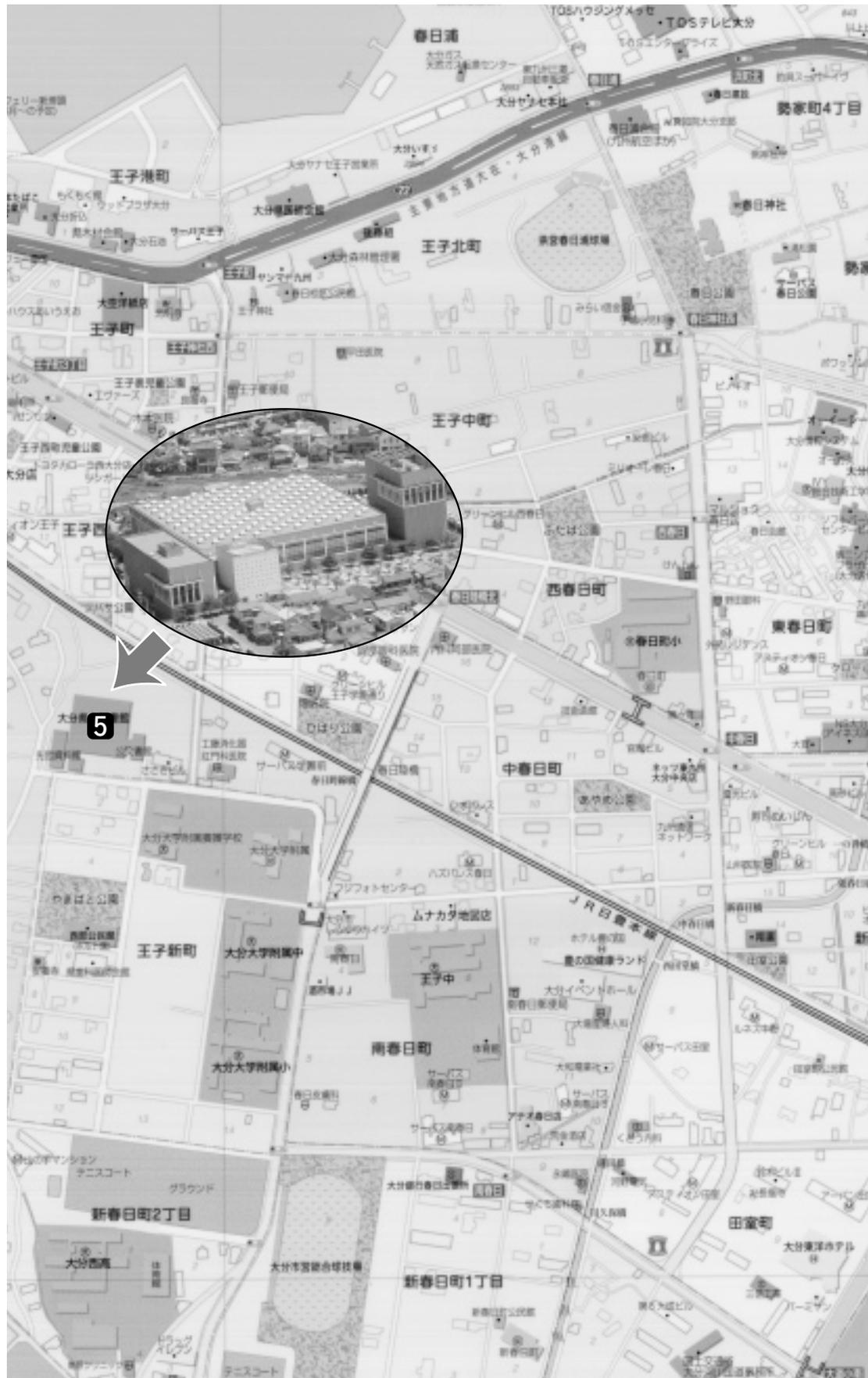


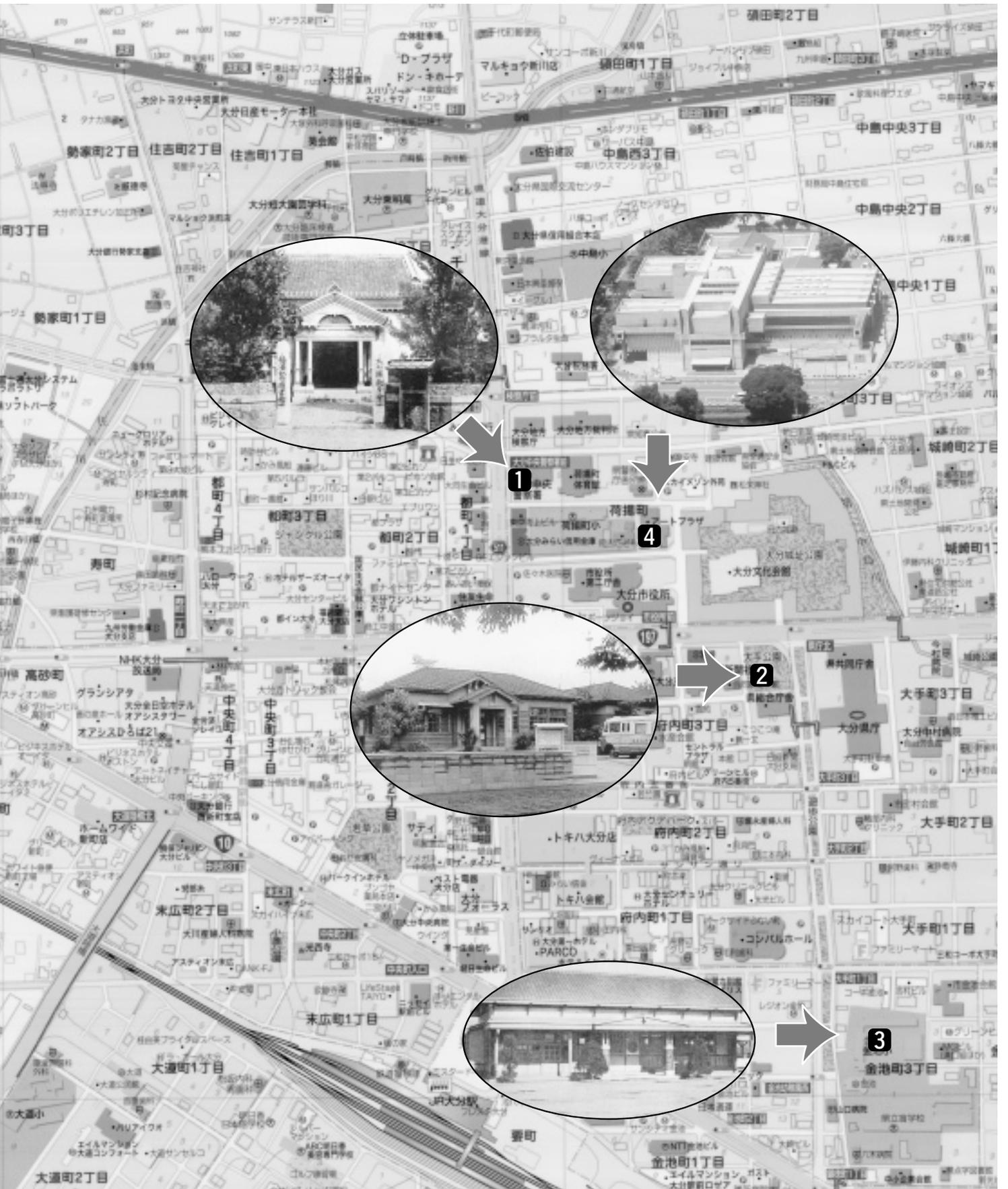
5. 施設の変遷

(1) 所在地の変遷

- ①明治35年～大正9年
大分県共立教育会附属
大分図書館（～明治37年）
大分県共立教育会附属
福沢記念図書館（明治37年～）
（現 大分中央警察署付近）
- ②大正10年～昭和20年
昭和23年～昭和41年
大分県共立教育会附属
福沢記念図書館（～昭和6年）
大分県立
大分図書館（昭和6年～）
（現 大分県総合庁舎付近）
- ③昭和20年～昭和23年
大分県立大分図書館
（現 大分市金池小学校の一角）
- ④昭和41年～平成7年
大分県立大分図書館
（現 アートプラザ）
- ⑤平成7年～
大分県立図書館
（大分市大字駄原587番地の1）

注 地名・番地は平成17年2月現在のもの。

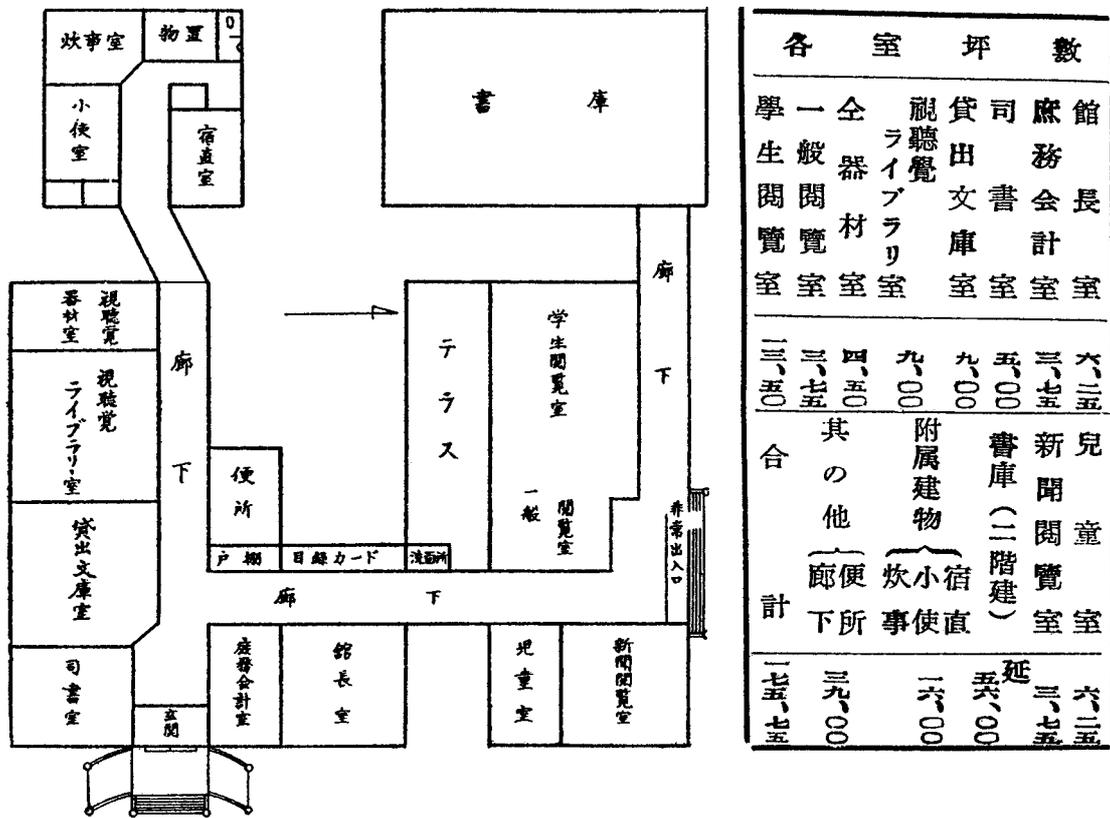




(「6,000マップ大分市西部」より)

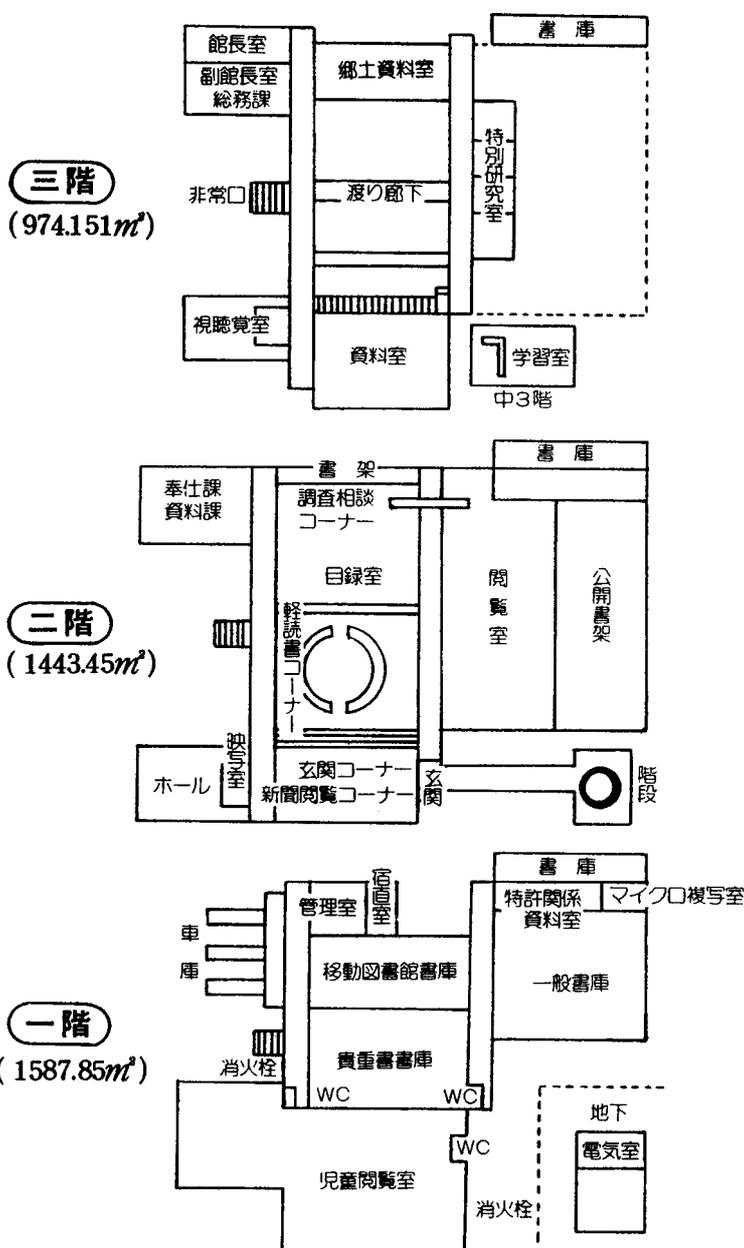
(2) 荷揚町（現在の府内町）旧館

名 称	大分県立大分図書館
所 在 地	大分県大分市荷揚町 1 番地（現在の大分市府内町 3 丁目10番 1 号）
竣 工 年 月	昭和24年 3 月
構 造	平屋（書庫のみ 2 階建て）
敷 地 面 積	175.75坪



(3) 荷揚町新館

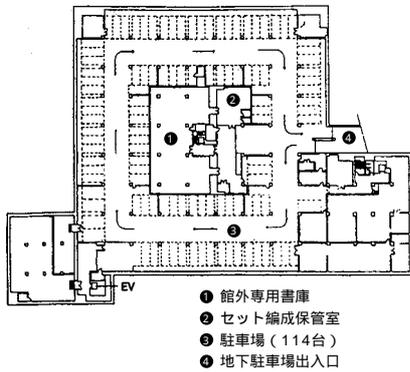
名 称	大分県立大分図書館
所 在 地	大分県大分市荷揚町 3 番31号
開 館 年 月	昭和41年 7 月
構 造	鉄筋コンクリート 地下1階、地上3階
敷地面積	3,023.40㎡
建築面積	1,587.85㎡
延床面積	4,632.05㎡
総工費	232,679千円



(4) 豊の国情報ライブラリー（大分県立図書館、大分県公文書館、大分県立先哲史料館）

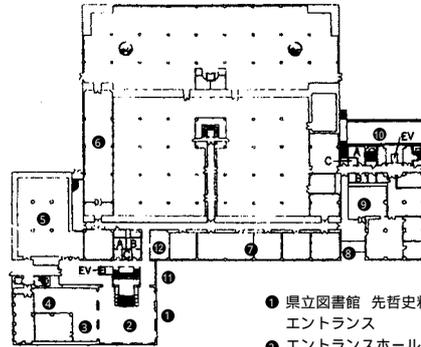
名 称	豊の国情報ライブラリー（大分県立図書館、大分県公文書館、大分県立先哲史料館の三館併設）
所 在 地	大分県大分市大字駄原587番地の1
開館年月	平成7年2月
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート（一部鉄筋コンクリート）地下1階、地上6階
敷地面積	15,410.15㎡
建築面積	6,669.24㎡
延床面積	23,002.22㎡（図書館占有部分 11,141.81㎡）
総工費	13,653,031千円

B1F平面図



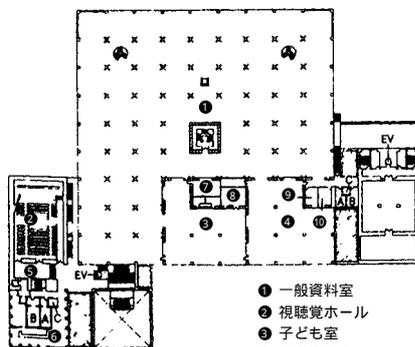
- ① 館外専用書庫
- ② セット編成保管室
- ③ 駐車場（114台）
- ④ 地下駐車場出入口

1F平面図



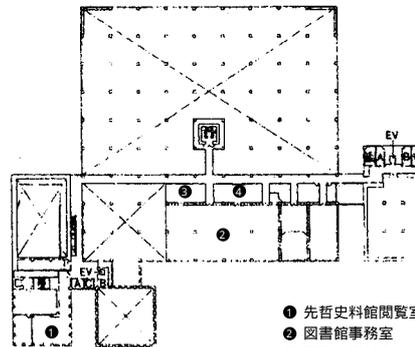
- ① 県立図書館 先哲史料館
エントランス
- ② エントランスホール
- ③ ロビー
- ④ 県勢情報コーナー
- ⑤ 先哲史料館展示室
- ⑥ 学習室
- ⑦ 研修室（1、2、3、4、5、6）
- ⑧ 公文書館エントランス
- ⑨ 公文書館閲覧室
- ⑩ 地下駐車場入口
- ⑪ ブックポスト
- ⑫ ロッカールーム

2F平面図



- ① 一般資料室
- ② 視聴覚ホール
- ③ 子ども室
- ④ 郷土資料室
- ⑤ ホワイエ
- ⑥ 喫茶室
- ⑦ 子どもの本資料室
- ⑧ おはなしのへや
- ⑨ 特別閲覧室
- ⑩ 対面朗読室

3F平面図



- ① 先哲史料館閲覧室
- ② 図書館事務室
- ③ 図書館資料室
- ④ 電算機室

EV...エレベーター
A...男子トイレ
B...女子トイレ
C...身障者用トイレ

6. 県立図書館協議会委員一覧

氏名	役職名	任期
南里俊策	大分合同新聞社取締役主筆	平成5.6.26～7.6.25
岡部観栄	大分県PTA連合会会長	平成5.6.26～7.6.25
佐藤允昭	別府大学附属図書館事務部長	平成5.6.26～7.6.25
西村武人	元別府市立図書館長	平成5.6.26～7.6.25
尾渡達雄	日本文理大学商経学部教授	平成5.11.28～7.11.27
津田露	大分県明るい選挙推進運動協議会委員	平成5.11.28～7.11.27
足立宜良	大分大学附属図書館長	平成5.11.28～7.11.27
高橋寿満	大分県読書グループ連絡協議会長	平成6.3.24～8.3.23
森永徹	大分市立春日町小学校長	平成6.6.26～8.6.25
定宗仁	大分県立大分東高等学校長	平成7.6.26～9.6.25
岩本一雄	大分放送報道制作局報道部副部長	平成7.6.26～9.6.25
安達照彦	大分市立明野西小学校長	平成7.6.26～11.6.25
平松徹夫	大分県子ども会育成会連絡協議会長	平成7.6.26～15.7.8
原俊子	大宣企画部長	平成7.6.26～15.7.8
後藤惣一	大分県子どもの本研究会長	平成7.6.26～17.7.8
黒井辰昭	大分大学教育学部教授	平成7.11.28～9.11.27
佐藤瑠威	別府大学文学部教授	平成7.11.28～9.11.27
由佐康子	別府大学短期大学部非常勤講師	平成7.11.28～13.11.27
鈴城美代子	ガールスカウト日本連盟大分県支部長	平成8.3.24～12.3.23
波多野泰男	大分県立碩南高等学校長	平成9.6.26～11.6.25
三浦尚	テレビ大分報道制作局報道部長	平成9.6.26～13.7.8
深道春男	大分大学附属図書館長	平成9.11.28～11.11.27
宮本高志	前大分県立図書館長	平成9.11.28～15.11.27
石川賢	大分県立芸術文化短期大学附属緑丘高等学校副校長	平成10.6.26～11.6.25
野崎敏雄	大分市立宗方小学校長	平成10.6.26～12.6.25
川口順治	大分県立佐賀関高等学校長	平成11.7.9～13.7.8
森山禎子	ガールスカウト日本連盟大分県支部長	平成11.7.9～15.7.8
岡田英彦	大分大学附属図書館長	平成11.11.28～13.11.27
村上浩司	大分市立植田東中学校長	平成12.6.26～16.6.25
秦強一	大分県立碩信高等学校長	平成13.7.9～15.7.8
狭間久	大分合同新聞社論説委員長	平成13.7.9～17.7.8
佐藤新治	大分大学附属図書館長	平成13.11.28～15.11.27
内藤三枝子	大分銀行社会貢献室長	平成13.11.28～17.11.27
中村章徳	大分県立大分豊府高等学校長	平成15.7.9～17.7.8
葛西満里子	NPO法人緑の工房ななぐらす代表	平成15.7.9～17.7.8
嶋尾利夫	大分県公民館連合会副会長	平成15.7.9～17.7.8
丹生和美	知的障害者福祉工場「ウインド」施設長	平成15.7.9～17.7.8
大羽宏一	大分大学附属図書館長	平成15.11.28～17.11.27
桑野和泉	由布院玉の湯社長	平成15.11.28～17.11.27

※図書館法第14条、大分県立図書館協議会条例第1条の規定により設置。定員10名。任期2年。駄原新館の開館時期（平成7年2月）の任期から掲載。役職名は任期当時のもの。

7. 県立図書館主要刊行物一覧

	書名	刊行年月
1	大分県立大分図書館要覧 創立五十周年記念	昭和28. 2
2	大分県立大分図書館所蔵郷土資料目録 昭和37年 3月現在	昭和37. 3
3	新館に備えたい基本・参考図書目録	昭和40. 2
4	大分県立大分図書館増加図書目録 第1号 (1964年 1月～12月)	昭和40. 2
5	「開館一年」の歩み	昭和42. 7
6	大分県立大分図書館所蔵教科書目録 昭和44年 1月現在	昭和44. 3
7	大分県立大分図書館所蔵大分県行政資料目録 昭和44年 1月現在	昭和44. 3
8	大分県立大分図書館所蔵郷土資料増加目録 自昭和37年 4月至昭和43年 3月	昭和45. 3
9	移動図書館シリーズ 第1集 読書会運営の手びき	昭和45. 12
10	移動図書館シリーズ 第2集 読書会活動事例	昭和47. 5
11	移動図書館シリーズ 第3集 公民館図書館の概況と今後の方向	昭和49. 4
12	大分県立大分図書館所蔵郷土資料目録 文書・記録の部 昭和53年 3月現在	昭和53. 3
13	大分県立大分図書館所蔵大分県行政資料目録 第2集	昭和54. 1
14	大分県郷土資料所在調査目録 近世史料の部 第1輯	昭和54. 2
15	大分県郷土資料所在調査目録 近世史料の部 第2輯	昭和54. 12
16	大分県明治期行政文書件名目録 神社の部	昭和54. 12
17	大分県立大分図書館蔵書目録 第1巻～第8巻	昭和56. 3～昭和63. 3
18	子どものえらんだおすすめの本	昭和59. 5
19	野上彌生子先生をしのぶ読書感想文コンクール入選作品集	昭和60. 11
20	野上彌生子先生をしのぶ	昭和60. 12
21	野上彌生子賞読書感想文コンクール入選作品集	昭和61、62年度
22	野上彌生子賞読書感想文全国コンクール入選作品集	昭和63～平成13年度
23	大分県立大分図書館所蔵田北家文書目録 平成元年 3月現在	平成元. 3
24	大分県立大分図書館増加図書目録 第1巻	平成2. 3
25	レファレンス事例集一図書館を身近に一	平成8. 3
26	平成7年度野外学習講座事業実施報告書 生活原点探究講座	平成8. 3
27	あなたのまちに“あなたの図書館”を	平成8. 3
28	平成8年度野外学習講座事業実施報告書 温泉学探究講座	平成9. 3
29	平成9年度野外学習講座事業実施報告書 山びこを聞きながら	平成10. 3
30	瀬戸内海に関する図書 総合目録 キリシタン関係資料の部	平成11. 3
31	介護保険関係資料目録	平成11. 7
32	地方自治資料BOOKSガイド	平成12. 4～平成16. 3
33	たのしい子育てBOOKSガイド	平成12. 7
34	サッカーがおもしろくなるBOOKSガイド	平成13. 2
35	ボランティアBOOKSガイド	平成13. 9
36	大分県内専門機関案内	平成14. 3
37	子ども文庫・読み聞かせグループ交流会名簿	平成14. 12
38	野上彌生子賞読書感想文全国コンクール記念号入賞作品集	平成15. 2
39	調べものBOOKSガイド	平成15. 3
40	野上彌生子賞読書感想文全国コンクール講演集	平成15. 3
41	ビジネス支援BOOKSガイド	平成16. 1
42	第1回読書感想文コンクール「大分県先覚者に学ぶ」入選作品集	平成16. 3
43	ようこそ！ 絵本の世界へ	平成16. 11

※平成11年度刊行開始した『地方自治資料BOOKSガイド』は平成16年度より大分県庁e-officeシステム送信に切り替え。

8. 読書感想文コンクール入賞者一覧（最優秀賞受賞者名）

昭和52年度～平成16年度

*昭和42～51年度（1967～1976）に行った「親子読書感想文コンクール」は最優秀賞を設定していなかったため、割愛した。

読書感想文コンクール

昭和52年度（1977）	書評の部 読書体験文の部	橋本 邦雄 安達 郁雄	大分市 別府市
昭和53年度（1978）	書評の部 読書体験文の部	牧 章 後藤 宗俊	竹田市 大分市
昭和54年度（1979）	心に残る一冊の本—私の読書体験— 子どもの読書に関する私の考え方	栗林いつ子 岡野 弘子	庄内町 国東町
昭和55年度（1980）	心に残る一冊の本—私の読書体験— 子どもの読書に関する私の考え方	藤本 敬子 吉野ゆり子	中津市 別府市
昭和56年度（1981）	心に残る一冊の本—私の読書体験— 子どもの読書に関する私の考え方	二階堂智査子 増田久美子	杵築市 大分市
昭和57年度（1982）	心に残る一冊の本—私の読書体験— 子どもの読書に関する私の考え方	稲生 雅子 吉原 教子	佐賀関町 豊後高田市
昭和58年度（1983）	心に残る一冊の本—私の読書体験— 子どもの読書に関する私の考え方	安達 信子 安達 郁雄	杵築市 別府市
昭和59年度（1984）	私の読書体験 子どもの読書に関する私の考え方	赤峰 瑞代 安部美智恵	三重町 豊後高田市

野上彌生子先生をしのぶ読書感想文コンクール

昭和60年度（1985）	高等学校の部 成人の部	平瀬 健治 奥田 文子	大分上野丘高等学校 大分市
--------------	----------------	----------------	------------------

野上彌生子賞読書感想文コンクール

昭和61年度（1986）	中学校の部 高等学校の部 成人の部	佐用智恵美 山下 文代 藤沢紀美子	三重町立三重中学校 国東高等学校 大分市
昭和62年度（1987）	中学校の部 高等学校の部 成人の部	広岡真由美 大木千佳子 久保田栄子	三重町立三重中学校 中津南高等学校 三重町

野上彌生子賞読書感想文全国コンクール

昭和63年度（1988）	中学生の部 高校生の部 一般の部	松本和歌子 上野 幾代 高柳 淳	福島県 別府鶴見丘高等学校 愛知県
平成元年度（1989）	中学生の部 高校生の部 一般の部	三浦 友紀 山田 直彦 蟻川昭二郎	庄内町立庄内中学校 別府羽室台高等学校 神奈川県
平成2年度（1990）	中学生の部 高校生の部 一般の部	三好 尚子 山田 直彦 布田日斗美	北海道 別府羽室台高等学校 秋田県

平成3年度(1991)	中学生の部 高校生の部 一般の部	相野 悠子 加藤 雅野 菅 章	大分市立南大分中学校 別府羽室台高等学校 大分市
平成4年度(1992)	中学生の部 高校生の部 一般の部	高木美奈子 永田真裕子 今野さなへ	大分市立南大分中学校 大分上野丘高等学校 神奈川県
平成5年度(1993)	中学生の部 高校生の部 一般の部	後藤 恭子 北野 裕子 小山さゆり	緒方町立緒方中学校 東京都 群馬県
平成6年度(1994)	中学生の部 高校生の部 一般の部	梶原美沙世 相野 悠子 井川 実	大分市立植田西中学校 大分豊府高等学校 東京都
平成7年度(1995)	中学生の部 高校生の部 一般の部	佐藤 弘志 堀 沙弥香 去来川正明	大分市立鶴崎中学校 大分上野丘高等学校 群馬県
平成8年度(1996)	中学生の部 高校生の部 一般の部	上尾 香織 小俣日登美 河崎 克	臼杵市立東中学校 東京都 大分市
平成9年度(1997)	中学生の部 高校生の部 一般の部	三浦 志保 若栗ひとみ 野島 恭一	大分大学附属中学校 富山県 静岡県
平成10年度(1998)	中学生の部 高校生の部 一般の部	庭野 綾加 戸塚 学 山本誉里子	大分大学附属中学校 静岡県 東京都
平成11年度(1999)	中学生の部 高校生の部 一般の部	後田ひろえ 武田 裕藝 天野由輝子	三光村立三光中学校 東京都 埼玉県
平成12年度(2000)	中学生の部 高校生の部 一般の部	森 祥子 山崎 舞子 根本 騎兄	玖珠町立北山田中学校 大分南高等学校 東京都
平成13年度(2001)	中学生の部 高校生の部 一般の部	仲辻 真帆 山崎 舞子 江藤由美子	奈良県 大分南高等学校 野津町
平成14年度(2002)	中学生の部 高校生の部 一般の部	稲住麻梨香 小坂 由紀 三宅 聡子	東京都 臼杵高等学校 大分市

読書感想文コンクール「大分県先覚者に学ぶ」

平成15年度(2003)	小学生の部 中学生の部 高校生の部	橋本 由季 日吉 将太 陶山 竜規	安岐小学校 岩田中学校 大分舞鶴高等学校
平成16年度(2004)	小学生の部 中学生の部 高校生の部	尾桐 優萌 日吉 将太 山崎由貴子	安岐小学校 岩田中学校 大分南高等学校

9. 公立図書館等職員研修会

年度	コース	実施回数	内 容 等	県外講師	参加人数(延べ)
平成9年 (1997)	全体会	2回	大分県における生涯学習の推進、県の図書館ネットワーク、図書館サービスの質	小田 光宏	99名
	基 礎	2回	市町村立図書館、図書館・児童サービス資料選択と蔵書構成、レファレンス入門 等	宇土 行良	58名
	専 門	2回	読み聞かせと紙芝居(実習)、図書館の著作権、郷土資料、レファレンス(実習)	黒澤 節男	56名
平成10年 (1998)	全体会	2回	生涯学習について、図書館づくりと運営、図書館の必要性と図書館職員の役割	増田 浩次 薬袋 秀樹	84名
	基 礎	2回	図書館概論、県立の市町村支援、本の補修・修理、児童サービス、レファレンス 等		67名
	専 門	2回	企画・広報、レファレンス(演習)、読み聞かせとストーリーテリング、図書館の著作権	黒澤 節男	81名
平成11年 (1999)	全体会	2回	全県サービスの展望、ネットワーク時代の図書館と職員、本の森を目指して 等	高山 正也	94名
	基 礎	2回	図書館概論、資料組織、レファレンス、出版流通のしくみ、外国人利用者と英語 等	尾下 千秋	69名
	専 門	2回	電子メディアと著作権、児童サービス、郷土資料、パソコン研修・情報検索演習	北原 囿彦	48名
平成12年 (2000)	全体会	2回	生涯学習時代の図書館、図書館ネットワーク、施設・街づくり、現状と展望 等	雨森 弘行	115名
	基 礎	2回	市町村支援、接遇、絵本の製作、図書館職員に望まれるもの、生涯学習概論 等	富原 智一	87名
	専 門	2回	インターネットを活用した広報の実際、絵本の製作、図書館経営論		72名
平成13年 (2001)	全体会	2回	図書館ネットワークの確立、市町村図書館～NPO活動、学校図書館との連携 等	小林 是綱 五味 和代	127名
	基 礎	2回	図書館・児童サービスの基礎、人権配慮、協力貸出、選書、図書館広報誌の作成		86名
	専 門	2回	ホームページ活用の広報、インターネット活用のレファレンス、郷土資料、資料補修	小田 光宏	104名
平成14年 (2002)		5回	IT時代・地方分権時代の図書館、図書館・児童サービスの基礎、県立と市町村図書館の連携協力、インターネット活用術・レファレンスサービス、総合的な学習と図書館の役割、図書館経営、ブックトーク 等	大串 夏身 小田 光宏 伊藤 昭治 北畑 博子	293名
平成15年 (2003)	全体会	2回	図書館のこれからのサービス、広報誌の作成、支持される図書館・イベント企画 等	常世田 良 渡部 幹雄	123名
	基 礎	1回	図書館サービスのあり方、図書館における児童サービスのあり方 等		52名
	専 門	2回	インターネットレファレンス、市町村合併の南アルプス市立図書館、地域史料 等	齋藤 誠一 齋藤 早苗	110名
平成16年 (2004)		6回	公立図書館と児童サービス、体験的司書論、レファレンス演習 等	中多 泰子 才津原哲弘 宇土 行良	

10. 組織及び職員

元号	館長	副館長	職員							
昭和6年度	石橋 豊徳		長峯崇仁	原 昂	恒本言雄					
昭和7年度	向井 新		長峯崇仁	原 昂	利光 保					
昭和8年度	向井 新		長峯崇仁	原 昂	利光 保					
昭和9年度	向井 新									
昭和10年度	向井 新		長峯崇仁	原 昂	利光 保	恒本正雄				
昭和11年度	加藤 清		長峯崇仁	高橋義雄	利光 保	恒本正雄				
昭和12年度	沢田 勝次		高橋義雄	社藤直人	恒本正雄	友成武男				
昭和13年度	松阪富之助		高橋義雄	河野直人	恒本正雄					
昭和14年度	松阪富之助		河野直人	衛藤弘治	佐藤 満					
昭和15年度	小川 直									
昭和16年度	小川 直		大平 登	工藤 泰	玉井寅雄	惟住 敬				
昭和17年度	小川 直									
昭和18年度	小川 直		大平 登	工藤 泰	惟住 敬	廣末利明				
昭和19年度	小川 直									
昭和20年度	山室 寿		甲斐久夫	森 秀夫						
昭和21年度	山室 寿									
昭和22年度	山室 寿									
昭和23年度	山室 寿									
昭和24年度	山室 寿									
昭和25年度	広中益次郎		園田 仁	平田信太郎	稲益和子	丹生松男	油布洋一	安部 清	神波スガ	中村タキ
昭和26年度	友成大之丸		平田信太郎	園田 仁	三浦俊一郎	佐藤和子	油布洋一	丹生松男	神波スガ	松尾則男 中村タキ
昭和27年度	友成大之丸		杉原共之	園田 仁	佐藤和子	平田信太郎	神波スガ	丹生松男	油布洋一	松尾則男 中村タキ
昭和28年度	友成大之丸		総務係・整理係・奉仕係・外国資料室・視聴覚ライブラリー 安東不二郎 江藤敬止 中村タキ 園田 仁 松崎辰子 有田節子 清田俊弘 佐藤和子 高橋文夫 神波スガ 松尾則男 油布洋一 木下武雄 稲葉シズエ 松木正光 安東 昭							
昭和29年度	友成大之丸		坂本信彦 松尾則男	羽田野忠雄 油布洋一	園田 仁 安東 昭	安東不二郎 江藤敬止	佐藤和子 中村タキ	高橋文夫 有田節子	神波スガ	松崎辰子 姫野又男
昭和30年度	友成大之丸		坂本信彦 松尾則男	羽田野忠雄 首藤雄一	園田 仁 安東 昭	安東不二郎 脇 克明	佐藤和子 江藤敬止	高橋文夫 河村晴夫	神波スガ 有田節子	松崎辰子 油布洋一
昭和31年度	坂本 信彦	城内忠一郎	庶務係・奉仕係・整理係・外国資料室 安東不二郎 江藤敬止 河村時夫 園田 仁 脇 克明 神波スガ			安東 昭 油布辰子	赤嶺允彦 首藤雄一	佐藤和子 有田節子	高橋文夫	松尾則男 竹内政則
昭和32年度	坂本 信彦	城内忠一郎	総務係・奉仕係・外国資料室 寺川真一 高橋文夫 油布辰子 安東 昭 江藤敬止 有田節子 松尾則男 竹内政則 土井堅太郎 首藤雄一			安東 昭 油布辰子	赤嶺允彦 首藤雄一	佐藤和子 有田節子	高橋文夫	松尾則男 竹内政則
昭和33年度	坂本 信彦	城内忠一郎	総務係・奉仕係・外国資料室係 寺川真一 成田 勝 高橋文夫 中村睦子 油布辰子 安東 昭 本田武市 園田 仁 衛藤隆一 佐藤和子 松尾則男 竹内政則 土井堅太郎 首藤雄一 山口節子			中村睦子 土井堅太郎	油布辰子 首藤雄一	安東 昭 山口節子	本田武市	園田 仁 衛藤隆一
昭和34年度	志賀 正道	城内忠一郎	総務係・奉仕第一係・奉仕第二係 東本重己 高橋文夫 中村睦子 油布辰子 安東 昭 本田武市 高山光彦 衛藤隆一 佐藤和子 竹内政則 松尾則男 土井堅太郎 土井堅太郎 首藤雄一 山口節子			中村睦子 土井堅太郎	油布辰子 首藤雄一	安東 昭 山口節子	本田武市	高山光彦 衛藤隆一 佐藤和子
昭和35年度	志賀 正道	森 武夫	総務課・奉仕第一課・奉仕第二課 小畑伴次郎 高橋文夫 中村睦子 油布辰子 本田武市 土井堅太郎 衛藤隆一 和田康夫 竹内政則 松尾則男 宇都宮正治 森 武夫 首藤雄一 山口節子			中村睦子 森 武夫	油布辰子 首藤雄一	本田武市 山口節子	土井堅太郎 衛藤隆一	和田康夫 竹内政則
昭和36年度	串田 順	小畑伴次郎	総務課・奉仕第一課・奉仕第二課 吉武輝隆 高橋文夫 中村睦子 油布辰子 松尾則男 本田武市 押垂 宏 和田康夫 竹内政則 首藤雄一 衛藤隆一 山口節子 森 武夫 城内忠一郎 土井堅太郎			中村睦子 山口節子	油布辰子 森 武夫	松尾則男 城内忠一郎	本田武市 土井堅太郎	押垂 宏 和田康夫 竹内政則
昭和37年度	串田 順									
昭和38年度	布施 順生	小畑伴次郎	総務課・奉仕第一課・奉仕第二課 吉武輝隆 武田秀信 高橋文夫 中村睦子 油布辰子 松尾則男 油布敏聰 本田武市 押垂 宏 荒金 実 大塚雄三 竹内政則 首藤雄一 衛藤隆一 堤 光子			中村睦子 首藤雄一	油布辰子 衛藤隆一	松尾則男 堤 光子	油布敏聰	本田武市 押垂 宏
昭和39年度	布施 順生	小畑伴次郎	総務課・資料課・奉仕課 吉武輝隆 中村睦子 油布敏聰 本田武市 衛藤隆一 武田秀信 高橋文夫 油布辰子 松尾則男 押垂 宏 荒金 実 大塚雄三 竹内政則 首藤雄一 堤 光子			中村睦子 油布敏聰 大塚雄三	本田武市 竹内政則	衛藤隆一 首藤雄一	武田秀信 堤 光子	高橋文夫 油布辰子 松尾則男

元号	館長	副館長	職員名							
昭和40年度	米田 貞一	床並 利教	総務課・資料課・奉仕課 吉武輝隆 中村睦子 押垂 宏 荒金 実	釘宮奈良雄 本田武市 大塚雄三 竹内政則	衛藤隆一 武田秀信 首藤雄一 堤 光子	高橋文夫 油布辰子 三重野昇 松尾則男				
昭和41年度	米田 貞一	床並 利教	総務課(庶務係・管理係) 武信一輝 松本 止 本田武市 安東 清 船津隆夫 是永俊秀 吉武輝隆 武田秀信 高山順子 安藤和子	奉仕課(館内係・館外係) 釘宮奈良雄 古原才子 津野一三 安部秀造 日名子サチ 押垂 宏 安東 博 稲垣洋三 日野広美 松木正光	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 脇 伸裕 玉井昌子 木本数一 衛藤隆一 荒金 実 赤峯重信 堤 光子 高橋文夫 河野 浩	馬場誠二 玉井昌子 和田康夫 木津真理 赤峯重信 中村睦子 堤 光子 高橋文夫 薬師寺祝子	宮崎郁子 安部信夫 和田康夫 角 久一 小村睦子 油布辰子 中村睦子 松尾則男	工藤末雄 首藤雄一 竹内政則 小野田正登		
昭和42年度	米田 貞一	床並 利教	総務課(庶務係・管理係) 武信一輝 松本 止 安東 清 津野一三 稲垣洋三 是永俊秀 吉武輝隆 武田秀信 安藤和子 日野広美	奉仕課(館内係・館外係) 竹内政則 古原才子 木本数一 衛藤隆一 押垂 宏 荒金 実 安東 博 松木正光 河野 浩	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 馬場誠二 玉井昌子 和田康夫 木津真理 赤峯重信 中村睦子 堤 光子 高橋文夫 薬師寺祝子	馬場誠二 玉井昌子 和田康夫 木津真理 赤峯重信 中村睦子 堤 光子 高橋文夫 薬師寺祝子	宮崎郁子 安部信夫 小野紀吉 高山順子 油布辰子 日名子サチ 松尾 則男 首藤 雄一	工藤末雄 船津隆夫 瀧口克之 脇 伸裕		
昭和43年度	米田 貞一	床並 利教	総務課(庶務係・管理係) 武信一輝 松本 止 安東 清 津野一三 松尾則男 木津真理 瀬尾信子 青野秀次 首藤雄一 脇 伸裕	奉仕課(館内係・館外係) 古原才子 馬場誠二 池永政一 松崎憲重 高山順子 吉武輝隆 瀧口克之 安藤和子 日野広美	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 是永俊秀 佐藤サチ 衛藤隆一 赤峯重信 船津隆夫 稲垣洋三 武田秀信 安東 博 松木正光 渡辺喜六	是永俊秀 佐藤サチ 衛藤隆一 赤峯重信 船津隆夫 稲垣洋三 武田秀信 安東 博 松木正光 渡辺喜六	宮崎郁子 安部信夫 和田康夫 中村睦子 角 久一 堤 光子 薬師寺祝子	工藤末雄 油布辰子 荒金 実 高橋文夫		
昭和44年度	米田 貞一	床並利教	総務課(庶務係・管理係) 武信一輝 武田秀信 安東 清 津野一三 油布辰子 松尾則男 本田信正 青野秀次 首藤雄一 三重野アツ子	奉仕課(館内係・館外係) 古原才子 小野紀吉 池永政一 松崎憲重 木津真理 高山順子 瀧口克之 吉武輝隆 安藤和子 松木正光	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 佐藤サチ 日野広美 衛藤隆一 大塚俊英 船津隆夫 宮崎郁子 三浦 均 安東 博 渡辺喜六 薬師寺祝子	佐藤サチ 日野広美 赤峯重信 二宮富美子 宮崎郁子 和田康夫 安東 博 太田悠一 薬師寺祝子 角 久一	安部信夫 和田康夫 荒金 実 安部哲郎	工藤末雄 中村睦子 瀬尾信子 高橋文夫		
昭和45年度	利田 正男	床並 利教	総務課(庶務係・管理係) 松崎憲重 武田秀信 工藤末雄 安東 清 油布辰子 松尾則男 青野秀次 瀧口克之 安藤和子 本田信正	奉仕課(館内係・館外係) 大塚俊英 古原才子 津野一三 池永政一 船津隆夫 高山順子 吉武輝隆 三浦 均 松木正光 渡辺喜六	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 小野紀吉 日野広美 武信一輝 衛藤隆一 船津隆夫 佐藤サチ 角 久一 安部哲郎 木津真理	小野紀吉 日野広美 武信一輝 衛藤隆一 船津隆夫 佐藤サチ 角 久一 安部哲郎 木津真理	二之宮清信 二宮富美子 和田康夫 和田康夫 安部哲郎 安部哲郎 首藤雄一 三重野アツ子	安部信夫 中村睦子 瀬尾信子 三重野アツ子		
昭和46年度	佐藤 義士	床並 利教	総務課(庶務係・管理係) 松崎憲重 松本 止 安東 清 池永政一 中村睦子 高山順子 藤本政敏 三浦 均 安藤和子 松木正光	奉仕課(館内係・館外係) 大塚俊英 古原才子 津野一三 工藤末雄 船津隆夫 佐藤サチ 赤峯重信 佐々木豊治 渡辺喜六 木津真理	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 松本輝子 日野広美 武信一輝 高橋文夫 本田信正 太田悠一 角 久一 衛藤隆一 木津真理	松本輝子 日野広美 武信一輝 高橋文夫 本田信正 太田悠一 角 久一 衛藤隆一 木津真理	二之宮清信 安部信夫 松尾則男 首藤雄一 安部哲郎 山崎義雄 薬師寺祝子 三重野アツ子	安部信夫 首藤雄一 山崎義雄 三重野アツ子		
昭和47年度	佐藤 義士	安部 直	総務課(庶務係・管理係) 松崎憲重 木寺次郎 安東 清 池永政一 中村睦子 高山順子 藤本政敏 三浦 均 三重野アツ子 渡辺喜六	奉仕課(館内係・館外係) 大塚俊英 古原才子 津野一三 工藤末雄 船津隆夫 佐藤サチ 赤峯重信 友末昭一 木津真理 川村富生	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 本田信正 日野広美 武信一輝 高橋文夫 安東明美 太田悠一 安藤和子 衛藤隆一	本田信正 日野広美 武信一輝 高橋文夫 安東明美 太田悠一 安藤和子 衛藤隆一	二之宮清信 安部規子 和田康夫 松尾則男 油布辰子 安部哲郎 角 久一 瀬尾信子	安部信夫 首藤雄一 山崎義雄 薬師寺祝子		
昭和48年度	佐藤 義士	安部 直	総務課(庶務係・管理係) 松崎憲重 徳丸欽也 安東 清 池永政一 船津隆夫 三重野アツ子 広瀬良博 三浦 均 渡辺喜六 中川英二	奉仕課(館内係・館外係・調査相談係) 大塚俊英 古原才子 津野一三 工藤末雄 安東明美 太田悠一 赤峯重信 松尾則男 木津真理 安部哲郎	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 首藤 聰 日野広美 藤本政敏 高橋文夫 油布辰子 川村富生 安藤和子 衛藤隆一	首藤 聰 日野広美 藤本政敏 高橋文夫 油布辰子 川村富生 安藤和子 衛藤隆一	二之宮清信 安部規子 首藤雄一 薬師寺祝子 山崎義雄 和田康夫 角 久一 瀬尾信子	安部信夫 高山順子 中村睦子 佐藤サチ		
昭和49年度	佐藤 義士	安部 直	総務課(庶務係・管理係) 多田文礼 徳丸欽也 二之宮清信 工藤末雄 船津隆夫 三重野アツ子 衛藤隆一 三浦 均 安部哲郎 日野広美	奉仕課(館内係・館外係・調査相談係) 古原才子 安東明美 藤本政敏 高橋文夫 太田悠一 油布辰子 赤峯重信 松尾則男 中川英二	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 安部規子 姫野又男 中村睦子 首藤雄一 川村富生 山崎義雄 安藤和子 角 久一	安部規子 姫野又男 中村睦子 首藤雄一 川村富生 山崎義雄 安藤和子 角 久一	安東 清 池永政一 木津真理 薬師寺祝子 和田康夫 安東久幸 瀬尾信子 佐藤サチ	津野一三 高山順子 広瀬良博 渡辺喜六		
昭和50年度	矢野 朔雄	安部 直	総務課(庶務係・管理係) 多田文礼 真路経雄 二之宮清信 工藤末雄 三重野アツ子 武田秀信 三浦 均 赤峯重信 日野広美 中川英二	奉仕課(館内係・館外係・調査相談係) 古原才子 永山忠孝 押垂 宏 高橋文夫 油布辰子 木津真理 松尾則男 安藤和子	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 安東明美 姫野又男 中村睦子 瀬尾信子 山崎義雄 和田康夫 角 久一 姫野守正	安東明美 姫野又男 中村睦子 瀬尾信子 山崎義雄 和田康夫 角 久一 姫野守正	安東 清 池永政一 瀬尾信子 高山順子 相葉 慧 広瀬良博 佐藤サチ 渡辺喜六	津野一三 船津隆夫 衛藤隆一 安部哲郎		
昭和51年度	矢野 朔雄	山口 修一	総務課(庶務係・管理係) 佐田 譲 橋本淳一 工藤末雄 押垂 宏 橋本讓司 武田秀信 梅津道貫 角 久一 安部哲郎 日野広美	奉仕課(館内係・館外係・調査相談係) 古原才子 永山忠孝 高橋文夫 油布辰子 松尾則男 二之宮清信 赤峯重信 安藤和子	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 安東明美 姫野又男 薬師寺祝子 瀬尾信子 山崎義雄 和田康夫 中村睦子 角 久一	安東明美 姫野又男 薬師寺祝子 瀬尾信子 山崎義雄 和田康夫 中村睦子 角 久一	安東 清 池永政一 高山順子 船津隆夫 相葉 慧 広瀬良博 佐藤サチ 渡辺喜六	津野一三 三重野アツ子 衛藤隆一 中川英二		
昭和52年度	成田 勝	小代 幸生	総務課(庶務係・管理係) 丸小野邦彦 佐田 譲 池永政一 津野一三 三重野アツ子 武田秀信 梅津道貫 角 久一	奉仕課(館内係・館外係・調査相談係) 橋本淳一 古原才子 押垂 宏 高橋文夫 松尾則男 二之宮清信 安藤和子 赤峯重信	資料課(資料係・整理係・視聴覚係) 永山忠孝 安東明美 高橋文夫 油布辰子 二之宮清信 山崎義雄 赤峯重信 中村睦子	永山忠孝 安東明美 高橋文夫 油布辰子 二之宮清信 山崎義雄 赤峯重信 中村睦子	安東明美 姫野又男 薬師寺祝子 瀬尾信子 和田康夫 相葉 慧 高山順子 渡辺喜六	工藤末雄 船津隆夫 衛藤隆一 姫野守正	安東 清 佐藤サチ 三重野元 日野広美	

元号	館長	副館長	職員名
平成5年度	河野 昭夫	日野 正美	総務課(庶務係・企画管理係) 奉仕課(館内係・館外係・調査相談係) 資料課(整理係・資料係) 重松完一 江藤義雄 小野邦夫 岩坂邦子 上條年明 竹内 進 中村佐市 植田秀朗 樺木晋一郎 猪原孝人 三重野アツ子 三原亜紀 田原広信 日野広美 渡辺能孝 後藤秀一 安藤和子 船津隆夫 萱島香苗 瀬尾信子 佐藤サチ 佐藤英子 長野芳子 梅田潤子 吉良洋一 岩男健二 池田キミ子
平成6年度	宮本 高志	田中 謙吉	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 重松完一 江藤義雄 宮崎則夫 岩坂邦子 川辺達也 松永 清 竹内 進 猪原孝人 清水秀夫 青木 磨 後藤秀一 長野義隆 日野富雄 安藤和子 梅田潤子 富高徳己 矢田啓治 日野広美 佐藤サチ 三原亜紀 山田泰義 佐藤英子 瀬尾信子 三重野アツ子 萱島香苗 長野芳子 吉良洋一 船津隆夫 岩男健二 池田キミ子
平成7年度	宮本 高志	上村 作郎 木原 和親	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 古賀二郎 宮崎則夫 岩坂邦子 川辺達也 竹内 進 小野貞幸 矢田啓治 青木 磨 山本勝通 後藤秀一 日野富雄 安藤和子 宮本春枝 長野義隆 梅田潤子 宗 千晶 佐藤サチ 立川由美 佐藤英子 三ヶ尻政人 渡辺善吾 三重野アツ子 長野芳子 吉良洋一 萱島香苗 後藤八重子
平成8年度	宮本 高志	上村 作郎 木原 和親	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 古賀二郎 宮崎則夫 川辺達也 千葉美恵子 竹内 進 小野貞幸 矢田啓治 戸田 誠 山本勝通 後藤秀一 金子 齊 佐藤サチ 長野義隆 梅田潤子 片山美香 宗 千晶 三ヶ尻政人 立川由美 佐藤英子 増本貴光 渡辺善吾 三重野アツ子 長野芳子 吉良洋一 田島貞子 後藤八重子
平成9年度	上村 作郎	今井 義人	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 衛藤平八 熊野良一 川辺達也 千葉美恵子 竹内 進 小野貞幸 松下清高 戸田 誠 山本勝通 後藤秀一 金子 齊 佐藤サチ 西沢 淳 梅田潤子 片山美香 宗 千晶 渡辺孝輝 立川由美 佐藤英子 増本貴光 渡辺善吾 三重野アツ子 長野芳子 吉良洋一 田島貞子 後藤八重子
平成10年度	上村 作郎	丸尾 輝彦	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 衛藤平八 小倉幸子 長尾真也 千葉美恵子 竹内 進 小野貞幸 松下清高 片山美香 山本勝通 増本貴光 麻生祐治 佐藤サチ 西沢 淳 小野永子 戸田 誠 宗 千晶 渡辺孝輝 辻さやか 本田信正 後藤秀一 渡辺善吾 三重野アツ子 長野芳子 吉良洋一 梅田潤子 辛島啓子
平成11年度	西来路秀彦	丸尾 輝彦	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 姫野守正 山崎敏昌 小倉幸子 長尾真也 板尾富美子 竹内 進 姫野綾子 片山美香 山本勝通 増本貴光 麻生祐治 佐藤サチ 高原志朗 小野永子 立川由美 田島貞子 徳谷晃一 辻さやか 本田信正 後藤秀一 瀧上福次 三重野アツ子 長野芳子 吉良洋一 梅田潤子 辛島啓子
平成12年度	西来路秀彦	小野 倉吉	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 姫野守正 吉野健士 一宮美和子 長尾真也 板尾富美子 竹内 進 姫野綾子 山崎徹朗 山本勝通 小野永子 河野三樹 佐藤サチ 高原志朗 後藤秀一 片山美香 田島貞子 星名公正 辻さやか 本田信正 増本貴光 瀧上福次 吉良洋一 三重野アツ子 立川由美 梅田潤子 辛島啓子
平成13年度	高山 直也	姫野 守正	総務課(庶務係・管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 吉良洋一 山内美徳 萱嶋朋子 一宮美和子 山田和寿 小宮富美子 竹内 進 姫野綾子 宗 千晶 山本勝通 高原志朗 河野三樹 後藤秀一 佐藤英子 片山美香 田島貞子 佐藤サチ 辻さやか 本田信正 星名公正 増本貴光 橋本安義 三重野アツ子 立川由美 梅田潤子 松本輝子
平成14年度	高山 直也	金子 齊	総務課(管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 萱嶋朋子 一宮美和子 平田富美子 竹内 進 小宮富美子 橋本安義 姫野綾子 中野正英 山本勝通 高原志朗 河野三樹 後藤秀一 梶川芳信 梅田潤子 江藤昌子 津田恭男 高山詩美 田島貞子 星名公正 本田信正 山田和寿 佐藤サチ 佐藤英子 増本貴光 立川由美 辻さやか 松本輝子
平成15年度	神 繁司	金子 齊	総務課(管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 福田快次 佐藤サチ 一宮美和子 平田富美子 田原広信 小宮富美子 橋本安義 山本勝通 中野正英 宗 千晶 志賀泰子 改木真也 後藤秀一 佐知浩幸 津田恭男 梶川芳信 姫野綾子 田島貞子 龍現寺敏子 山田和寿 江藤昌子 松本輝子 佐藤英子 増本貴光 立川由美 高原志朗 辻さやか
平成16年度	神 繁司	麻生 祐治	総務課(管理係) 企画協力課(企画管理係・市町村協力係) 奉仕第一課(館内係・児童係・逐次刊行物係) 奉仕第二課(調査相談係・郷土資料係) 宮崎則夫 大久保誠司 平田富美子 田原広信 小宮富美子 橋本安義 首藤洋一 衛藤 豪 立川由美 一宮美和子 後藤秀一 津田恭男 梶川芳信 宗 千晶 阿部詠子 佐知浩幸 志賀泰子 田島貞子 江藤昌子 林 伸治 改木真也 佐藤英子 長野芳子 増本貴光 萱島香苗 梅田潤子 辻さやか 龍現寺敏子

(『大分県職員録』より)

11. 参考資料一覧

記述は原則として大分県立図書館目録どおり、編著者と出版者が同一の場合は出版者を省略、刊行年は1945（昭和20）年以降は西暦とした。なお主要な資料については書名・誌名の変遷を付記した。

〈県政・教育関係〉

- 大分県総務部調査課編『大分県勢の概要』昭和23年度版：1949～、大分県総務部（編者・出版者に変更あり）
大分県総務部調査広報課編『県政のあゆみ』昭和34年版：1959～（編者・出版者に変更あり）
大分県教育会編『大分県教育五十年史』大正13
大分県教育団体維持財団編『大分県教育会史』1969
大分県教育百年史編集事務局編『大分県教育百年史』全4巻、大分県教育委員会、1976
大分県教育委員会編『大分県の教育 10年のあゆみ』1959
大分県教育委員会編『大分県の教育 20年のあゆみ』1968
大分県教育庁総務課編『大分県の教育 30年のあゆみ』1978
大分県共立教育会編『大分県共立教育雑誌』第1～699号：明治18.1～昭和19.8（編者・誌名・出版者に変更あり、複製あり）→『大分県共立会教育雑誌』→『大分県教育雑誌』→『大分県教育』
『教育おおいた』大分県教育委員会、1949～（編者・出版者に変更あり）
大分県教育会編『大分県学事関係職員録』塚本秀雄、昭和8～（編者・書名・出版者に変更あり）→『大分県学校関係職員録』→『大分県教職員録』

〈図書館関係一般〉

- 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会編『図書館年鑑』日本図書館協会、1982～
日本図書館協会編『近代日本図書館の歩み 本篇』1993
日本図書館協会編『近代日本図書館の歩み 地方篇』1992
国立国会図書館五十年史編纂委員会『国立国会図書館五十年史 本編』国立国会図書館、1999
西日本図書館学会編『九州図書館史』千年書房、2000

〈大分県内図書館・大分県立図書館関係〉

- 大分県立図書館刊行物については、第3章資料編「7. 大分県立図書館主要刊行物一覧」（p.180）も参照のこと。
梅木幸吉『大分県図書館史 歴史とその現況』1986
大分県公共図書館振興策検討委員会編『大分県公立図書館の振興策に関する報告書 豊の国一村一館への道』1995
『大分県新県立図書館等の基本構想に関する報告書』新県立図書館等基本構想検討委員会、1990
大分県立大分図書館編『大分県立大分図書館日誌原稿』明治13.4～昭和49.3.30
大分県立大分図書館編『大分県立大分図書館要覧 創立五十周年記念』1953
大分県立大分図書館編『[大分県立大分図書館] 要望事項』1959
大分県立大分図書館編『[大分県立大分図書館] 概況報告並びに要望書』1963
大分県立大分図書館編『大分県立大分図書館要覧』昭和54年度：1979～（誌名に変更あり）→『大分県立図書館要覧』
大分県立大分図書館編『大分図書館』第1～81号：昭和7.5～14.8
大分県立大分図書館編『大分県立大分図書館報』第1巻第1号：1947.8～（誌名に変更あり）→『大分中央図書館報』
→『まぐのりあ』→『図書館おおいた 大分県立大分図書館報』→『図書館おおいた 大分県立図書館報』

- 大分県立大分図書館奉仕課編『やまばと通信』創刊号～45号：1976.4～1982.1
- 大分県立大分図書館児童室編『としょかんおおいた児童室だより』No.17：1982.6～（編者・誌名・出版者に変更あり）→『としょかんおおいたじどうしつだより』→『こどもしつだより』
- 大分県教育庁職員組合図書館分会編『職場通信』第1～81号：1966.10～1992.3
- 大分県立大分図書館編『九州地区図書館職員ゼミナール報告』昭和34年度，1960
- 大分県立大分図書館編『古文書解読講習演習資料』昭和45年度，1970（編集：赤峰重信）
- 大分県立大分図書館編『大分県読書感想文コンクール入選作品集』昭和54年～59年度：1980～1984
- 大分県立大分図書館編『野上弥生子賞読書感想文全国コンクール入選作品集』第1回（昭和63年度）～第15回（平成14年度）：1989～2003（編者・書名・出版者に変更あり）
- 大分県立図書館編『野上弥生子賞読書感想文全国コンクール講演集』2003
- 大分県立図書館編『レファレンス事例集 図書館を身近に』1996
- 『大分県教育百年史資料目録 県立図書館郷土資料』大分県立大分図書館，1975
- 大分県立大分図書館編『郷土資料目録 大分県立大分図書館所蔵一文書・記録の部』昭和53年3月現在，1978
- 大分県立大分図書館編『大分県郷土資料分類表（KDC）』第4版，1993
- 大分県立大分図書館編『大分県内関係新聞記事年表』昭和20～40年，1978

〈その他〉

- 福澤諭吉著『福澤諭吉書簡集』第2巻，岩波書店，2001
- 大分放送大分百科事典刊行本部編『大分百科事典』大分放送，1980
- 大分合同新聞社編『大分年鑑』昭和24，27，29，31年版：1949～1956
- 大分合同新聞文化センター・おおいた戦後50年編集室編『おおいた戦後50年』1995
- 神田文人・小林英夫編著『20世紀年表 決定版』小学館，2001
- 清原芳治編『総合年表20世紀・大分のあゆみ 明治34年～平成12年』大分合同新聞社，2001
- 金池尋常小学校保護者会編『金池尋常小学校五十周年記念誌』1938
- 大分県立第一高等女学校編『大分県立第一高等女学校創立三十周年記念誌』1930
- ムナカタ地図店編『6,000マップ大分市西部』2002

編集後記

○大分県立図書館は、明治35（1902）年5月24日に大分県共立教育会附属大分図書館として開館し、平成14年に100周年を迎えました。この節目に100周年記念事業の一環として百年史の刊行を企画し、この度、新館開館10周年にあわせて刊行することができました。

○編集は次のような方針で行いました。

- ・記述の範囲は、原則として明治35（1902）年から平成17（2005）年2月までとしました。
- ・構成は、「第1章 通史編」・「第2章 回想編」・「第3章 資料編」の三編としました。

・各章の構成は次の通りです。

「第1章 通史編」では、各節の扉ページでその時代の歩みを概観しました。また本文では、原則として左ページを年表とし、年表の理解を助けるために、右ページに主な出来事や新聞記事・写真等を配して、できるだけ見やすく、また資料としても利用価値のある誌面づくりにつとめました。

「第2章 回想編」では、建築家磯崎新氏をはじめ、多くの関係者の方々に寄稿していただきました回想やエピソードを収載しました。

「第3章 資料編」では、第1章及び第2章を補完するために、関連する諸資料を収録しました。

- ・月日の表記は太陽暦を用いましたが、明治5年までは太陰暦によりました。
- ・個人名は原則として敬称を省略させていただきました。
- ・記述は原則として当用漢字及び現代かなづかいを用いましたが、固有名詞・引用、その他やむを得ないものについては原典のままとしました。

○写真や新聞記事等で鮮明でないものがありますがご了承ください。

○編集委員の分担執筆というかたちをとったため、各節の構成が異なるところがありますが、執筆者の意図を尊重し、調整は最小限にとどめました。

○この百年史編集に当たって、寄稿していただきました全ての方々に感謝申し上げます。また、新聞記事・写真等の掲載を快諾していただきました各新聞社・出版社のご協力に感謝申し上げます。

〈編纂委員〉

河野 昭 夫（元県立図書館長）
佐藤 允 昭（別府大学附属図書館長）
瀬尾 信 子（元県立図書館奉仕第二課長）
狭間 久（県立図書館協議会委員）
吉田 豊 治（元県立図書館長）

〈編集委員〉

企画協力課	立川 由美	奉仕第二課	長野 芳子
奉仕第一課	後藤 秀一（編集委員長）		増本 貴光
	宗 千晶		萱島 香苗
	梅田 潤子		辻 さやか
	田島 貞子		龍現寺 紘子
奉仕第二課	佐藤 英子		

大分県立図書館百年史

発行日 平成17年2月28日

編集・発行 大分県立図書館
〒870-0814 大分市大字駄原587番地の1
TEL 097-546-9972

印刷 佐伯印刷株式会社
〒870-0844 大分市古国府1155の1
TEL 097-543-1211

大分県立図書館百年史
